

サルヲ得ヘシ、然ルニ強ヒテ納完セシメラル、カ、又ハ強
 ヒテ禁錮ニ換ヘラレタルモ、治罪法第四百六十六條ニ依
 リ、刑ノ執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシ、又其場合
 ニ由リテハ、其檢察官ニ對シ、官吏人民ニ對スルノ罪アリト
 シテ告訴シ、又治罪法第十七條ノ規則ニ從ヒ、要償ノ訴ヲ爲
 スコト得ヘキナリ、

〔第二七二號〕十四年第七十二號布告、第五條ニ曰ク、法律規
 則ヲ犯シタル者ニハ、刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ
 用ヒスト、又刑法第一百一條ニモ、違警罪ノ數罪俱發スルモ、
 其刑ヲ併科ストアリ、故ニ特別犯罪并ニ違警罪ノ數罪俱發
 ノ場合ニ於テハ、罰金ト科料トヲ併科スルコトアルヘシ、又科
 料ト科料トヲ併科スルコトハ、常ニアルヘキナリ、例ヘハ特別

犯罪ノ罰金二圓ト、特別犯罪ノ科料五十錢トヲ併科シ、又ハ
 科料五十錢ト科料十錢トヲ併科スルコトアルハ、其金額ヲ合
 算シテ禁錮拘留ニ換フヘキヤ、又ハ罰金ハ罰金ニテ禁錮ニ
 換ヘ、科料ハ科料ニテ拘留ニ換フヘキヤ、余曰ク併科スルノ
 主意ニ從ヒ、禁錮拘留ニ換ヘタルモ、亦禁錮拘留ヲ併科ス
 ヘキナリ、故ニ罰金二圓ト科料五十錢トヲ併科シタルモ、
 罰金二圓ハ禁錮二日ニ相當シ、科料五十錢ハ拘留一日ニ相
 當スヘシ、之ヲ合算シテ三日間犯人ノ身體ヲ拘束スヘキナ
 リ、但シ其名實ハ共ニ之ヲ正シセサルヘカラス、其二日ハ禁
 錮ニシテ其一日ハ拘留ナリ、而シ禁錮ハ禁錮場ニ留置シ、拘
 留ハ拘留所ニ留置スヘシ、而シ其順序ハ、重キヲ先キニシ、輕
 キヲ後ニスヘキナリ、或ハ實際ニ於テハ、禁錮場ト拘留場ト

同一ナルコトナキニシモアラサルヘシ、而シテ如此キ場合ニ在テハ、拘留ト禁錮トノ別ハ、殊ニ之ヲ正シセサルヘカラス、然ラレバ犯人逃亡シテ期滿免除ヲ得ントスルノ場合ニ至リテ、其何ノ期滿免除ニ當ルヤ、之ヲ知ル能ハサルヘキナリ、〔第三七三號〕或曰ク罰金ト科料トハ、其始ニ於テハ異ナルモノナレトモ、已ニ之ヲ言渡シタル後ハ、同ク財産ニ係ル一義務ナリ、故ニ之ヲ徵收スル所ニ於テ、其前後ノ順序ヲ正スニ及ハサルヘシ、亦實際ニ於テモ、同時ニ徵收シテ其區別ヲ爲スコトナシト聞ケリ、且ツ之ヲ禁錮拘留ニ換ヘタル所モ、亦同時ニ同所ニ於テ之ヲ行フテ可ナルヘシ、故ラニ禁錮場ヨリ拘留場ニ、犯人ヲ送致スルハ、實ニ徒勞ニシテ、犯人ニ於テモ亦之ヲ願ハサルヘキナリト、余曰ク然ラズ、若シ如此キコトナ

爲サハ、唯法律ノ正條ニ違フノミナラス、夫ノ期滿免除ヲ得ントスルカ如キ場合ニ至テ、如何トモスル能ハサルヘキナリ、重キヲ先キニシ輕キヲ後ニスルハ、當然ノ順序ニシテ、又第九十五條ニ依リ、法律ノ主意モ亦如此ナルヲ知ルヘキナリ、又偏ニ犯人ヲ送致スルノ煩勞ノミヲ避ケント欲セハ、例ヘハ若シ犯人罰金科料ヲ納完セス、禁錮拘留ヲモ受ケスシテ、逃亡スル如キコトアラハ、其逮捕ノ地ノ拘留所ニ於テ、之ヲ執行セハ、殊ニ便ナルヘキナリ、然レトモ此場合ニ於テハ、實際ニテモ禁錮ハ、禁錮場ニテ之ヲ受ケシムルナリ、故ニ煩勞タルト否トハ、論スヘキコトニアラス、蓋シ最初徵收スル所ヨリシテ、此順序ヲ正シ、先ツ罰金ヲ納完セシメ、次キニ科料ヲ納完セシムルヘキナリ、罪金科料ニ當タル特別犯罪ト他ノ罰金

科料ニ當タル犯罪トノミ俱發スルニアラス、又徒刑以下ノ體刑ニ當タル犯罪トモ、俱發スルコアルヘシ、而シテ此場合ニ於テ若シ特別犯罪ノ金刑ヲ禁錮拘留ニ換フルルキハ、常ニ此ニ論セシ所ノ如ク、其別ヲ立テ、之ヲ執行スヘキナリ、但シ何レノ場合ニ於テモ、罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者、監視ニ付スヘキナリ、其禁錮ノ日數ヲ、監視ノ期限ニ算入スヘキナリ、(附三五條)

〔第二七四號〕或曰ク、罰金科料ノ刑ニ處セラレ、猶豫限内ニ納完セサルキハ、檢察官ハ、禁錮拘留ニ換ヘンコトヲ求メ、而シテ裁判官ハ之ヲ命スヘキナリ、此場合ニ於テ拘留ニ係ルモノハ、當分ノ内ニ上訴ヲ許サ、ルヲ以テ、論スヘキコトナシト雖モ、禁錮ニ係ルモノハ、通常上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ、若

シ禁錮ニ換フルノ處分上ニ於テ、不當ノコアラハ、其處分ニ對シテ、亦上訴スルコトヲ得ヘキヤ如何、

〔第二七五號〕某論者曰ク、通常ノ規則ニ從ヒ、上訴スルコトヲ得ヘキナリ、凡シ裁判官ノ命スル所、禁スル所ハ、皆是レ裁判ナレハ、其裁判ノ不當ナルキハ、之ニ對シテ上訴スルコトヲ得ルハ、是レ言ヲ待タサル所ナリト、余思フニ、其説タル不當モ、亦甚シトイフヘキナリ、裁判官ノ命スル所、禁スル所ハ、悉ク皆裁判タルニアラス、第二十七條ニイフ所ノ、禁錮ニ換フルノ命令ノ如キハ、即チ其例ナリ、法文ニ曰ク、更ニ裁判ヲ用ヒスト、裁判ヲ用ヒサルノ言渡ハ、如何ソ之ヲ裁判トイフコトヲ得シ、若シ之ヲ裁判ナリトモハ、法文ニ所謂ル裁判ヲ用ヒストハ、抑亦何ノ意ソ、某論者ノ如キハ、法文ヲモ讀マズシテ、妄

ニ説ヲ爲スモノトイフヘキナリ、又禁錮ニ換フルノ命令ハ、
 已ニ裁判アリ、且ツ其裁判確定シテ、刑ヲ執行スルニ就テノ
 處分ナリ、此執行中ノ處分ニ對シテハ、決シテ上訴ヲ許サ、
 ルナリ、又若シ某論者ノ如ク、此命令ヲ裁判ナリトシテ、上訴
 ヲ許ス、トセハ、命令アリ、即時ニ禁錮ヲ執行スルヲ得
 ス、必ス常ニ其命令ノ確定スルヲ待タサルヘカテサルナリ、
 然レモ法律中未ダ曾テ如此キ規則アルヲ見ス、又事理ニ
 於テモアルヘキトニアラサルナリ、余ノ考フル所ニテハ、上
 訴ハ決シテ之ヲ許サスト雖モ、若シ禁錮ニ換フルノ命令ニ、
 不當ナル所アラハ、已ニ前ニモイヘシカ如ク、治罪法第四百
 六十六條ニ據リ、疑義又ハ異議ノ申立ヲ爲スヘキナリ、而シ
 此申立アルキハ、裁判所ハ更ニ之ヲ判決スヘキナリ、如此ク

ナランニハ、或ハ不當ノ命令アルモ、犯人ハ黙シテ其害ヲ受
 シルニアラサレハ、強ヒテ上訴ヲ許サスト雖モ、實際上更ニ
 不都合ナルヲナカルヘキナリ、

〔第二七六號〕 或又曰ク、罰金ノ刑ヲ言渡サレタル者、納完セ
 スシテ逃亡スルカ、又ハ之ヲ呼出スト雖モ、出廷セサルキハ、
 檢察官ハ犯人ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ公賣シ、以テ罰金ニ代
 フルヲ得ルヤ、又此場合ハ已ニ刑ノ執行ニ係ルヲ以テ、治
 罪法公判前ノ處分トハ、自ラ異ナルヘケレハ、直チニ犯人ヲ
 引致シ、又ハ建捕スルヲ得ルヤ如何、余曰ク犯人ニ財産ア
 ルキハ、之ヲ差押フルヲハ、妨ナカルヘシト雖モ、之ヲ公賣シ
 テ罰金ニ代フルヲハ、爲スヘカテサルナリ、法律ハ無辜ノ人
 ヲ害セサランカ爲メニ、禁錮ニ換フルノ規則ヲモ、設ケタル

トナレバ、已ムコトヲ得スハ、寧ロ禁錮ニ換フヘキナリ、犯人
 ノ在ラサルニ、公賣シテ其金ヲ以テ、罰金ニ充ツルキハ、或ハ
 他ノ人權者等ヲ害スヘキノ懼アルナリ、然レモ犯人等ニ在
 テ出廷セス、而シテ十分ノ資産アラハ、公賣シテ罰金ニ充ツル
 モ可ナリ、通常人權者ノ行フコトヲ得ヘキ處分ハ、檢察官皆之
 ナ行フコトヲ得ヘキナリ、又若シ犯人出廷ヲ肯ンセス、又ハ逃
 亡ノ懼アルキハ、直チニ引致スルコトヲ得ヘキナリ、治罪法ニ
 於テ金刑ニ當タル者ハ、直チニ引致スルコトヲ許サスト雖モ、
 違警罪ノ現行犯罪ニシテ、氏名住所分明ナラス、又ハ逃亡ノ
 懼アルキハ、直チニ引致スルコトヲ許セリ、(治一〇二條)搜查ノ
 片ニ於テスラ、尙ホ且ツ然ラ、況ンヤ裁判執行ニ際シテ、逃亡
 ノ懼アリ、又ハ其執行ヲ拒ムキニ於テチヤ、始ニ於テ爲スコ

ト得ルモノハ、終ニ於テ亦爲スコトヲ得ヘク、又輕小ナルコトニ
 於テ爲スコトヲ得ルモノハ、重大ナルコトニ於テ爲スコトヲ得ヘ
 キハ、是レ當然ノコトナリ、正條ニ依ラサレハ、爲ス能ハサルコ
 トハ、罪ヲ定メ刑ヲ科スルノ二事ノミナリ、其他ハ類ヲ推シ理
 ナ推シテ、比附援引スルコトヲ得ヘキナリ、又逃亡ノ懼アルキ
 ニ於テスラ、直チニ引致スルコトヲ得ルカ故ニ、已ニ逃亡シタ
 ルキハ、固トヨリ引致スルコトヲ得ヘキナリ、又況ンヤ禁錮ニ
 換フルノ命令アリシキニ於テチヤ、某論者ハ先ツ檢察官ノ
 求メニ由リ、裁判官ノ作りタル命令書ヲ以テ、禁錮ニ換ヘタ
 ル後ニアラサレハ、勾引スルコトヲ得ス、又逃亡ノキモ、禁錮ニ
 換ヘタル後、十五年二月十四日司法省丙第六號達、逃走ノ既
 決囚逮捕ノ手續ニ依ラサレハ、逮捕スルコトヲ得ストイヘリ、

其果シテ何ノ事由ニ基キシトナルヤ、余之ヲ解スル能ハサルナリ、

〔第二七七號〕 或又曰ク、科料ヲ拘留ニ換ヘタルキハ、固トヨリ論ナク、罰金ヲ禁錮ニ換ヘタルキト雖モ、其罪多クハ輕キモノニシテ、イハ、甚タ追究セズシテ可ナルヘキモノナリ、然ルニ其犯人逃亡シテ、數十里若クハ數百里外ニ在ラソニ、強ヒテ之ヲ原裁判所ニ引致スルトセハ、犯人ハ自ラ招クノ禍ナレハ、其受クル所ノ害ハ、置テ問ハスシテ可ナルヘシト雖モ、官ハ之レカ爲メニ許多ノ費用手數ヲ要シ、實際上甚タ不便ナルニ似タリ如何、余曰ク、此煩勞モ亦之ヲ避クルノ途ナキニハアラサルナリ、即チ裁判宣告書、又ハ換刑命令書ノ騰本ニ、添フルニ本人所在ノ地ニ於テ、直チニ其刑ヲ執行

スヘキノ囑托書ヲ以テシ、之ヲ各地ノ警察官ニ送り、其警察官ヲシテ本人ヲ其所在ノ地ノ檢察官ニ引致セシメ、而シテ此檢察官ヲシテ、之ヲ執行セシムヘキナリ、必シモ原裁判所ニ引致スルヲ要セサルナリ、

〔第二七八號〕 一圓ヲ一日ニ折算シテ、輕禁錮ニ換フト雖モ、已ニイヘルカ如ク、罰金ハ其多數ノ定ナキモノナルカ故ニ、其制限ナキニ於テハ、換フルニ數十年ノ禁錮ヲ以テスルカ如キトアルヘキナリ、然ルキハ禁錮ヨリモ輕キ罰金ニシテ、却テ禁錮ヨリモ重キニ至リ、大ニ刑ノ權衡ヲ失フヘシ、是レニ由リ法律ニ於テ、其制限ヲ立テ、罰金ニ換フルノ禁錮ハ、二年ニ過シルヲ許サ、ルナリ、

〔第二七九號〕 又罰金ヲ禁錮ニ換フルハ、固ト已ムヲ得サ

ルニ出タルコトニシテ、金圓ヲ以テ納完セシムルヲ本法トスルナリ、故ニ禁錮ニ換ヘタル後ト雖モ、本法ニ從ヒ金圓ヲ納ムルハ、法律ノ欲スル所ナリ、故ニ又禁錮限内之ヲ納メタルキハ、其經過シタル日數ヲ扣除シテ、禁錮ヲ免スルナリ、且ツ本人自ラ納メタルキノミナラス、親屬其他ノ者、代テ罰金ヲ納メタルキモ、亦同シ、親屬等ノ代償ヲ許スハ、是レ罰金ハ、體刑ニアラサルカ故ニ、本人ノ身ニ係ルモノニアラスシテ、其財産ニ係ルモノナレハナリ、金錢ハ人ノ互ニ交易スル所以ノモノナレハ、他人ニ之ヲ借受シテ、罰金ヲ納ムルハ、固トヨリ妨ナキコトニシテ、而シテ本人資力ナキキハ、必ス他人ノ力ニ依ラサレハ、納完スル能ハサルハ、理ノ當然ナリ、然レハ他人ノ代償スルハ、即チ是レ本人ニ、之ヲ借與スルト一般ノコトナ

レハ、之ヲ許サ、ルコトヲ得サルナリ、
 「第二八〇號」或曰ク、第二十七條第三項ノ法文ニハ、唯禁錮ヲ免ストノミアリテ、何官之ヲ免ストイハス、故ニ其執行ヲ司ル檢察官、之ヲ免シテ可ナルモノ、如シ如何、余曰ク然ラズ、其禁錮タル既ニ裁判官ノ命スル所ナレハ、之ヲ免スルモ亦必ス裁判官タルヘキナリ、何トナレハ命スルノ權アル者ハ、亦之ヲ免スルノ權アリト雖モ、命スルノ權ナキ者ハ、亦之ヲ免スルノ權ナケレハナリ、故ニ禁錮ヲ免スルキモ、亦之ヲ命スルキノ如ク、檢察官ノ求ニ因リ、裁判官之ヲ免スヘキナリ、

「第二八一號」或曰ク、罰金ヲ納完スルキハ、一圓ヲ一日ニ折算シテ、之ヲ禁錮ニ換ヘ、而シテ其禁錮ノ期限ハ、二年ニ過クル

トチ得ス、而シテ又禁錮限内ニ罰金ヲ納メタルキハ、其經過シタル日數ヲ扣除シテ、禁錮ヲ免スルノ法ナリ、然ルニ例ハ、茲ニ酒造隱蔽ノ如キ、特別法ノ犯罪アリテ、罰金千圓ニ處セシメ、之ヲ禁錮ニ換フルキハ、三年以上ニ至ルヘシ、今法律ニ依リ、減シテ之ヲ禁錮二年ニ換ヘ、而シテ已ニ禁錮三十日ヲ受ケシメタリ、此場合ニ於テ、千圓ノ内、七百圓、即チ二年ノ日數、七百三十日ノ内、已ニ三十日ハ經過シタル日數ナルヲ以テ、之ヲ扣除シ、餘ル七百圓ニ相當スル金額ヲ納ムルキハ、禁錮ヲ免スヘキヤ、將テ禁錮ハ二年ニ減スト雖モ、罰金ハ一千圓ナルヲ以テ、尙ホ九百七十圓ヲ納完スルニアラサレハ、禁錮ヲ免セサルヤ、余曰ク、罰金ヲ禁錮ニ換フルハ、萬已ムトチ得サルニ出ル處分ナリ、犯人ヲシテ故ナキノ僥倖ヲ得シムヘ

キニアラス、然ルニ七百圓ヲ納メテ、禁錮ヲ免セラル、キハ、犯人ハ二百七十圓ノ僥倖ヲ得ヘシ、而シテ是レ故ナキノ僥倖ナリ、故ニ三十日ニ相當スル金額、三十圓ヲ扣除シ、殘額九百七十圓ヲ納ムルニアラサレハ、禁錮ヲ免スヘカラサルナリ、〔第二八二號〕凡ソ金刑ハ、罰金科料ヲ問ハス、財産ニ係ルノ刑ナレハ、犯人死スト雖モ、財産ノ存スル限りハ、其相續人ヲシテ、之ヲ納メシメテ可ナリ、然レモ刑ハ一身ニ止マリ、罰ハ嗣ニ及ホサ、ルノ主意ヲ擴充シテ、犯人死スルキハ、其相續人ニ係リテ、罰金ヲ徵收スルコトナキナリ、(附二〇條)

〔第二八三號〕是レヨリ違警罪ノ刑ニ就キ、其處分ヲ論ゼン、違警罪ノ主刑ニアリ、拘留科料是レナリ、拘留ハ支那ノ律ニハ、見エサル刑名ナレモ、其語ノ史ニ見エシハ、漢書匈奴傳ノ

賛ヲ始トス、其文ニ曰ク、匈奴人民每來降漢、單于亦輒拘留漢使、以相報復ト、是レナリ、又佛國刑律ニモ、違警罪ニ就キ、別ニ刑名ヲ定メス、輕罪ト同ク、其刑名ヲおんぶりそんぬまんトイヘ、唯其刑期ニ長短ノ別アルノミナリ、我國ニ於テ、拘留ノ刑名ノ見エタルハ、六年七月十九日第二百五十六號布告、違式註違條例ヲ始メトス、今刑法ニ於テハ、違警罪ニ就テモ、亦別ニ其刑名ヲ設ケタリ、而シテ如此ク罪名ヲ異ニスル毎ニ、刑名ヲ異ニスルハ、罪名ニ因テ刑名ヲ知り、刑名ニ因テ亦罪名ヲ知ルノ便アルヲ以テナリ、

〔第二八四號〕 違警罪ハ取締上ノ罪ニシテ、多クハ、破廉耻ニ係リ、道德ニ戾ル所アルニアラス、唯世上ノ取締立タサルヲ以テ、之ヲ罪トシ罰スルノミナリ、而シテ其刑期モ亦甚ク短キ

モノナルヲ以テ、拘留ハ、唯拘留所ニ留置スルノミニシテ、定役ニ服スルヲナシ、其刑期ハ、一日以上、十日以下ニシテ、此刑法ニハ、各本條ニ於テ、皆其長短ヲ區別セリ、又刑法第二十八條ニハ、拘留所ニ留置ストアレトモ、監獄則ニハ、拘留場トアリ、而シテ又拘留場ニ留置スルノミナラス、留置場ニモ亦拘留ス、此拘留場、留置場ハ、各府縣ニ在リテ、警視總監又ハ府知事縣令ノ管理スル所ナリ、然レモ留置場ハ、本ト未決囚ナリ一時留置スル所ニシテ、或ハ裁判所ニ屬スルアリ、或ハ警察署ニ屬スルアリ、拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ、留置場ニ拘留スルハ、時宜ニ由ルノ便法ナリ、

〔第二八五號〕 違警罪ノ主刑ニハ、拘留ノ外、仍ホ科料アリ、科料ノ名ハ、古ニ見エス、徳川氏ノ時ニ過料ノ刑アリ、蓋シ科料

ハ即チ此過料ニ始マリシモノナルヘシ、明治維新ニ至リテハ、科料ハ十一年十月二十一日第三十三號布告ヲ以テ、從前ノ違式註違條例中ノ贖金ヲ改メテ、科料トセルヲ其始トス、又佛國刑律ニハ、違警罪ニ就キ、別ニ其刑名ヲ設ケス、輕罪ト同ク其金刑ヲ稱シテ、あまんどトイヘリ、加之佛語ニハ科料ニ相當スル文字ナキヲ以テ、我刑法佛文原稿ニモ、あまんどク語ヲ用ヒタリ、然レモ我國ニ於テハ、前ニイヘルカ如ク、已ニ德川氏ノ時ヨリ過料ノ名アルカ故ニ、刑法ニハ過チ科ニ改メ、之ヲ用ヒ以テ、違警罪ノ刑名ト、輕罪ノ刑名トヲ別ダレシナリ、科料ハ五錢以上、一圓九十五錢以下ニシテ、而シテ刑法ニハ、各本條ニ於テ、別ニ其多寡ヲ定メタリ、故ニ科料ノ數五錢以上、一圓九十五錢以下ハ、輕罪ノ罰金トノ別ニシテ、立法

上ノ制限ナリ、又輕罪ノ罰金ニハ、主刑附加刑ノ別アリト雖モ、違警罪ノ科料ニハ、此別ナシ、拘留ト併科スルモ、科料ハ常ニ主刑ナリ、故ニ違警罪ノ附加刑タルモノハ、唯沒收ノミナリ、(二九條)

〔第二八六號〕罰金ニ就キ、第二十七條ノ規則ヲ設ケタルト、同一ノ主意ヲ以テ、科料モ亦裁判確定ノ日ヨリ、十日内ニ納完セシメ、若シ其限内ニ納完セサルモ、一圓ヲ一日ニ折算シテ、拘留ニ換へ、其一圓ニ滿タサルモノ、亦之ヲ一日ニ計算スルナリ、(三〇條)又科料ヲ拘留ニ換フルノ手續モ、罰金ニ同シ、即チ更ニ裁判ヲ用ヒス、檢察官ノ求ニ因リ、裁判官之ヲ命シ、又其限内、本人又ハ親屬等、科料ヲ納完シタルモ、其經過シタル日數ヲ扣除シテ、拘留ヲ免ス、之ヲ免スルモ、亦檢察官

ノ求ニ因リ、裁判官之ヲ命スルナリ、然レモ科料ニ換フルノ
 拘留ニハ、其制限ナキヲ以テ、數罪俱發併科ノ場合ニ於テハ、
 許多ノ年月ニ涉リ、或ハ輕罪ノ禁錮ヨリモ長キコアルヘキ
 ナリ、唯實際上多シアラサルノミ、

〔第二八七號〕十四年十二月二十八日警視廳達、違警罪處分
 手續第六條ニ曰ク、科料ハ即時納完セシム、若シ即納スル能
 ハサル者ハ、刑法第三十條ニ依ルヘシト雖モ、其限内納完ス
 ルノ目的ナキ者ハ、刑法第二十七條ノ例ニ照シ、直チニ拘留
 ニ換フヘシト、故ニ刑法ニハ十日ノ猶豫ヲ與フト雖モ、此達
 ニテハ、之ヲ與ヘス、即納セシムルヲ以テ大ニ刑法ト相反ス
 ルニ似タリ、然レモ余思フニ、決シテ然ルニハアラサルヘシ、
 此達ハ、便宜ニ基キ、刑法第三十條ノ解釋ヲ爲シタルモノニ

過キサレハ、偏ニ之ノミニ依リ、嚴ニ即納セシムヘキニアラ
 ス、犯人ヲ勸誘シテ、成ルヘシ即納セシムルノミ、若シ犯人ニ
 於テ、限内到底納完スルノ目的ナキ旨ヲ申立ルモ、直チニ
 拘留ニ換フルナリ、所謂ル納完スルノ目的ハ、犯人ノ目的ニ
 シテ、裁判官納完セシムルノ目的ニハアラサルナリ、詞ニハ
 自ラ然スル詞ト、他ニ然セサスル詞トノ別アリ、混スヘガラ
 ス、若シ此自他ノ別ヲ混スルモ、直チニ法律ト相反スルニ
 至テ、是レ唯此處ノミナラス、總テ自他ノ別ニハ、注意セサ
 ルヘガラサルナリ、

〔第二八八號〕或曰ク、第七十一條ニ、據ルニ、罰金ヲ減盡シタ
 ルモ、科料ニ處ストアリ、罰金ヲ減盡シテ、科料ニ處スト雖
 モ、其罪ハ則チ輕罪ニシテ、輕罪裁判所ニ於テ、裁判スル所ナ

リ、然レモ已ニ科料ニ處スルモ、第三十條ノ例ニ據ルヘキヤ、余曰ク、然リ、如此ク罰金ヲ減盡シテ科料ニ處シ、又ハ十四年第七十二號布告ニ據リ、特別犯罪ノ罰金ヲ改メテ、科料ニ處スル如キ場合ニ於テハ、其罪ハ則チ輕罪ニシテ、其裁判所モ、亦輕罪裁判所ナリト雖モ、其刑ハ則チ違警罪ノ刑ナルヲ以テ、刑ノ處分方法ハ、違警罪ノ科料ニ準シ、總テ第三十條ノ例ニ據ルヘキナリ、

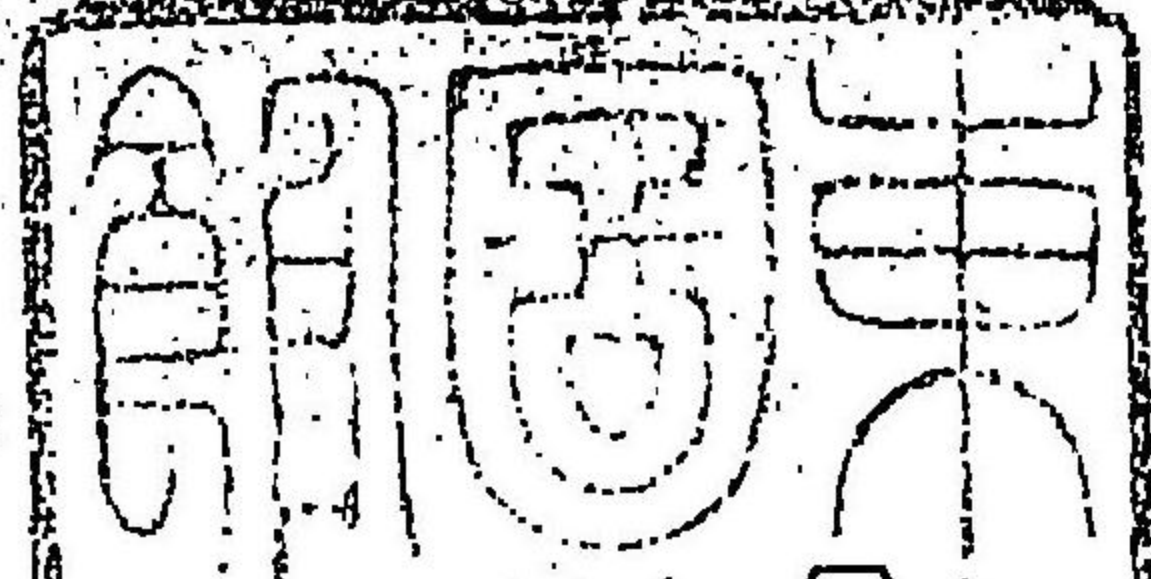
〔第二八九號〕或曰ク、例ヘハ茲ニ四個ノ警罪俱發シ、科料各二十五錢ニ處セラレ、納完スルコト能ハスシテ、之ヲ拘留ニ換ヘンニ、之ヲ合算スレハ、科料一圓ナリ、一圓ハ則チ一日ニ相當スルヲ以テ、四罪ノ科料ヲ合算シテ、一日ノ拘留ニ換フヘキヤ、將タ一罪ノ科料ヲ、一日ニ計算シテ、四日ノ拘留ニ換フ

ヘキヤ如何、余曰ク、各二十五錢ヲ合算スレハ、一圓ナルヲ以テ、一日ノ拘留ニ換フテ可ナルニ似ルト雖モ、其罪ハ四個ニシテ、而シテ違警罪ニハ、各其刑ヲ併科スルノ規則ナルカ故ニ、各二十五錢ヲ、一日ニ計算シテ、合シテ四日ノ拘留ニ換フヘキナリ、

〔第二九〇號〕或曰ク、科料ニ處セラレタル者、現ニ之ヲ納完スルノ資力ナシト雖モ、其本籍ノ地ニ還ルモ、之ヲ納完スヘキコトヲ申立テ、而シテ其本籍ノ地、遠クシテ、到底十日内ニハ、納完スル能ハサル場合ニ於テハ、十日限内ト雖モ、拘留ニ換フルコトヲ得ヘキヤ、余曰ク、法律ノ主意ハ、十日内ニ納完セザレハ、直チニ拘留ニ換ヘンコトヲ命スルニアラス、眞ニ納完スヘカラサル場合ニ至テ、茲ニ始メテ拘留ニ換フルノ主意ナ

リ、故ニ十日限内ニ在テハ、拘留ニ換フヘキニアラス、犯人ヲシテ本籍ノ地ニ還リタル後ニ、之ヲ納完セシムヘシ、而シテ檢察官ハ、犯人本籍ノ地ヲ管轄スル檢察官、警察官ニ囑托シテ、之ヲ徴收セシムヘキナリ、若シ本籍ノ地ニ還リテモ、尙ホ之ヲ納完セサルキハ、囑托ヲ受ケタル檢察官、警察官ハ原裁判所ノ檢察官ニ告ケ、而シテ後ニ禁錮ニ換フヘキナリ、然レモ犯人本籍ノ地ニ還リテ、納完スヘキコトヲ口實トスルノミニシテ、眞ニ納完スヘキ者ニアラスト思料スルキハ、檢察官ハ直チニ裁判官ニ求メテ、十日ノ後ハ即チ拘留ニ換フルノ命令書ヲ得テ、之ヲ本籍ノ地ノ檢察官、警察官ニ送りテ、其執行ヲ囑托スヘキナリ、若シ又本籍ノ地ニ還リテ、納完スルコトヲ口實トシテ、犯人逃亡シ、遂ニ十日ヲ過クルモ、納完スルコトナク

ンハ、裁判官ノ拘留ニ換ヘタル命令書ニ依リ、亦各地ノ檢察官ニ囑托シ、犯人ヲ逮捕シテ、拘留ヲ執行セシムヘシ、其拘留ハ犯人所在ノ地ニ於テ、之ヲ執行シ、原裁判所ニ之ヲ引致スルニハ及ハサルナリ、拘留ハ何レノ拘留所ニ於テ、之ヲ執行スルモ可ナリ、其他總テ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ例ニ同シ、故ニ茲ニ之ヲ贅セズ、



附加刑處分

第九一號 附加刑ハ、主刑ノ及ハサル所ヲ補フモノニシ

テ、其數總テ六アリ、剝奪公權、停止公權、禁治產、監視、罰金、沒收

是レナリ、此附加刑ハ、支那ノ法律ニハ見エス、又我國ノ法律

ニモ見エサル所ナリ、但シ唐律ノ除名、明律ノ除名當差、新律

綱領ノ追奪位記等ハ、稍ヤ剝奪公權、停止公權等ニ類スル所

アリ、又罰金ハ略ホ贖罪ニ似ル所アリ、然レモ是レ固トヨリ

皆同シカラサルモノナリ、唯沒收ハ東洋ニ於テ古來是レア

リシモノナリ、唐律ニ曰ク、諸彼此俱罪之賊、及犯禁之物、則沒

官、取與不和、若乞索之賊、竝還主ト、又新律綱領ニモ給沒贓物

ノ法アリ、又德川氏ノ時ニハ、闕所ナルモノアリキ、是レ皆今

ノ沒收ナリ、然レモ沒收ノ例ヲ定メタルハ、此刑法ヲ始ト爲

ス、是レヨリ刑法定ムル所ノ各附加刑ニ就キ、其處分方法ヲ論セシ、

〔第二九二號〕 剝奪公權ハ、佛國刑律ニ所謂ル、でぐらだまよん、まうくヨリ來リタルモノニシテ、でぐらだまよんハ、猶ホ剝奪位記トイハシカ如シ、其始メ羅馬ノ時ニ於テハ、僧尼ノ服飾ヲ奪ヒ、其位ヲ去ラシムル刑ヲ、でぐらだまよんトイヘリ、まうくハ、本ト都樣ノ意ナリ、轉用シテ、今此ニハ公權ノヲキイフナリ、剝奪公權ハ、佛國刑律ニハ、其第三十四條ニアリ、此刑ハ附加刑中ニ於テ最重ノモノニシテ、常ニ重罪ノ刑ニ附加シテ、又常ニ無期ノモノナリ、且ツ其主刑ハ、有期ノ刑ニテモ、剝奪公權ハ、尙ホ無期ノモノナリ、

〔第二九三號〕 歐洲ニテハ、剝奪公權ノ不良ナルヲ論スル

者アリ、其說ニ曰ク、剝奪公權ハ、懲戒ノ主意ニ悖リ、犯人ヲシテ自暴自棄ニ陥ラシムルモノナリ、即チ終身公權ヲ剝奪セラル、カ故ニ、犯人ハ、一回此刑ニ處セラル、キハ、復吾人ト齒スルヲ得サルナリ、凡ソ人ノ情タルヤ、互ニ其地位ヲ同クシ、共ニ相交ルヲ得レハ、コソ、自ラ戒メ自ラ務メテ、懲ヲ制シ、惡ヲ禁スヘケレ、若シ互ニ其地位ヲ同クシテ、共ニ相交ルヲ得スノハ、何チ苦ソテカ、自ラ戒メ、自ラ務メテ、懲ヲ制シ、惡ヲ禁スルヲ是レアラソ、必ス自暴自棄爲サ、ルナキニ至リヌヘシ、又曰ク、剝奪公權ハ、本ト分割スルヲ得ヘキモノナレト、今法律ニ於テハ、剝奪スル權利ヲ定メ、而シテ終身剝奪スルカ故ニ、分割スルヲ得サルナリ、國事犯罪人ナシテ、證人タルノ權ヲ失ハシメ、又古來ノ慣習ニ依リ、共ニ

天ヲ戴カサルノ譬ヲ復シタル謀殺人ヲシテ、兵籍ニ入ルノ
 權ヲ失ハシムルカ如キニ至ル、是レ實ニ其當ヲ得サル不良
 ノ刑ナリ、又曰ク、剝奪公權ハ平等均一ナラサルノ刑ナリ、凡
 ソ身分能力ニ關スル權利ハ、人皆之ヲ有スト雖モ、皆能シ之
 ヲ行フニアラス、或ハ進ント徴兵ニ出テントスル者アリ、或
 ハ務メテ之ヲ避ケントスル者アリ、或ハ好ント管財人教師
 等ト爲ラントスル者アリ、或ハ避ケテ爲ラサントスル者
 アリ、是等皆其人ニヨリテ異ナリ、然ルニ法律ニ於テハ、一般
 ニ此權ヲ剝奪ス、是レ實ニ平等ナラサルコトナリ、
 「第二九四號」余思フニ、其細目ニ至テハ、議スヘキモノナキ
 ニシモアラサレトモ、其大要ニ於テハ、剝奪公權モ、亦必要ノモ
 ノナルヘキナリ、概シテ、附加刑ハ、犯人ノ權利ヲ制限シテ、社

會ヲ保護シ、其安寧ヲ圖ルカ爲メニスルモノナリ、某論者カ
 述フル所、固トヨリ理ナキニアラス、然レモ其不都合ナリト
 スル所ハ、他ノ方法ヲ以テ、多クハ之ヲ避クルコトヲ得ヘキナ
 リ、即チ復權ナルモノアリ、以テ之ヲ避クルコトヲ得ヘキナリ、
 主刑ノ終リ、其效顯ハレテ、犯人果シテ善ク、過ヲ改メ善ニ移
 ラハ、將來ノ爲メニ、其失ヒタル權利ヲ復スヘキナリ、他日權
 利ヲ復セラル、ノ望アラントニハ、必シモ自暴自棄ニ陷ルヘ
 キニアラス、又之ヲ復スルニ當テハ、必シモ之ヲ分割スルコ
 トヲ要セサルナリ、又平等ナラスト雖モ、其人ニヨリテハ、之ヲ
 失フテ、大ニ警戒スル所アルヘシ、唯廉耻ヲ失フ者ノ如キハ、
 之ヲ剝奪スルモ、更ニ意トセサレハ、剝奪ノ效ナカルヘシ、是
 レ蓋シ已ムコトヲ得サル所ナリ、若シ剝奪公權ヲ有害無益ノ

モノナリトシテ、設ケスンハ、大ニ社會ノ安寧ニ害アルヘキナリ、概シ法ヲ干シ罪ヲ犯スカ如キ者ハ、信ヲ措クヲ能ハサル者ナリ、之ヲシテ公事ニ干涉セシメハ、多クハ事ヲ破リ害ヲ生スヘキナリ、例ヘハ盜ヲ犯シ、又ハ人ヲ欺罔シテ財ヲ取ル等ノ者ヲシテ、大臣參議タラシメハ如何、又國事犯人ノ類ハ、其國ヲ愛スルノ情ハ、厚カルヘシト雖モ、其時ノ政府ト、目的ヲ異ニスル者ナレハ、勢公事ニ干涉スルヲ禁セサルヲ得ス、然ラサレハ、必ス事ニ害アルヘキナリ、是レ剝奪公權ノ刑アル所以ナリ、剝奪スヘキ各權ニ就キ、尙ホ其所以ヲ述ヘン、

〔第二九五號〕 剝奪スル公權、九アリ、左ノ如シ、

一 國民ノ特權、

二 官吏ト爲ルノ權、

三 勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權、

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權、

五 兵籍ニ入ルノ權、

六 裁判所ニ於テ、證人ト爲ルノ權、

七 後見人ト爲ルノ權、

八 分散人ノ管財人ト爲リ、又ハ會社、及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權、

九 學校長、及ヒ教師學監ト爲ルノ權、

法律ニハ、以上ノ權利ヲ以テ、公權ト爲シ、而シテ之ヲ剝奪ストイヘル、其實ハ之ヲ剝奪スルニアラス、又剝奪ズヘカラサルナリ、唯法律ニ於テハ、之ヲ行フヲ禁スルノミ、第三十一條

ニ揭クル所ノ權利ノ如キハ、多クハ天賦ノモノニシテ、法律ノ與ヘタルモノニアラス、法律ノ與ヘタルモノハ、法律ニテ之ヲ剝奪スルヲ得ヘケレトモ、法律ノ與ヘサル所ノモノハ、法律ニテ之ヲ剝奪スル能ハサルナリ、又法文ニハ皆權トアレトモ、他ノ人權物權ナドイフキノ權トハ、稍ヤ異ナリテ、能力トイフヘキモノ多シ、能力ハ自然ニ人ノ身ニ備ハルモノニシテ、之ヲ剝奪センヲ欲スルモ、能ハサルモノナリ、

〔第二九六號〕 尙ホ是等ノ意ヲ明ナラシメン爲メ、茲ニ刑法ノ佛文原稿第三十九條ヲ直譯セン、

第三十九條 公權ノ剝奪(ふりわぎよんで、どろあ、ぎうく)ハ、刑人ニ對シテ、左ノ數件ヲ生スルモノナリ、

第一 一切ノ政權、其他(其性質又ハ法律ニ依リ)日本臣民

ノミノ特有スル權(どろあ)ヲ失フコト、

第二 政府一切ノ官職、及ヒ公ケノ一切ノ任用ヲ剝奪シ、禁止スルコト、

第三 一切ノ貴族稱、榮譽稱、及ヒ一切ノ日本國勳章ヲ剝奪スルコト、

第四 外國ノ勳章ナリトモ、總テ勳章ヲ日本ニ於テ佩用スルヲ禁スルコト、

第五 陸軍、海軍ノ日本兵隊中ニ用ヒラレ、及ヒ如何ナル兵器ナリトモ、之ヲ携帯スルノ無能力、

第六 他人ニ關係アル公私ノ文書ニ、證人トシテ捺印又ハ手署ヲ爲スノ無能力、及ヒ事實參考ノ爲メノ外、裁判所ニ於テ舉證スルノ無能力、

第七 無能力者ノ後見人、又ハ管財人タルノ無能力、但シ己レノ子又ハ卑屬ノ爲メニシテ、親族ノ許可アルモ、格別ナリ、

第八 分散人、會社、合會ノ財産、其他共同利益者ノ管財人、又ハ管理人タルノ無能力、

第九 私立ナリトモ、教授場ノ長、及ヒ其教師、監察人タルノ無能力、

如此少原稿ニハ、僅ニ第一ノ政權特權ニ、權ノ字アルノミニシテ、第二第三ハ、官職、任用、稱號、勳章等ヲ剝奪シ、其他ハ、總テ無能力ヲラシムルノミナリ、故ニ其文字ハ大ニ妥當ナリ、即チ政權特權ハ法律ノ與フル所ナレハ、又法律ニテ之ヲ剝奪スルコトヲ得ヘシ、官職、任用等モ、亦同様ナリ、其他ハ人ノ一身

ニ備ハルモノナレハ、唯無能力者トシテ、其有スル所ノモノヲ行ハシメサルノミ、且ツ兵隊ト爲リ、後見人ト爲ルカ如キコトハ、權トハイヒ難カルヘシ、凡ソ權ハ必ス既ニ得タルモノニシテ、而シテ他人ノ爲メニ左右セラル、コトナシ、故ニ權ハ之ヲ行ハント欲スルモ、常ニ之ヲ行フコトヲ得ヘキナリ、能力ハ、佛語ニ之ヲカバエテトイヒ、無能力ハ、之ヲエンカバエテトイヒテ、カバエテハ、其事ニ任フル力ナイヒ、エンカバエテハ、其事ニ任フルノカナキナイフナリ、故ニ我ニ其力アリト雖モ、我常ニ之ヲ行フコトヲ得ルニアラス、他ヨリ我ニ許サ、レハ、我之ヲ行フコト能ハサルナリ、一ハ專行スルコトヲ得テ、而シテ一ハ專行スルコトヲ得サルモノナリ、故ニ權利ト能力トハ、自ラ相異ナルモノナリ、

〔第二九七號〕 故ニ又之ヲ細論スルキハ、此中自ラ二種ノ別アリ、其一ハ天ノ與フル所ノモノニシテ、人ノ得テ奪フヘカテサルモノナリ、其一ハ人ノ與フル所ニシテ、人ノ得テ奪フヘキモノナリ、夫ノ政權、國民ノ特權、位記、貴號ノ類ハ、人ノ與フル所ナレハ、亦之ヲ奪フコトヲ得ヘシト雖モ、其能力ニ係ルモノハ、天ノ賦與シテ、人ノ自然ニ備ハル所ナレハ、得テ奪フヘカテサルモノナリ、兵器ヲ携帯スルノ能力、證人タルノ能力ノ類是レナリ、如此クナルカ故ニ、剝奪公權トハアレヒ、其實ハ公權タルニアラスシテ、剝奪スヘカテサルモノモ亦多シ、今法律ニ於テハ、其性質公權ニアラサレヒ、之ヲ公權ト同視シ、而シテ其執行ヲ禁止スルノミノコトナレヒ、亦之ヲ剝奪ストイヘシナリ、學者其語ヲ以テ其意ヲ害セサルヘシ、是レヨ

リ第三十一條ノ法文ニ就キ、其各項ヲ論ゼン、
 〔第二九八號〕 第一國民ノ特權○國民ノ特權トハ、其性質ニ依リ、又ハ法律ニ依テ、獨リ日本國民ノミ有スルコトヲ得テ、外國人民ノ有スル能ハサルモノチイフ、然リト雖モ、我國ノ法律未ダ備ハラサレハ、其大要ハ明ナレヒ、其細目ニ至テハ、詳ナラサルモノアリ、即チ國民トイヘヒ、日本國民タルノ身分、未ダ定ラサレハ、如何ナル人チ國民トイヒ、如何ナル人チ外國人トイフヤ、分明ナラサルナリ、父母共ニ我國ノ戶籍ニ在テ、我國ニ於テ生レ、而シテ又我國ニ於テ住居シ、己レモ亦我國ノ戶籍ニ在ル者ハ、是レ實ニ日本國民タルヘキナリ、然レヒ父母共ニ我國人ニシテ、而シテ其子モ亦我國内ニ於テ生レ、又我國内ニ住居スト雖モ、我戶籍ニ入ラサル者アリ、又父母共

ニ國人タリト雖モ、外國ニ於テ生レ、而シテ亦我戸籍ニ入ラサル者アリ、又父母共ニ外國人ニシテ、我國ニ於テ生レタル者アリ、或ハ父外國人ニシテ、母ハ我國人タリ、或ハ父我國人ニシテ、母ハ外國人タリ、而シテ我國ニ於テ生レ、又我國ニ住居スル者アリ、又父若クハ母、我國人ニシテ、而シテ外國ニ於テ生レタル者等アルヘシ、是等ノ場合ニ於テ、其國人タルヤ否ヤ、其身分未タ明ナラス、然レモ父母我國人タルキハ、其子ハ内國ニ於テ生レタルト否トヲ問ハス、又戸籍ニ登記セラレタルト否トヲ論セス、總テ我國人タルヘキナリ、何トナレハ子タル者カ、其父母ノ身分ニ從フヘキハ、當然ノコトナレハナリ、戸籍ハ一證據ニ過キサルモノニシテ、人ノ身分ヲ定ムル所以ノモノニハアラサルナリ、其他父母中ノ一人、外國人ニシテ、

而シテ其子私生タルキハ、概シテ母ノ身分ニ從フヘキナリ、六年一月十八日第二十一號布告ニ曰ク、妻妾ニアラサル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ、一切私生ヲ以テ論シ、其婦女ノ引受タルヘキ事、但シ男子ヨリ己レノ子ト見留メ候上ハ、婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ、其子、其男子ヲ父トスルヲ可得事ト、内外國人タルノ身分モ、亦此布告ニ據リ、之ヲ定ムヘキナリ、婚姻ヲ爲シタル者ハ、六年三月十四日第百三號布告ニ據リ、其身分ヲ定ムヘシ、其子ノ身分モ、亦此布告ニ據リ自ラ定マルヘキナリ、此區別ニ從ヒ、我國民タル者ノ特有スル權利ハ、是レ即チ國民ノ特權ナリ、内外國人タルノ身分ハ、刑法ニ於テ論スヘキコトニハアラサレモ、刑法ノ勢力並ニ治罪法第四十五條ノ規則等ニモ、關係スル所アルヲ以テ、茲ニ

之ヲ略論セシナリ、

〔第二九九號〕所謂ル國民ノ特權ハ、現今ノ法律ニ從ヘハ、府縣區町村會ノ撰舉權、被撰舉權ナリ、然レモ之ニ限ルニアラズ、凡ソ參政ノ權利ハ、皆是レ其性質ニ於テ、國民ノ特權ナリ、故ニ國會起ルキハ、其議員ニ撰舉セラレ、又ハ之ヲ撰舉スルノ權、又郡區長ニ撰舉セラレ、又ハ之ヲ撰舉スルノ權ノ如キハ、假令ヒ法律ニ明文ナキモ、其性質ニ於テ、國民ノ特權タルモノナリ、或曰ク、戶長ハ准官吏ノ部中ニ入り、國民ノ特權中ニハ、包含セサルモノナリト、余思フニ是レ誤解ナルヘシ、戶長モ亦國民ノ特權中ニ入ルモノナリ、何トナレハ外國人ニハ、戶長ト爲ルノ權ナケレハナリ、戶長ハ准官吏タルニモ、相違ナケレハ、強ヒテ其國民ノ特權中ニ入ルモノタルヲ、辦

スルニ及ハサルカ如シト雖モ、若シ之ヲ國民ノ特權中ニ入ラサルモノトスルキハ、戶長ヲ公撰スルキニハ、外國人モ之ヲ撰舉スルノ權ヲ有スヘシ、又剝奪公權人モ、之ヲ撰舉スルノ權アリトイハサルヘカラス、然レモ外國人カ之ヲ撰舉スルノ權ナキハ、固トヨリ言ヲ待タサルコトナリ、且ツ假令ヒ國人タリモ、剝奪公權ニ處セラレタル者ハ、戶長ヲ撰舉スルノ權ヲ失フヘキナリ、佛文原稿ニイヘルカ如シ、參政ノ權利、其他性質又ハ法律ニ依リ、日本臣民ノミノ特有スル權利ハ、皆之ヲ國民ノ特權トスヘキナリ、

〔第三〇〇號〕然レハ土地所有ノ權、土地賣買ノ權、國字新聞記者タルノ權、内地往來ノ權ノ類モ、法律ニ於テ、獨リ我國民ノミニ許シテ、外國人ニ許サ、ル所ノモノナレハ、亦是レ國

民ノ特權タルヘシ、剝奪公權ニ處セラレタル者ハ、此權モ亦之ヲ失フヤ如何、曰ク、是レ實ニ國民ノ特權ナリ、然レモ此權ハ剝奪スル限ニ在ラサルナリ、何トナレハ土地所有ノ權、土地賣買ノ權、新聞記者タルノ權ノ類ハ、人ノ私權ニ屬シテ、家産中ニ入り、内地往來ノ權ハ、人ノ自然ニ得タル能力ニシテ、共ニ皆公權中ニ在ラサルモノナレハナリ、國民ノ特權中ニ於テ剝奪スルモノハ、唯其公權ニ屬スルモノ、ミ、

〔第三〇一號〕 第二官吏ト爲ルノ權 ○佛文原稿ニハ政府一切ノ官職、及ヒ公ケノ一切ノ任用ヲ剝奪シ、禁止スルコトアリ、今法文ニハ官吏ト爲ルノ權トアレモ、是レ權ニハアラサルヘシ、何トナレハ官吏ト爲ラントテ求ムト雖モ、之ヲ命スルト否トハ、一ニ政府ノ意見ニ在リテ、人民ノ自由ニスルコト

ヲ得サルモノナレハナリ、故ニ官職任用ヲ剝奪シ、禁止スルトイフノ妥當ナルニ如カサルヘキナリ、又佛國刑律第三十條ニモ、總テ公ケノ官職、任用、又ハ役務ヲ、受刑者ニ剝奪シ、禁止スルコトアリテ、官吏ト爲ルノ權トハイハサルナリ、今官吏ト爲ルノ權トアレモ、其趣旨ニ至テハ、殆ント原稿ト同一ナルヘキナリ、故ニ刑人ハ將來官吏ト爲ルコトヲ禁止セラレ、ノミナラス、現任ノ官職モ亦之ヲ剝奪セラレヘキナリ、

〔第三〇二號〕 官吏ト爲ルノ權ハ、其性質ニ於テ、國民ノ特權タルモノナレハ、之ヲ特書スルヲ要セサルモノ、如シ、如何、曰ク、官吏ト爲ルノ權ハ、實ニ國民ノ特權ナリ、然レモ此權ハ國民ノ特權中ニ於テ、自ラ一種別格ノモノナリ、是レ之ヲ特書スル所以ナリ、而シテ原稿ニ就キ立案者ノ意ヲ推度スルモ

ハ、其所以去知ルベキナリ、即チ第一項ノ特權ナルモノハ、佛國刑律第三十九條第二項ニ所謂ル、投票、撰舉、被撰舉ノ權、竝ニ一切ノ公權、政權ニシテ、國民タリト雖モ、老幼男女ノ別ナシ、人民一般ニ有スルモノニアラス、而シテ又之ヲ有スル者ハ、法律ニ從ヒ、當然之ヲ行フヲ得テ、政府ノ命令ニ依ラサルナリ、今ノ所謂ル特權モ亦如此シ、十三年四月八日一五號布告府縣會規則一三條一四條然ルニ官吏ト爲ルノ權ハ、之ニ異ナリ、此權ハ、國民タル者ハ、老幼男女ノ別ナシ、皆之ヲ有スルヲ得ヘシ、丁年幼年ノ別ハ、九年四月一日第四十一號布告ニ是レアレヒ、此別ニ拘ハルヲナシ、幼者ト雖モ法律上官吏タルヲ得ヘシ、又實際ニ於テモ、幼者ニシテ官吏タル者少カテサルナリ、又婦女モ官吏タルノ權アリ、女官ハ無論、教

官等ノ中ニハ、婦女ニシテ之ニ任スル者多シ、官吏タルノ能力ハ、天賦ノ才德ニ備ハルモノニシテ、而シテ法律ニ於テモ、老幼男女ノ別ナシ、之ヲ認可スト雖モ、官職ヲ授クルト否トハ、一ニ政府ノ權内ニ在ルカ故ニ、此能力ハ法律ニ據リ、當然行フヲ得サルモノナリ、是レ國民ノ特權ト、官吏ト爲ルノ權トノ異ナル所ニシテ、而シテ法律ニ之ヲ特書シタル所以ナリ、〔第三〇三號〕又官吏タル身分ニ就テモ、分明ナラサルモノアリ、先ツ一等ヨリ十七等ニ至ル勅奏判任ハ、正官ニシテ、而シテ此外ニ亦四等アリ、之ヲ等外官吏トイフ、是レ皆眞個ノ官吏ナレハ、剝奪公權ニ處セラレタルモノハ、其現任ノ官職ヲ失ヒ、且ツ將來モ亦之ヲ禁セラルヘキナリ、然レモ御用掛、雇其他、郵便取扱人、學務委員、衛生委員等アリ、其果シテ官吏タ

ルヤ否ヤ詳ナラサルナリ、原稿ニ據ルキハ、政府一切ノ官職、及ヒ公ケノ一切ノ任用、ヲ剝奪シ、禁止スルコトアレハ、其名義ノ如何ニ拘ハラズ、總テ公務ニ干涉スルコトハ、之ヲ許サ、ルナリ、然ルニ法文ニハ、官吏トノミアルカ故ニ、其名義ニ就キ、疑義ヲ生スルニ至リタリ、余思フニ、御用掛雇員等ニ就テハ、區別ヲ爲スヘシ、九年二月十三日第十四號達ニ曰ク、各廳御用掛等ノ者、犯罪處分ノ儀、明治七年(六月二日)第七十一號ヲ以テ、相達置候處、右ハ相廢シ、自今御用掛ハ、俸給ノ多少ニ拘ハラズ、人品ノ等差ニ因リ、奏任、判任、等外官吏ニ準シ、取扱ノ區分ヲ定メ、採用ノ節、其旨辭令書ニ記載シ、平常身分取扱、並ニ犯罪ノ節、右ニ據リ處分可致、尤モ奏任官ニ準シ可取扱者ハ、採用罷免共、正院ニ可伺出、其餘備等ノ者ハ、官吏ニ準シ

不取扱、總テ本籍ヲ以テ處分可致云々ト、故ニ、御用掛ハ其辭令書ニ記載スル所ニ從ヒ、奏任判任等外ニ準シ、官吏ノ列ニ入ルヘシト雖モ、其餘備等ノ名義ニシテ、準官吏中ニ入ラサルモノハ、官吏タルニアラサレハ、剝奪公權中ニモ入ラサルヘキナリ、而シテ其準官吏中ニ入ルト否トハ、其辭令書ニ記載スル所ニ從ヒ、之ヲ判定スヘシ、又夫ノ戸長ノ如キハ、舊慣ニ據リ、且ツ治罪法ノ規則ニ從ヒ、之ヲ官吏トスヘキナリ、然レニ町村ノ學務委員、衛生委員、及ヒ戸長、附屬ノ書役ノ如キハ、官吏中ニハ入ラサルモノナリ、但シ證人ト爲リ、教師學監ト爲ル等ノコトヨリ、權衡ヲ取ルキハ、其平ヲ得サルモノ、如シ、若シ其權衡ヲ得シコト欲スルキハ、學事衛生等ノ規則ニ於テ、之ヲ禁ズヘキナリ、今刑法ノミニ依リ論スルキハ、公權中

ニ加ヘテ剝奪スルヲ能ハサルヘキナリ、
 [第三〇四號] 第三勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權、〇
 勳章トハ、一等ヨリ八等ニ至ル大小綬章、從軍記章、褒章等ヲ
 イフ、年金トハ、文武官吏ノ功勞ニ報エンカ爲メ、毎年下賜ス
 ル所ノ金圓ヲイフ、凡ソ帶勳者又ハ年金ヲ有スル者ニシテ、
 公權ヲ剝奪セラレ、又ハ停止セラレ、キハ、勳記、勳章、年金票、
 褒章ヲ収奪シ、其罪狀、刑名ノ宣告文ノ寫ヲ添ヘテ、之ヲ司法
 省ニ送致ス、十五年三月六日司丙九號達、同年四月十七日司
 丙一六號達、又其手續ハ、十六年九月十三日太政官第三十九
 號達、勳章、年金褫奪、及ヒ停止、取扱手續ニ從フヘシ、位記ハ、正
 一位ヨリ從九位ニ至ル十八等ノ位階ナリ、貴號ハ、皇族、華族、
 士族ノ門閥ノ稱ナリ、位記ヲ剝奪スルヲハ、即チ從前ノ追奪

位記ニシテ、貴號ヲ剝奪スルヲハ、即チ從前ノ除族ナリ、而シテ
 位記ハ、固トヨリ一身ニ止マルモノナレハ、之ヲ剝奪スルキ
 モ、亦唯其身ニ止マルヘシト雖モ、族ハ家ニ備ハルモノナレ
 ハ、戶主ノ族ヲ剝奪スルキハ、一家皆其族ヲ失フニ似タリ、又
 新律綱領ノ時ニハ、廢シテ庶人ト爲シ、一家實ニ其族ヲ失ヒ、
 タリ、然レモ改定律例ノ時ニ至リテ、廢シテ庶人ト爲ス者、改
 メテ除族ト稱シ、本犯一人ヲ除シ、族ハ子孫ニ襲カシムルコ
 ト爲レリ、今亦如此シナルヘキナリ、刑ハ一身ニ止マルヘキ
 モノニシテ、而シテ無辜ノ人ニ及ホスヘキモノニアラス、又裁
 判ノ效力モ、其宣告ヲ受ケタル者ニ止マリテ、他ノ之ヲ受ケ
 サル人ニ及フヘキモノニアラス、且ツ立法官ノ主意モ、實ニ
 如此シナリ、原稿第三十九條ニ、公權ノ剝奪ハ、刑人ニ對シテ、

左ノ數件ヲ生ストアリ、是レ受刑者一人ノミノコニシテ、他ノ無辜ノ人ニ及ハサルノ意明ナリ、故ニ本犯ヲ除スルノミニシテ、其家族ニハ、其族ヲ襲カシムヘキナリ、又恩給ハ、恩典ヲ以テ官ヨリ下賜セラル、金圓ナリ、即チ恩給例ニ因リ、陸海軍人ニ下賜セラル、モノ、其他官吏ニ下賜セラル、滿年賜金等ヲイフナリ、

〔第三〇五號〕學位、即チ博士、學士ノ如キ榮稱ハ、位記若シハ貴號中ニハ入ラサルヤ、又代言人、代書人タル能力モ、剝奪スル限ニ在ラサルヤ、如何、曰ク、學位ハ位記中ニ入ラス、又貴號中ニモ入ラサルヘキナリ、位記ハ從前ノ成語ニシテ、博士學士等ヲ指シタルノ例ヲ見サルナリ、博士ノ名ハ、官令中ニ在テハ官名ナリ、夫ノ大學博士、陰陽博士、音博士、醫博士、書博士

ノ如キ是レナリ、然レモ今ノ所謂ル博士ハ、官名ナルニアラス、又學士ノ名ハ、支那ニテハ、之ヲ官名トセリ、夫ノ翰林院大學士ノ如キ是レナリ、然レモ我國ニ於テハ、曾テ其官名タルコトヲ見サルナリ、又今モ官名タルニアラス、故ニ學位ハ剝奪スル限リニ在ラサルヘシ、但シ原稿ニハ、榮譽稱トアルカ故ニ、此榮譽稱中ニハ、學位モ入ルニ似タリ、榮譽稱ハ原語ニ、ちトどる、れのヒックトイヒ、博士ハ、どくつゝゝるニ當ルヘク、學士ハ、どさん玄トニ當ルヘケレモ、是等ハ所謂ルちトどる、れのヒックニハアラサルナリ、立案者カ原稿第三十九條ノ註解ニ曰ク、佛國ニ於テハ、官職ト貴族トニ拘ハラサル名譽ノ稱アリ、名譽議長、名譽議官、名譽法官、名譽教官等ノ類ニテ、多クハ老年又ハ疾病ニ由リ、其職ヲ辭シタル者ノ爲メニ、官府

カ其名稱ヲ與ヘテ、公ケノ儀式等ニ臨マシムルモノチイフ
トアリ、是レニ由リ以テ尋常ノ博士學士等ノコニアラサル
チ知ルヘキナリ、然レモ教師ト爲ルノ權ヲ失フカ故ニ、博士
學士ノ名稱ヲ有スルモ、其用ナキニ至リヌヘシ、又我國ニ於
テハ、博士學士ノ名稱ハ、世上ニ對シテ、別ニ其效アルニアラ
サルナリ、博士學士ノ名稱ナシト雖モ、敎官タルコトヲ得ヘシ、
裁判官、檢察官、代言人等モ、法律學士ニアラスシテ、皆之ニ任
スルコトヲ得ヘキナリ、佛國ノ如キハ、法律學士以上ノ人ニア
ラサレハ、法官タルコトヲ得ス、然ルニ如此ク學士ノ名稱ノ有
用ナル國ニ於テスラ、之ヲ剝奪スルコトナシ、然レハ其名稱ノ
殆ント無用ナル、我國ニ於テハ、決シテ之ヲ剝奪スルノ要ナ
カルヘキナリ、

〔第三〇七號〕 代言人ハ、官吏ニアラス、又位記、貴號中ニ入ル
モノニモアラサレハ、其權ヲ剝奪スヘキニアラサルカ如シ
ト雖モ、國民ノ特權中ニハ、入ルヘキモノナレハ、之ヲ剝奪ス
ヘキナリ、十三年五月十三日司法省布達代言規則ニハ、其國
民ノ特權タルヘキノ主意、顯ハレサルモノ、如クナレモ、代
言人タル者ハ、必ス日本人民ニ限ルヘキナリ、何トナレハ外
國人ハ、概シテ治外法權ヲ有スレハ、懲罰ノ規則ニモ循ハサ
ルヘケレハナリ、又出願ノ手續等モ、外國人ニハ適用スヘカ
ラサレハナリ、故ニ代言人タルノ權ハ、日本人民ノミノ特有
スル所ナルヘシ、是レニ由テ、代言人規則ニハ、盜罪、詐僞罪ニ
付キ、刑ヲ受ケタル者、懲役、禁獄、一年以上ノ刑ヲ受ケタル者
ハ、代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者トシ、而シテ國事犯罪ニ係

ル者ニハ、其免許ヲ得ルヲ許スト雖モ、刑法ニ從ヒ剝奪公權ヲ附加セラレタル者ハ、常事犯罪ト國事犯罪トノ別ナク、總テ代言人タルノ能力ヲ失フヘキナリ、然レモ夫ノ代書人ナル者ハ、之ニ異ナルヘシ、代書人ハ、裁判所ニ入出シテ、訴訟人ノ爲メニ、代テ訴狀等ヲ記スル者ナレモ、法律ノ認メタル者ニアラスシテ、世ニ筆耕ヲ以テ生業トスル者ト異ナルヲナケレハナリ、故ニ剝奪公權中ニ入ルモノニハアテサルヘシ、

〔第三〇六號〕 第四外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權○外國ノ勳章ハ、我政府ノ與ヘタルモノニアテサレハ、之ヲ剝奪スヘキニアラス、然レモ之ヲ佩用スルノ權ハ、我政府ノ與ヘタル所ナルヲ以テ、今唯此佩用ノ權ヲ剝奪スルノミ、故ニ外國ニ於

テ佩用スルハ妨ナシ、我政府カ、佩用ヲ許スハ、内國ニ於テノミノコニシテ、外國ニ於テ佩用スルコトハ、之ヲ授ケタル國ノ許ス所ナリ、是レ我國ノ勳章ト異ナル所ナリ、又外國ノ勳章ヲ受ケタル者ノ如ク、其身分取扱上ニ於テハ、別ニ優待ヲ受クルコトナシ、故ニ我國ノ勳章ヲ帶フル者、禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルモ、現行犯罪ヲ除クノ外、當該檢察官ヨリ、司法卿ニ具狀シ、司法卿其事由ヲ奏聞シテ、處分スト雖モ、外國ノ勳章ヲ帶フル者ハ、通常ノ手續ヲ以テ處分ス、是レ亦學者知ラサルヘカラサルコトナリ、十五年三月二十七日司

丙一一號達、同年十一月九日司法省同太政官指令、
〔第三〇七號〕 第五兵籍ニ入ルノ權○此權ハ、一面ヨリ之ヲ觀レハ、却テ國民ノ義務タリト雖モ、亦他ノ一面ヨリ觀ルル

ハ、自國ヲ保護シ、其干城タルハ、國民タル者ノ權ナリ、而シテ國
 家ヲ保護スルハ、其任實ニ重シ、如何シテ此重任ヲ以テ、法ヲ犯
 シ國ヲ害スルノ罪人ニ、負ハシムルヲ得ン、是レ之ヲ剝奪
 スル所以ナリ、加之原稿ニハ、兵器ヲ携帯スルノ權モ、亦之ヲ
 剝奪セリ、是レ更ニ復罪ヲ犯サンコトヲ恐レテナリ、然レモ今
 ノ法律ニハ此事ナシ、故ニ兵器ヲ携帯スルコトハ、之ヲ禁スル
 ヲ得サルナリ、故ニ銃獵免許ヲ得ル等ハ妨ナシ、

〔第三〇八號〕第六裁判所ニ於テ、證人ト爲ルノ權、○草案第
 三十九條ニハ、他人ニ關係アル公私ノ文書ニ證人トシテ、捺
 印又ハ手署ヲ爲スノ無能力、及ヒ事實參考ノ爲メノ外、裁判
 所ニ於テ舉證スルノ無能力トアリ、故ニ唯裁判所ニ於テ、證
 人ト爲ルノ能力ヲ失フノミナラス、凡テ公私ノ文書ニ證人

トシテ、捺印又ハ手署ヲ爲スノ無能力、及ヒ事實參考ノ爲メ
 ノ外、裁判所ニ於テ舉證スルノ無能力トアリ、故ニ唯裁判所
 ニ於テ、證人ト爲ルノ能力ヲ失フノミナラス、凡テ公私ノ文
 書ニ證人トシテ、捺印又ハ手署ヲ爲スノ能力ヲモ失フナリ、
 然ルニ今ノ法文ニハ、裁判所ニ於テ、證人ト爲ルノ權ト、アル
 ノミナレハ、裁判所外ニ於テ、證人ト爲ルコトハ、妨ナキニ似タ
 リ、然レモ今モ尙ホ草案ノ時ノ如ク、裁判所ノ内外ニ論ナク、
 總テ證人ト爲ルコトヲ許サ、ルヘキナリ、何トナレハ證人ノ
 證人タル所以ハ、裁判所ニ於テ、其認定セル所ヲ陳述シ、裁判
 所モ亦之ヲ以テ、證據トスルニ在リ、然ルニ裁判所ニ於テ、證
 人ト爲ルコトヲ禁スルキハ、他ニ於テ證人トシテ手署捺印ス
 ルモ、裁判所ハ之ヲ以テ證據トスルコトヲケレハナリ、又裁判

所ニ於テ言語ヲ以テ供述スルコトスラ、之ヲ禁スルニ於テハ、
證書ニ署名捺印シテ、證人ト爲ルコトハ、無論之ヲ禁スヘキナ
リ、故ニ文ニハ精疎ノ別アリト雖モ、其主意ニ至テハ、草案ト
異ナルコトナカルヘキナリ、

〔第三〇九號〕 某論者曰ク、裁判所ニ於テ證人ト爲ルコトハ、無
辜ノ爲メニハ、其冤ヲ雪キ、社會ノ爲メニハ、其惡ヲ除ク國民
ノ義務ナリ、然ルニ之ヲ禁スルキハ、其禁ヲ受クル者ノ爲メ
ニ害ナクシテ、其禁ヲ爲ス者ノ爲メニ損アルヘシ、此事ハ羅
馬以來因襲スルモノナレトモ、其本ト刑理ノ明ナラサルニ出
テシコトナリ、即チ惡ヲ疾ムノ甚クシテ、犯人ヲ辱メント欲ス
ルノ情ニ出テシコトナリ、又後世ノ立法者ハ、刑餘ノ人ハ、其言
信ヲ置クニ足ラス、若シ之ヲシテ證人タラシムルニ於テハ、

民刑ノ裁判上、其危險イソヘカラスト思惟シ、以テ之レカ禁
ヲ設ケタリ、然レモ裁判官ノ證ヲ採ルヤ、常人ノ供述ニ係ル
キナルモ、之ニ拘泥スルコトナク、證人ノ心實ヲ察シ、言語ノ終
始ヲ考ヘ、其採ルヘキ所ヲ採ルノミ、危險ノコトニ至リテハ、常
人ノ證言、或ハ却テ刑餘ノ人ヨリモ、甚シキモノアリ、何トナ
レハ容易ニ其言ヲ信スレハナリ、又刑餘ノ人ト雖モ、盡ク信
ヲ置クニ足ラサルコトアラズ、且ツ假ニ刑餘ノ人ハ、盡ク虚言
ヲ爲スモノナリトスルモ、其虚言却テ眞實ヲ得ルノ資ト爲
ルコトアルヘキナリ、故ニ證人タルコトヲ禁スヘキコトアラズ、又
立法者以爲テク、裁判所ハ公明正直以テ理非ヲ斷スル所ナ
リ、如何ソ刑餘ノ人ニ依リ、以テ理非ヲ別タント、然レモ理非
ヲ斷スルニハ、事實ヲ得サルヘカラス、而シテ事實ナルモノハ、

是ニ出ルト、彼ニ出ルトヲ論セス、實ナレハ即チ實ナリ、何ソ
 彼是ヲ撰フコトヲ須ヒン、若シ一大罪犯アリ、而シテ目撃シ
 タル者、唯一人ニシテ、而シテ其人即チ刑餘ノ人タリ、又大罪ノ
 証告ヲ受ケタル者アリ、而シテ其冤ヲ知ル者、唯一人ニシテ、而
 シテ其人即チ刑餘ノ人タランニハ、假令ヒ其者ノ供述スル所、
 明瞭正確ナルモ、信スルニ足ラズト爲シ、而シテ之レカ爲メ、
 大罪人ヲシテ刑ヲ免カレシメ、又無辜ノ人ヲシテ、罪ニ陷ラ
 シムルニ至ラハ、如何ナラン、蓋シ何人ト雖モ如此キコトヲ思
 ハ、証人タルコトヲ禁スルノ非ナルヲ知ラン、バンダーム曰
 ク、一犯人ニ小疵ヲ與ヘンカ爲メニ、劍ヲ以テ無辜ノ身ヲ貫
 ク、一個ノ處分方法アリ、裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權ヲ、剝
 奪スルノ刑是レナリト、

〔第三一〇號〕 論者又曰ク、此刑ノ結果ニハ、奇怪ナルモノアリ、
 刑法第百八十條ニ曰ク、裁判所ヨリ、証人トシテ證據ヲ陳
 述スルコトヲ命ゼラレタル者、故ナクシテ、之ヲ肯セサル時云
 々ト、又第二百十八條ニ曰ク、刑事ニ關スル証人トシテ、裁判
 所ニ呼出サレタル者、被告人ヲ曲庇スル爲メ、事實ヲ掩蔽シ
 テ偽證ヲ爲シタル時云々ト、又第二百二十條ニ曰ク、被告人
 ナシ陷害スル爲メ、偽證ヲ爲シタル者云々ト、又第二百二十二
 條ニ曰ク、偽證ノ爲メ、被告人死刑ニ處ゼラレタル時云々ト、
 然ルニ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ、裁判所ニ於テ、証人ト爲
 ルノ權ヲ失フカ故ニ、事實參考ノ爲メ、陳述ヲ爲スノミニシ
 テ、証人タルニアラサレハ、此諸條ノ事ヲ犯スモ、其罪ヲ論セ
 ラレズ、故ニ先ニ罪ヲ犯シタルカ爲メニ、後ニ惡事ヲ爲スモ、

其罪ナク其刑ナキニ至ルナリ、是レ此刑ノ結果ノ奇怪ナル所ナリ、是ニ由リ之ヲ視レハ、證人タルノ權ヲ剝奪スルコトハ、甚タ穩ナラサルコトナリ、故ニ之レカ解釋ヲ爲スニハ、務メテ其範圍ヲ狭クセサルヘカラス、故ニ保證人タルコトヲ得シムル等ハ無論、假令ヒ宣誓ヲ爲ス者ニテモ、正ク證人ノ語中ニ入ラサル通事ノ如キモノハ、皆之ヲ禁スヘガラサルナリト、〔第三一一號〕余カ觀ル所ハ之ニ異ナリ、余ハ固トヨリ人ニ依テ言ヲ爲スニハアラサレトモ、亦世間通行スル所ニハ、自ラ道理ノ存スルモノアルヘケレハ、先ツ玆ニ各國通行スル所ヲ掲ケ、次ニ余カ意見ヲ述フヘシ、佛蘭西、獨逸、埃及、伊太利、白耳義、魯西亞、普魯士等、皆證人ト爲ルコトヲ禁シタリ、加之獨逸魯西亞ヲ除クノ外ハ、明文ヲ掲ケテ、監定人ト爲ルコトヲモ禁

シタリ、故ニ證人ト爲ルコトヲ禁スルハ、各國ノ通行スル所ナリトイフテ可ナルヘシ、若シ果シテ某論者ノ説ノ如クナラシニハ、如此ク各國ニ於テ通行スルコトナカルヘキナリ、然ルニ如此ク各國ニ於テ通行スル所ヲ以テ、之ヲ觀ルキハ、自ラ當然ノ道理アルヘキナリ、〔第三一二號〕某論者ノ説ハ、一邊ニ辟スルモノニシテ、通論ニアラサルナリ、一大罪犯アリ、之ヲ目撃スル者、唯一人ニシテ、其人即チ刑餘ノ人タランニハ、如何ンカスヘキトイフカ如キニ至テハ、是レ極端ニ走リ、萬ニ一アルコトヲ舉ケ、以テ通常ノ事理、弊害ヲ顧ミサルモノナリ、夫ノバンクームカ如キモ亦然リ、若シ夫レ證人タルコトヲ禁セスシテ、今ノ如キ場合ニ於テ、偏ニ刑人ノ言ニ據リ、罪ノ有無ヲ斷定シ、而シテ若シ其

實チ誤ラハ、人夫レ之ヲ何トカイハン、刑人ノ言ヲ信セスシテ、一ニ裁判官ノ心證ニ因リ斷定セハ、假令ヒ之ニ誤アルモ、尙ホ可ナリトス、且ツ裁判官ハ已レカ心證ヲ主トスルモノナレハ、何ソ必シモ刑人ノ言ニ依リ、證ヲ採ルヲ須ヒン、又事實參考ノ爲メナレハ、刑人ノ言モ亦之ヲ聽クヲ得レハ、之ヲ以テ公然タル證人ト爲サスト雖モ、實際ニ於テ毫モ障礙ナカルヘキナリ、夫ノ幼年、丁年ノ如キモ、亦法律ノ定ムル所ナリ、若シ幼者ノ外、其事實ヲ目撃セル者ナカリセハ如何、法律ニ於テ、幼者ヲシテ證人タルヲ得シメサルヲ以テ、亦劍ヲ以テ無辜ノ身ヲ貫クトイフヘキカ、何ソ思ハサルノ甚シキヤ、

〔第三一三號〕 又刑法第百八十條、第二百十八條等ヲ引キ、以テ剝奪公權ノ結果ヲ奇怪ナリトスト雖モ、決シテ奇怪ナルニアラス、是レ固トヨリ當然ノコトナリ、獨リ公權ヲ剝奪セラレタル者ノミナラス、幼者ノ如キモ亦然リ、己ニ證人タルノ能力ナキ者トスルニ於テハ、偽證ノ罪ハ問フヘキニアラス、剝奪公權ハ前ニ罪ヲ犯シタルニ因ルト雖モ、己ニ之ヲ剝奪シテ無能力者ト爲スニ至テハ、他ノ無能力者ト同一ナラシメサルヲ得サルナリ、若シ之ヲモ奇怪ナリトセハ、治罪法第百八十一條ニ於テ、原被告ノ親屬、後見人、雇人ヲ以テ、無能力者トセシコモ、亦奇怪ナリトイハサルヲ得サルヘシ、何トナレハ其親屬タルノ故ヲ以テ、偽證ヲ爲スモ罪ナシトスレハナリ、法律ノ意思ハ、原告ノ親屬ナレハ、被告ヲ陷ル、モ、決シテ妨ナシトイフニアラス、又況ンヤ被告ノ親屬ニシテ、被

告ヲ陷ル、カ如キニ於テチヤ、是レ已ニ無能力者ト爲スニ於テハ、其理由ノ如何ニ拘ハラズ、法律上信ヲ置キテ聽クヘキ者ニアラストスルカ故ニ、其罪モ亦置キテ之ヲ問ハサルノミ、決シテ奇怪ナルコトニハアラサルナリ、故ニ證人タルコトヲ禁スルノ條ハ、固トヨリ當然ノモノナレハ、廣ク解釋シ、廣ク適用シテ可ナルヘキナリ、

〔第三一四號〕 故ニ余ハ通事、鑑定人、保證人等、總テ人ノ權利義務ニ關シテ、事實ヲ證明スルノ人タルコトハ、禁止中ニ在ルヘキコトヲ信スルナリ、法文ニ所謂ル證人トハ、其指ス所、甚タ廣キモノナルヘシ、凡ソ語ニハ專言ノモノアリ、片言ノモノアリ、夫ノ專言ノ仁、片言ノ仁トイフカ如キ是レナリ、今ノ所謂ル證人ハ、專言ノ證人ナリ、故ニ誓ヲ爲スト、爲サ、ルトニ

拘ハラズ、又其名義ノ證人タルト、否トチ論セズ、總テ事實ヲ證明スルノ人ト爲ルコトハ、皆之ヲ禁スヘキナリ、某論者曰ク、治罪法第百八十二條ニ據リ、通事ニハ宣誓ヲ要スルカ故ニ、公權ヲ剝奪セラレタル者ハ、通事タルヲ得スト論スルカ如キハ、尙ホ可ナリ、其刑法草案等ニ據リ、總テ保證人タルコトヲ禁ストイフニ至テハ、抑非ナリト、余思フニ、此說ハ法律全體ノ主意ヲ考ヘサルモノナリ、剝奪公權ヲ受ケタル者ハ、禁治產ヲ受クルカ故ニ、姑ク證人タル語中ニハ、保證人ヲ含蓄セストスルモ、剝奪力權ノ刑人ハ、保證人タルコトヲ得サルナリ、自己ノ財産ヲ處置スルノ能力ナキ者ナレハ、責ヲ負フテ、他人ノ義務ヲ保スルコト能ハサレハナリ、且ツ唯事實ヲ證明スルノミノ證人タルコトスラ、禁スルホトナレハ、事實ヲ證明

シテ、且ツ其責ニ任スルノ保證人タルコトハ、當然之ヲ禁セサルヲ得サルナリ、已ニ事ノ輕キモノスラ、之ヲ爲スノ能力ナシ、況ンヤ事ノ重キモノニ於テチヤ、

〔第三一五號〕第七後見人ト爲ルノ權、○後見人ハ無能力者ヲ監督スル者ナルヲ以テ、謹直ノ人ナラサルヘカラス、已レヲ修ムル能ハサル者、如何ソ人ヲ治ムルコトヲ得ン、唯人ヲ治ムルコトヲ得サルノミナラス、却テ人ヲ害スルノ懼アリ、是レ重罪ノ刑人ニハ後見人タルコトヲ禁スル所以ナリ、然レモ法律ニハ一變則テ設ケ、而シテ其子孫ノ爲メニシテ、且ツ親屬ノ許可アルキハ、刑人タリトモ、後見人タルコトヲ許シタリ、是レ子孫ノ爲メニシテ、而シテ親屬ノ許可ヲモ得シコトナレ、ハ、子孫ヲ害スルノ所爲ハ、勢是レナカルヘク、又之ヲモ禁スルニ於テ

ハ、却テ實際、子孫ノ爲メニ、不便ヲ生スルコトアルヘキヲ以テナリ、

〔第三一六號〕然レモ我國未ダ後見人ノ法制ナキカ故ニ、唯剝奪公權ニ關スルキノミナラス、總テ民事ニ關シテ、後見人タルノ方法細目、明ナラサルナリ、故ニ刑法ニハ、親屬ノ許可トアレモ、所謂ル親屬トハ、刑法ノ親屬例ノ親屬ノコナルヤ、將タ民法上ノ親屬ノコナルヤ、明ナラス、又親屬全體ノ許可ヲ得ヘキヤ、將タ其一人ノ許可ヲ得ルノミニテ可ナルヤ、亦明ナラサルナリ、又所謂ル民法上ノ親屬ノコトモ、詳ナラサルナリ、然レモ此親屬ハ、十五年五月十一日內務省伺太政官指令ニ、之ヲ定メタリ、其指令ニ曰ク、民法上ノ親屬トハ、各家祖先以來本支等ノ緣故アル者、及ヒ現今ノ續合アル者ヲ總

稱スル儀ト、可相心得事ト、今按スルニ所謂ル親屬トハ、民法上ノ親屬ニシテ、刑法ノ親屬ニハアラサルヘキナリ、或曰ク然ラス、刑法ニ於テ親屬ト稱スルモノハ、皆刑法ノ親屬例ノモノニ限ラサルヘカラス、然ラサレハ、親屬例ハ徒法ニ屬スヘシト、余曰ク、刑法中ニ於テハ、親屬例ノ親屬ヲ以テ、親屬トスヘキハ、當然ノコナレトモ、刑法書中ノコトニ係ルト雖モ、其事ノ民事ニ渉ルモノハ、民法ノ親屬ニ從フヘキナリ、今後見人ノコトハ、民法ニ係ルコナレハ、其親屬モ、亦民法上ノ親屬タルヘキナリ、然レモ太政官ノ指令ニイフ所ノ親屬ハ、其及フ所極メテ廣クシテ、之ニ依リ難シ、現今ハ未タ民法備ハラサルカ故ニ專ラ舊慣ニ依テ之ヲ定ムヘキナリ、故ニ各地ノ習慣ニ從ヒ、親類寄合ヲ爲シ、其許可ヲ得テ、後見人ト爲ルヘシ、而

ノ所謂ル親類寄合ニモ、一定ノ規則ナキカ故ニ、亦是レ其地方ノ習慣ニ從ヒ、便宜之ヲ爲スヘキナリ、若シ他日民法ヲ頒布セラル、コアラハ、其規則ニ從テ、親屬ノ許可ヲ受クヘキナリ、

〔第三一七號〕 或曰ク、若シ親屬ナキトハ如何、曰ク此場合ニ於テモ、制法ナキカ故ニ、未ク詳ナルコトヲ得サレトモ、他ニ親屬ノ之ヲ監督スル者ナキトハ、後見人ヲテシムヘキニアラサルナリ、若シ已ムコトヲ得スンハ、已レカ裁判ヲ受ケタル裁判所ニ請求シテ、其許可ヲ受クヘキナリ、何トナレハ剝奪公權ニ處セラレタル者ハ、亦治産ノ禁ヲモ附加セラレ、而シテ自己ノ財産スラ、自ラ治ムルコトヲ得サルコトナレハ、他人ノ財産ハ、假令ヒ子孫ノモノナリトモ、之ヲ治ムルコトヲ得サルヘキハ、當

然ハコナレハナリ、
 「第三一八號」第八分散者ノ管財人ト爲リ、又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權、○分散ハ即チ身代限ナリ、或ハ身代限トイヒ、或ハ身代分散トイヒ、又或ハ破産トイフ、皆同シ、明治三年七月四日外國官知事ヨリ、外國公使ヘノ達ニ、借主身代分散致シ候云々、明治七年七月三日第七十一號布告ニ、身代分散金云々、又明治九年八月一日第百六號布告國立銀行成規第五十一條ニ、一旦破産ニ遇ヒシ株主トアルカ如キ、是レナリ、然レモ身代限規則ニハ、管財人ナル者アルコト聞カス、管財人ハ佛語ニ之ヲ「セんぢく」トイヒ、分散者ノ財産ヲ管理スル者ニシテ、佛國商法第四百六十二條以下ニ載スル所ナリ、我國ニ於テハ、未タ其法備ハラスト雖モ、今刑法ニ由

リ、剝奪公權人ハ、身代限ノ處分ヲ受ケタル者ノ財産ヲ管理スルノ任ハ、之ヲ受クルコトヲ得サルナリ、
 「第三一九號」會社ハ、佛語ニ之ヲ「ソク」トイヒ、二人以上結合シテ、其財物ヲ醱集シ、而シテ商業、工業等ヲ爲ス所ノ名ナリ、會社ノ規則モ亦未タ備ハラサルナリ、僅ニ明治六年十一月二十七日第百六十八號大藏省達アレモ、是レ唯各地方管轄交渉ノ人民、結社スルキノ規則ニシテ、全體ノ會社タルモノ、法例ニハアラサルナリ、共有財産ハ、其語意甚タ廣シ、佛文原稿ニハ、あるばらまよん、其他えんてき、みきくらふトアリ、あるばらまよんハ、我民法草案第一條ニ所謂ル、合會ト譯セルモノナリ、又えんてき、みきくらふハ、集合シタル利益ノ義ニシテ、其名稱ノ有無如何ニ拘ハラズ、總テ衆人ノ互ニ財

ヲ醜シ、共ニ利益ヲ圖ルモノヲイフナリ、故ニ我國ノ俗ニ於テ、或ハ講トイヒ、或ハ組トイヒ、又或ハ連トイフカ如キ、總テ衆人互ニ財ヲ醜シテ、共ニ利ヲ圖ル集會ハ、皆此二語中ニ入ルヘシ、而シテ公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ、總テ此集會ノ財產ヲ管理スルヲ禁シタルナリ、今ノ法文ニ所謂ル、共有財產ヲ管理スルノ權トハ、蓋シ此集會ノ財產ヲ管理スルノ權ヲイフナリ、

〔第三二〇號〕 第九學校長、及ヒ教師、學監ト爲ルノ權、○學校ノ公立タルト、私立タルトヲ別タス、又其教フル所ノ道德ニ係ルト、藝術ニ係ルトヲ問ハス、總テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ、校長、教師、學監ト爲ルヲ許サ、ルナリ、而シテ之ヲ許サ、ルノ旨趣ハ、前二項ノ旨趣ニ同シ、凡ソ人ヲ教フル者

ハ、其教フル所ノ何タルヲ論セズ、方正篤實ノ人タラサルヘカラス、教育令ニ曰ク、品行不正ナルモノハ、教員タルコトヲ得スト、品行ノ正シカラサル者スラ、教員タルヲ得ス、況ンヤ重罪ノ犯人ニ於テチヤ、是レ此權ヲ剝奪スル所以ナリ、〔第三二一號〕 或曰ク、學校トハ如何ナルモノヲイフヤ、支那ノ書ニ據レハ、庠序學校ナドトイヒテ、今世間アル所ノ漢學教授所トイヒ、洋算教授所トイフカ如キモノトハ、異ナルモノニ似タリ、然レモ禮樂射御書數ハ、古ノ學校ニテ教フルモノニシテ、而シテ漢學教授所ハ、即チ是レ書ヲ教フル所、洋算教授所ハ、即チ是レ數ヲ教フル所ナリ、而シテ今ノ樂、尙ホ古ノ樂ノ如クナラシムニハ、三絃月琴ノ教授所ノ如キモ、亦是レ樂ヲ教フル所ナルヘシ、若シ果シテ之ヲ以テ學校ナリトセハ、

其人ニヨリテハ、剝奪公權ノ爲メニ、殆ント其生ヲ營ムコト能ハサルニ至ラン如何ト、

〔第三二二號〕 余曰ク、支那古昔ノ學制ハ、未ダ之ヲ詳ニセズ、然レモ今法律ニ所謂ル學校トハ、物ヲ教フル所ヲ廣ク指スニアラス、又教師モ物ヲ教フル人ナレハ、即チ之ヲ教師トイフニアラス、學校ハ物ヲ教フル所ノ總稱ナレモ明治十三年十二月二十八日第五十九號布告教育令ニ從ヒ、官ノ認可ヲ得タルモノニ限ルヘキナリ、故ニ私ニ物ヲ教フルモ、教師タルニアラス、教師タルニアラサレハ、其教場モ學校タルニアラサルナリ、官ノ認可ヲ得テ、公然教場ヲ開設シ、其教師タルコトハ、其教フル所ノ何タルヲ論セス、之ヲ禁止スヘシト雖モ、然ラサルモノハ、之ヲ禁止スルニアラス、故ニ圍碁三弦等ハ、

之ヲ教フルモ妨ナシ、又地方ノ例規ニ由リ、異ナルヘシト雖モ、琴三弦ノ如キ指南ヲ爲スニハ、營業稅ヲ納ムル地方モアリト聞ケハ、是等ノコトハ假令ヒ其看板ヲ掲ケテ、人ヲ教フルモ妨ナカルヘキナリ、況ンヤ又其看板ヲ掲ケサルモ於テナヤ、是レ偏ニ其生計ヲ營ムカ爲メニスルコトニシテ、官ノ認可ヲ經ルモノニアラサレハナリ、且ツ之ヲシモ禁止セハ、人ニヨリテハ、實ニ其生計ヲ營ムコト能ハサルニ至ラン、

〔第三二三號〕 剝奪公權ハ、終身ノ刑ニシテ、而シテ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ、別ニ裁判宣告ヲ用ヒス、法律上當然附加スルモノナリ、其裁判宣告ヲ用ヒサルハ、徒其煩ヲ避クルカ爲メノミナラス、其程度ノ一定セルモノハ、之ヲ宣告スルコトヲ要セサレハナリ、(第二九一號參看)又法文ニ注意スヘキ

モノアリ、重罪ノ刑ニ處セラレタルノ語、及ヒ終身剝奪スルノ語、是レナリ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者トイヒテ、重罪ヲ犯シタル者トハイハス、故ニ重罪ヲ犯スト雖モ、減等セラレテ、輕罪以下ノ刑ニ處セラレタル者ニハ、剝奪公權ヲ附加スルコトナシ、此刑ハ、重罪ヲ犯シテ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ限リテ、附加スルモノナリ、此外某ノ刑ニ處セラレタル者トアル所ハ、皆此意ヲ以テ之ヲ解スヘシ、(三二條)

〔第三二四號〕 又終身公權ヲ剝奪ストアリテ、主刑ノ終ル迄、之ヲ剝奪ストハ、是レナキナリ、故ニ已ニ論ヒシガ如ク、死刑ノ執行終リテ、蘇生スルコトアルモ、眞ニ其身ヲ終ル迄テハ、尙ホ公權ヲ剝奪スヘキナリ、(第二二二號參看) 又主刑ハ、期滿免除特赦等ニ因リ消滅スルモ、剝奪公權ハ之レカ爲メニ消滅

スルコトナシ、尙ホ必ス終身公權ヲ剝奪スルナリ、故ニ剝奪公權ハ、其主刑ノ有期ノモノタルキニテモ、必ス無期タルモノニシテ、而シテ、又其主刑ノ消滅スルキニテモ、消滅スルコトナキモノナリ、是レニ由テ剝奪公權ニ處セラレタル者ハ、其主刑ノ終ル迄、公權ヲ行フコトヲ得サルノミナラス、又其主刑ノ終リタル後ト雖モ、之ヲ行フコトヲ得サルナリ、故ニ剝奪公權ハ、刑人ノ死去スルカ、又ハ其復權ヲ得ルニアラサレハ、決シテ消滅スルコトナキモノナリ、

〔第三二五號〕 停止公權ハ、東洋ニテハ、曾テ見サル所ノ刑ナリ、此刑ハ、佛國刑律第四十二條ニ、輕罪ヲ裁判スル裁判所ハ、或ル場合ニ於テハ、公權、私權、親族權ノ全部、又ハ幾部ヲ行フコトヲ禁スルヲ得ト、アルヨリ來リタルモノニシテ、此停止公

權ヲ設クルノ主意ハ、剝奪公權トハ稍ヤ異ナリ、蓋シ剝奪公權ハ、犯人ノ奸惡ナルヲ以テ、之ヲシテ世人ト齒セシメサルノ意ニ基クモノナレトモ、停止公權ハ、專ラ刑期限内犯人ヲ拘束シテ、刑ノ效力ヲ嚴ナラシムルカ爲メニスルモノナリ、

〔第三二六號〕 法文ニ所謂ル禁錮ノ刑ニ處セラレタル者トハ、輕罪ヲ犯シテ禁錮ニ處セラレ、又ハ重罪犯ノ減等セラレテ、禁錮ニ處セラレタル者ヲ總稱ス、故ニ所犯ノ輕重罪ニ拘ハラズ、現ニ禁錮ニ處セラレタル者ハ、皆公權ヲ停止セラレハナリ、或曰ク、然ラハ本刑罰金ニ當ルト雖モ、之ヲ納完スルヲ能ハスシテ、輕禁錮ニ處セラレタル者モ、亦同ク其刑期限内ハ、公權ヲ行フヲ停止セラレハキヤ、余曰ク、是レ公權ヲ停止スルノ限ニ在ラサルヘシ、何トナレハ、第三十三條ニ所

謂ル禁錮ニ處セラレタル者トハ、其輕重禁錮ノ別ナキハ、無論ナレトモ、必ス裁判ヲ以テ禁錮ニ處シタル者ノミニ限ルヘキナリ、是レ第二十七條ニ輕禁錮ニ換フ云々、又更ニ裁判ヲ用ヒス之ヲ命ス云々ノ諸語ニ、注意セハ、其別アルヲ知ラシ、又法理上ヨリ考フルモ、固ト罰金ニ該ルモノニシテ、而シテ之ヲ禁錮ニ換フルハ、是レ已ムヲ得サルニ出ルナリ、此已ムヲ得サル處分ヲ爲メニ、其本刑ニ於テ受クヘカラサルノ、附加刑ヲ受クヘキノ理ナカルヘキナリ、

〔第三二七號〕 公權ヲ停止スルルハ、官吏タルノ權モ、亦之ヲ停止スルカ故ニ、現任ノ官職ヲ失フハ、當然ノコトニシテ、特ニ之ヲ記載スルニ及ハサルモノ、如シ如何、曰ク、之ヲ特書シタルハ、停止公權ハ、禁錮ノ刑期間ノミノモノナレハ、其滿限

ノ後ニハ、當然舊ニ復スヘシト雖モ、官職ニ限リテ、舊ニ復スルコトナキヲ示スカ爲メナリ、但シ如此ク明示シテ、官職ハ舊ニ復スルコトナシト雖モ、主刑滿限ノ後、更ニ新官ニ任スルハ、固トヨリ妨ナキコトナリ、

〔第三二八號〕 停止公權ニ就テモ、亦分明ナラサル所アリ、即チ第三十一條ノ處ニ於テ論ゼシカ如ク、第三〇三號參看官ノ爲メニ用ヒラル、者タリト雖モ、出仕、雇、其他ノ學務委員、衛生委員等ノ如キモノハ、之ヲ官吏トスヘキヤ否ヤ、分明ナラサルモノアリ、故ニ又其權利モ停止中ノモノナルヤ否ヤ、分明ナラサルナリ、佛文原稿第四十一條ニハ、ふんくまよん、(官職)及ヒあんぶるあ、びぶりく(公ケノ使用)トアリテ、官職ハ無論、公事ノ爲メニ用ヒラル、コトモ、亦之ヲ停止セシナリ、然

レモ今ハ一概ニ之ヲ停止スルコトヲ得サルヘシ、第三百三號ニ論ゼシ所ノ區別ニ從ヒ、剝奪公權ノ件ニ、剝奪スヘキモノハ、停止公權ノ件ニモ、亦之ヲ停止スヘシト雖モ、剝奪公權ノ件ニ、剝奪スヘカラサルモノハ、停止公權ノ件ニモ、亦之ヲ停止スヘカラサルナリ、

〔第三二九號〕 又佛文原稿ニテハ分明ナリシカモ、今分明ナラサルニ至リシモノアリ、即チ第三十一條第三項ノ權ハ、之ヲ停止スヘキヤ否ヤ、是レ分明ナラサルナリ、原稿第四十二條ニハ、此第三項ノ權ハ、停止ノ限ニアラストセリ、又草案ニモ如此クナリシナリ、然レモ今ハ此明文ナキヲ以テ、皆之ヲ停止スヘキナリ、勳章ヲ有スルノ權ヲ停止スルトハ、之ヲ佩用シ、其利益ヲ受收スルコトヲ停止スルナリ、然レモ是レ固ト

ヨリ其權ヲ行フコト、一時停止スルノミノコトニシテ、永ク其權利ヲ剝奪スルニアラサレハ、勳章ハ之ヲ沒收スルコトナカ
ルヘキナリ、但シ草案ノ如ク、停止ノ限ニアラストスルキハ、
之ヲ佩用シ、其利益ヲ受收スルコトハ、妨ナキカ如クニ、聞ユル
ノ懼アルヘキナリ、又今ノ法文ニ從ヒ之ヲ停止スルハ、當然
ノコトナルヘシ、何ト云レハ、外國ノ勳章スラ、尙ホ之ヲ佩用ス
ルコトヲ停止セリ、況ンヤ我國ノ勳章ヲ佩用スルコトニ於テチ
ヤ、

〔第三三〇號〕 位記、貴號ヲ有スルノ權ヲ停止スルトハ、刑期
間、位記、貴號ヲ稱シ、其利益ヲ受クルコトヲ停止スルコトイフ、位
記貴號ヲ有スル者ノ、實際受クヘキ利益ハ、甚タ輕微ナルモ
ノナリ、其最モ大ナルハ、禁錮以上ニ該ルノ罪ヲ犯シタルト、

直チニ之レカ處分ヲ受ケサルコト是レナリ、通常ハ、華族、帶勳
者、有位ノ者、禁錮以上ニ該ル罪ヲ犯スルハ、必ス先ツ其旨ヲ
司法卿ニ具狀シ、奏聞ヲ經テ後ニアラサレハ、處分セラルハ、
コトナシト雖モ、停止公權中ニ係ルキハ、其事ナクシテ、直チニ
處分セラルヘキナリ、

〔第三三一號〕 年金、恩給ヲ有スルノ權ヲ停止スルトハ、刑期
間、其金圓ヲ給與スルコトナキコトイフ、十六年九月十一日太政
官第三十七號達、陸軍恩給令、同第三十八號達、海軍恩給令、同
年十月二十九日大藏省無號達、賞勳年金渡方手續概則ニ從
ヒ、之ヲ停止ス、陸軍恩給令第六條ニ曰ク、恩給ハ公權剝奪ノ
時ハ、全ク之ヲ止メ、左ノ各項ニ該ル時ハ、其時間ノミ、之ヲ停
ム、一公權停止ノ時云々、又海軍恩給令第六條モ、亦全ク同文

ナリ、故ニ停止公權ノ期限間恩給ヲ下付セサルハ無論、其期限ノ後ト雖モ、之ヲ下付スルコトナカルヘキナリ、又十六年九月十三日太政官第三十九號達、勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續第一條ニ曰ク、勳章ヲ有スル者、左ノ項目ニ觸ル、キハ、榮譽ヲ汚辱シタル者トス、第一項重罪輕罪ノ刑ニ該ル者、但シ輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者ハ、其所犯ノ情狀ニ由ルト、故ニ刑法ニ於テハ、僅ニ停止スルニ過キスト雖モ、第三十九號達ニ從ヒ、重禁錮ニ處セラレタル者ハ、常ニ勳章年金ヲ剝奪セラレ、輕禁錮ニ處セラレタル者ハ、其情狀ニ由リ、或ハ之ヲ剝奪セラレ、或ハ之ヲ停止セラレヘキナリ、而シテ之ヲ停止セラレタルキハ、其犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留セラレタル日ヨリ、刑期終ルノ日迄、年金ヲ給スルコトヲ停止シ、而シテ後年金付與ノ

期月ニ至ルキハ、停止中ノ分ヲ控除シテ、其後ノ分ヲ付與ス、但シ公權ヲ剝奪セラレタル者、並ニ禁錮ニ處セラレ、キト雖モ、勳章年金ヲ剝奪セラレタル者ハ、其重罪輕罪ノ訴ヲ受ケテ拘留セラレタルキハ、其拘留ノ日ヨリ年金ヲ止メテ、其以後ノ分ハ、決シテ付與スルコトナシ、十六年十月二十九日大藏省無號達、賞勳年金渡方手續概則追加凡ソ刑ハ、裁判確定ノ後ニアラサレハ、之ヲ執行スルコトナシト雖モ、剝奪公權ノキハ、未決拘留ノ時ヨリ年金ヲ剝奪スルナリ、是レ一變則ニシテ、而シテ此變則ハ、實ハ刑法ノ處分ニハアラスシテ、勳章ヲ有スヘキノ榮譽ヲ汚辱セルニ基キタル賞勳上ノ處分ナルヘシ、以上論述セル所ハ、唯陸海軍人ノ恩給ノミナラズ、警視局員恩給ノ例ニモ、亦之ヲ適用スヘキナリ、

〔第三三二號〕 重罪ノ刑ニハ、終身公權ヲ剝奪スルカ故ニ、唯監視ノ期限間ノミナラス、終身公權ヲ行フヲ許サ、ルナリ、然レモ輕罪ニハ、第三十三條ニ於テ、唯其刑期間公權ヲ停止スルノミノヲナレハ、刑期滿限ノ後ニハ、當然公權ヲ行フヲ得ルニ至ルヘシ、故ニ又第三十四條ニ於テ、監視ノ期限間、公權ヲ行フヲ停止シ、且ツ第二百二十六條、第九十二條ノ場合ニ於テ、主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタルモ、並ニ無期刑ノ期滿免除ニ至リテ、監視ニ付シタルモ、亦同ク其監視ノ期限間、公權ヲ行フヲ停止セシナリ、是レ主刑ハ已ニ終ルト雖モ、監視中ノヲナルヲ以テ、公權ヲ行ハシムヘカラサレハナリ、

〔第三三三號〕 茲ニ一疑アリ、第三十三條ト、第三十四條トナ

参照スルニ、第三十三條ニハ、現任ノ官職ヲ失フヲ特書シ、以テ舊官ニ復セサルノ意ヲ明示セリ、然ルニ第三十四條ニハ、此語ナシ、第三十四條第一項ノ場合ニ於テハ、皆禁錮ニ處セラル、カ故ニ、現任ノ官職ヲ失フヲハ、論ヲ待タスト雖モ、其第二項ノ場合、即チ主刑ヲ免シテ、止タ監視ニ付シタル場合ニ於テハ、既ニ主刑ヲ免スルヲ以テ、禁錮ニ處セラル、コナシ、故ニ又第三十三條ニ從テ、現任ノ官職ヲ失フヲナカルヘシ、是レニ由リ主刑ヲ免セラレテ、止タ監視ニ付セラレタル者ハ、其監視ノ期限間ハ、公權ヲ停止セラル、ト雖モ、現任ノ官職ハ、之ヲ失フヲナク、刑期滿限ノ後ニハ、當然舊官ニ復セラル、モノ、如シ、是レニ缺典ナリ、然リト雖モ、是等ノ場合ニハ、必ス本屬長官ヨリ、其官職ヲ免スルナルヘキナリ、

〔第三三四號〕 禁治産ハ、東洋ニハ、曾テアラサル所ノ刑ニシテ、佛國刑律ニ所謂ル之ニテ、之を犯スル者ハ、法律上ノ禁止ト譯スヨリ來リタルモノナリ、此之を犯スル者ハ、法律上ノ之を犯スルニ二種アリ、一ハ重罪ノ刑ニ附加スルモノ、一ハ輕罪ノ刑ニ附加スルモノ是レナリ、佛刑二九條四二條而シテ、皆之を犯スル者ハ、即チ私權ヲ行フコトヲ禁止スルモノナリ、故ニ刑法草案第十五條ニハ、停止私權(佛語之ニハ、*deprivation*)セバ、之を犯スル者ハ、自ラ私權ヲ行ヒ、自ラ財産ヲ治ムルコトヲ得サルナリ、但シ佛國ト異ナリテ、我國ニ於テハ、禁治産ハ重罪ノ刑ニ附加スルモノニシテ、輕罪ノ刑ニハ、決シテ之ヲ附加スルコトナシ、(三五條)

〔第三三五號〕 禁治産ノ刑ヲ附加スルハ、是レ刑人タルノ身分ニ違ヒテ、又刑ノ效力ニ害アルヲ以テナリ、即チ若シ刑人ナシテ、自ラ隨意ニ財産ヲ處分セシムルニ於テハ、或ハ獄吏ニ賄賂ヲ行ヒテ、拘束ヲ免カレ、脱監ヲ圖リ、或ハ獄外ノ黨與ニ金圓ヲ贈リテ、再犯ヲ謀ラシムル等ノ弊害アルヘシ、是レ此附加刑アル所以ナリ、但シ茲ニ注意スル所アリ、法文ニハ、廣ク財産ヲ治ムルコトヲ禁ストアリ、又刑法草案ニモ、廣ク停止私權トアルカ故ニ、總テ私權ヲ行フコトヲ許サス、又總テ財産ヲ治ムルコトヲ許サス、ルカ如シト雖モ、自ラ此禁止ニ限界アルヘキナリ、即チ財産ヲ治ムルコトヲ禁シ、私權ヲ行フコトヲ禁スルトハ、財産ニ關シテ他人ト結約スルコトヲ禁スルノミノコトニシテ、財産ニ關スルキト雖モ、契約ニアラサルコトハ、

之ヲ許スヘキナリ、故ニ遺囑ノ贈與ヲ爲スハ、妨ナカルヘキナリ、又契約ヲ爲スト雖モ、其財産ニ關セサルモ、亦之ヲ許スヘキナリ、故ニ嫁娶ノ如キハ、之ヲ爲スモ妨ナカルヘキナリ、

〔第三三六號〕 自身財産ヲ治ムルコトハ、之ヲ禁スト雖モ、財産ヲ失ハシムルニ、ハアラス、又之ヲ失ハシムヘキニモアラス、ルナリ、故ニ他人ヲシテ、刑人ノ財産ヲ治メサルヘカラス、是ニ由リ刑人ノ爲メニ、其財産管理人ヲ定メサルヲ得サルナリ、然レモ刑人ハ已ニ私權ヲ停止セラル、カ故ニ、財産ニ關シテハ、自ラ此管理人ヲ立ルヲ得サルナリ、故ニ法律ニ於テ、之ヲ立ルノ方法ヲ定メサルヘカラス、然レモ法律ニハ、未タ此管理人ヲ立ルノ方法ヲ設ケス、唯明治十四年十二月

二十八日第七十三號布告ニテ、法律上ノ代人中ニ、禁治產者ノ財産管理人アルコトヲ認メタルノミナリ、故ニ犯人ノ財産ヲ保存スルノ途ナキノミナラス、或ハ他人妄ニ其財産ヲ使用シテ、終ニ損害要償ノ訴ヲ生シ、或ハ冒認シテ販賣交換スル等ノ犯人ヲ、更ニ生スルニ至ルヘシ、故ニ速ニ其法立タサレハ、終ニ大害ヲ生スルニ至ラン、但シ管財人ヲ設クルコトハ、民事ノ處分ニ係ルコトニシテ、而シテ後見人ヲ設クルト、一般ノ主意ニ出ルコトナレハ、事理ニ參シ、時世ニ考ヘ、後見人ヲ設クルノ舊慣ヲ用ヒテ、之ヲ設クヘキナリ、又若シ親屬ナキハ、郡區役所ニ於テ、刑人ノ財産管理ヲ擔任スヘキナリ、佛國ノ如キモ、此處分ニ就テハ、民法ニ讓リテ、刑法ニハ其規則ナシ、即チ民法第四百五條以下ニ其規則ヲ掲ケタリ、學者就テ視

ルヘシ、

〔第三三七號〕 法文ニ禁治産ハ、主刑ノ終ルマテトアリ、而シテ主刑ノ終ル事件、即チ其消滅ノ原由ハ、草案第六十八條ニハ、之ヲ定メタリト雖モ、今頒行ノ律文ニハ、之ヲ删除セリ、然レモ此之ニ拘ハラズ、第六十八條ノ第四項ヲ除クノ外ハ、理ニ於テ當然刑ノ消滅スヘキ原由ナレハ、此個條ハ今モ尙ホ存ストイフテ可ナリ、故ニ此ニ定メタル原由アルトキハ、主刑終リ、禁治産モ、從テ解クヘキナリ、又他事ニ關シテモ、刑ノ消滅セシヤ否ヤヲ知ルコトヲ要スルキハ、此條規ニ依リ之ヲ知ルヘキナリ、故ニ今茲ニ其律文ヲ掲ケン、

刑法草案第六十八條 主刑及ヒ附加刑ハ、左ノ條件ニ因テ消滅ス、

- 一 刑ノ執行、終リタル時、
 - 二 本犯死去シタル時、但已ニ宣告シタル罰金、科料、沒収ハ、此限ニ在ラズ、
 - 三 數罪俱發、一ノ重キニ從フタル時、
 - 四 將來ノ新法ヲ以テ、刑ヲ廢止シ、及ヒ減輕シタル時、
 - 五 治罪法ノ規則ニ從ヒ、再審ヲ以テ、前判ヲ廢シタル時、
 - 六 期滿免除ヲ得タル時、
 - 七 復權ノ許可ヲ得タル時、
 - 八 赦典ヲ以テ、刑ヲ減輕シタル時、
 - 九 大赦常赦特典ヲ以テ、刑ヲ免シタル時、
- 〔第三三八號〕 若シ以上ノ條件ニ因テ、刑ノ消滅セサル前、例ヘハ死刑ノ如キモ、其執行ニ至ル迄ノ間、又ハ主刑ノ期滿、免

除ニ至ル迄ノ間ニ於テ、他人ト財産ニ係ル契約ヲ結フ等ノ事アルモ、禁治産ヲ犯シタルモノナレハ、之ヲ取消サ、ルヘカラス、而シテ此取消ヲ請求スルノ權ハ、刑人、其財産管理人、及ヒ刑人ト結約シタル者ニ屬スヘシ、加之檢察官モ、亦之ヲ取消サシムルノ權アルヘキナリ、刑人ハ剝奪公權等ノ場合ニ於テ、公權ヲ行フモ、第百五十四條ニ據リ、更ニ罰セラルヘシト雖モ、禁治産ノ場合ニ於テハ、私權ヲ行フト雖モ、別ニ罰セラル、トナシ、但シ茲ニ注目スヘキ所アリ、刑人ハ取消ノ訴權ヲ有スト雖モ、刑ノ言渡確定シタル後ハ、已ニ無能力者ト爲ルヲ以テ、私訴ニ係ル此訴權ハ、自身之ヲ行フト得サルナリ、

〔第三三九號〕 又禁治産モ、他ノ刑ト同ク、裁判確定ノ時ヨリ

始マルカ故ニ、其確定前ニ爲シタル契約ハ、之ヲ取消スコトヲ得ス、又其確定以後ニ係ルモノニテモ、取消スコトヲ得サルモノアリ、彼ノ遺囑ノ如キ是レナリ、例ヘハ死刑ノ言渡確定シテ、行刑ノ際ニ至リ、其刑人遺囑ヲ爲サンニ、此遺囑ハ、之ヲ取消スヘキニアラス、何トナレハ、法律ニ於テ禁治産ヲ設ケタルノ主意ハ、安逸ヲ求メ、又ハ脱獄ヲ圖ル等ノ害アルヲ以テナリト雖モ、死刑ヲ行フノ後ニハ、決シテ如此キノ害アルヘキニアラサレハナリ、又遺囑ヲ爲スハ、生前ニ在リト雖モ、其效ハ死後ニ至リ、始メテ生スルモノニシテ、而シテ其遺囑ヲ執行スルモ、亦相續人ノ所爲ニ係レハナリ、

〔第三四〇號〕 禁治産ハ、主刑ノ終ルマテハ、之ヲ解クコトナキヲ常則トスト雖モ、流刑ノ囚、幽閉ヲ免セラレタルモ、又ハ其

他ノ囚、假出獄ヲ得タルキハ、行政ノ處分ヲ以テ、治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトアリ、(三六條、五五條)是レ幽閉ヲ免セラレ、假出獄ヲ許サル、キハ、其囚徒ハ、獄外ニ在テ、自活ノ途ヲ求メ、又島地ニ家屬等ヲ招シコトヲ得ルカ故ニ、其生計ヲ營マサルヲ得サルヲ以テナリ、然レモ、體ニ此禁ヲ解クニハアラス、生計ヲ營ムニ必要ナル私權ヲ指定シテ、之ヲ行フコトヲ許ルスノミ、然ラサレハ、終ニ又放恣淫逸ニ陷ラシムルニ至ルヘキナリ、

〔第三四一號〕 治産ノ禁ノ幾分ヲ、免スルノ手續ハ、法律ニ之ヲ定メタルノ明文ナシ、然レモ刑法附則第十二條ニ依リ、典獄ヨリ内務司法兩卿ニ具申シ、其允許ヲ得テ、之ヲ免スヘキナリ、又第三十六條、第五十五條ノ法文ニ、治産ノ禁ノ幾分ヲ

免スルコトヲ得トアルカ故ニ、或ハ之ヲ免スルコトアリ、或ハ之ヲ免セサルコトアリ、其免否ハ、一ニ行政官ノ權内ニ在ルモノ、如キ疑アリ、然レモ禁治産ハ、必ス之ヲ免セサルヘカラス、法文ニ得ノ字ヲ用ヒタルハ、是レ幾分ノ語アルニ因ルコトナリ、即チ其免スヘキノ部分ヲ定ムルコトハ、行政官ノ意見ニ任スルカ故ニ、得ノ字ヲ用ヒタルナリ、決シテ免否ヲ以テ、行政官ノ意思ニ、任スルノ主意ニハアラサルナリ、

〔第三四二號〕 又總テ他ノ刑ニ處セラレタル者、假出獄ヲ許ルサレタルキハ、第五十五條ニ據リ、治産ノ禁ノ幾分ヲ免シ、且ツ此場合ニハ、本刑期限内、特別ニ定メタル監視ニ付スト雖モ、流刑ノ囚免幽閉ヲ得タルキハ、特別ノ監視ニ付スルコトナシ、是レ流刑ノ囚ハ、國事犯人ナルヲ以テ、其心實ノ正キコト

ヲ、推測スルニ由ルヲナルヘシ、
〔第三四三號〕監視モ亦東洋ニハ、會テアテサリシ所ノ刑ニ
シテ、佛國刑律ニ所謂ル、ざるうやんそ、どら、か、と、ぼりそニ
リ來リタルモノナリ、今我刑法ニ於テハ、之ヲ以テ重罪輕罪
ノ附加刑ト爲シ、且ツ無期刑ヲ期滿免除、ヲ得タルトモ、亦
此刑ヲ用ヒタリ、三七條、三八條、三九條故ニ監視ハ、主刑ノ終
リタル後ニ於テ、仍ホ犯人ヲ檢束シ、以テ其悔改ノ實否ヲ勘
シ、而ソ再ヒ罪辟ニ陷ラサシムル所以ノモノナリ、故ニ附
加刑中ニテモ、監視ハ停止公權、禁治產等ト異ナリテ、主刑ノ
終リタル後ニ於テ、始マルモノナリ、通常ハ、何事ニテモ、主ノ
消滅スルトハ、從ハ自ラ消滅スト雖モ、監視ハ、之ニ反シテ、主
ノ消滅スルニ因テ、却テ生スルモノナリ、

〔第三四四號〕 有期重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ、其主刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間、又死刑、其他無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ニハ、五年間、法律ニ於テ、當然監視ヲ附加スルナリ、然レモ輕罪ニ就テハ、有意最モ惡ムヘシ、最モ害アルヘキモノニシテ、且ツ各本條ニ記載セル所ノ外、監視ニ付スルコトナシ、而シテ又此場合ニ於テハ、必ス裁判所ヲシテ、其期限ヲ定メテ、之ヲ宣告セシムルナリ、

〔第三四五號〕 有期重罪ノ刑ニ處セラレ、其主刑ノ短期三分一ノ時間、監視ニ付ス、所謂主刑トハ、現ニ犯人カ受クヘキ主刑ヲイフナリ、故ニ例ヘハ、有期徒刑ニ該ル罪ヲ犯シテ、此徒刑ニ處セラレヘキトハ、其短期十二年ノ三分一、即チ四年間、監視ニ付ス、然レモ若シ此罪ヲ犯スモ、減等セラレ

テ、重懲役ニ處セラルヘキハ、其短期九年ノ三分一、即チ三年間、監視ニ付スルナリ、又従犯、未遂犯、其他各本條ニ記載シタル加重減輕ノ場合ニ於テハ、固トヨリ其加減シタルモノヲ以テ、本刑ト爲シ、其短期三分一ニ等シキ時間、監視ニ付スルナリ、但シ何レノ場合ニ於テモ、法律ニ定メタル主刑ノ短期三分一ノ時間ニシテ、裁判官カ宣告スル主刑ノ期限ノ三分一ニハアラス、法文ニ所謂ル短期ノ語、注意スヘキナリ、又重罪ヲ犯スト雖モ、減輕セラルテ、輕罪ノ刑ニ處セラル、ハ、各本條ニ明文アルキノ外ハ、決シテ監視ニ付セラル、ナシ、況ンヤ其違警罪ノ刑ニ處セラル、キニ於テチヤ、

〔第三四六號〕 或曰ク、輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ、各本條ニ其明文アルキニ限ルヘシト雖モ、其個條ヲ視ルニ、或ハ單ニ

輕罪ノ刑ニ處スル者ト記スルモノアリ、或ハ減輕ニ因テ、輕罪ノ刑ニ處スル者ト記スルモノアリ、此減輕ニ因テ、輕罪ノ刑ニ處スルノ明文アルキノ外ハ、重罪ヲ犯シテ、減輕ニ因リ、輕罪ノ刑ニ處セラル、キト雖モ、監視ニ付スルコトナカルヘキヤ、將タ此明文ノ有無ニ拘ハラヌ、總テ輕罪ニ處セラレタル者ハ、監視ニ付スヘキノ科條アルキニハ、其減輕ニ因ルト否トチ別タス、一體ニ監視ニ付スヘキヤ、余曰ク、輕罪ニ就キ、監視ニ付スルノ明文アル個處、十二アリ、(一二〇條、一三五條、一九一條、二〇一條、二〇七條、二一二條、二九一條、三七六條、三八四條、三九四條、四〇〇條、四〇八條)而シテ減輕ニ因ルノ語アル個條ハ、僅ニ二ノミ、第二百七條、第三百八十四條是レナリ、此二條ニ限リ、減輕ニ因ルノ語アルハ、是レ其前數條ニアル

所ノ罪、皆重罪ナルヲ以テ、減輕スルニアラサレハ、輕罪ノ刑ニ處セラレ、トナキヲ以テナリ、其他ノ個條ニハ、其前數條ニアル所ノ罪、或ハ輕罪、或ハ重罪、相混淆スルヲ以テ、廣ク輕罪ノ刑ニ處シタル者トノミ記載セラレシナリ、其減輕ニ因ルト否トハ、別ツヘキニアラス、一體ニ皆監視ニ付スヘキナリ、蓋シ法理ニ於テモ、如此クナラザルヘカラサルナリ、輕罪ヲ犯シタル者スラ、監視ニ付スルナリ、況ンヤ減輕セラレ、ト雖モ、重罪ヲ犯シタル者ニ於テナヤ、但シ第四百七條ニハ、其前數條ノ罪ハ、皆重罪ナレトモ、輕減ノ語ナシ、故ニ其文例一様ナラサルモノモ亦是レアリ、然レモ此條ハ、全體ノ文例ヲ異ニスルカ故ニ、是レカ爲メ疑義ヲ生スルトナカルヘキナリ、又何レノ場合ニ於テモ、減輕シテ、違警罪ノ拘留ニ處スル

ルハ、決シテ監視ヲ附加スルトナカルヘキナリ、
 〔第三四七號〕 茲ニ一ノ注目スヘキトアリ、概シテ附加刑ハ、其主刑ノ加減セラレ、ニ從テ、又自ラ加減セル、モノニシテ、罰金禁治産ノ如キ皆然リ、且ツ監視モ、重罪ノ刑ニ附加スルモ、其主刑ニ從テ、自ラ加減セラレ、ナリ、然レモ獨リ輕罪ノ監視ハ、之ニ異ナリテ、主刑ニ從テ加減セラレ、トナシ、故ニ例ヘハ、第九十九條ノ場合ニ於テ、不正ノ印紙ヲ貼用シタル者アリテ、自首ヲ爲シ、又ハ未丁年者タル等ノ故ヲ以テ、其主刑タル罰金ハ、減輕セラレ、又ハ再犯加等ニ由リ、其罰金ハ加等セラレ、ト雖モ、其附加刑タル監視ハ、常ニ第二百一條ニ從ヒ、六月以上二年以下タルヘキナリ、

〔第三四八號〕 又第三十八條ニハ、但書ヲ爲シテ、各本條ニ記

載スルノ外、監視ニ付スルヲ得トセリ、然レモ同ク輕罪
 ノ附加刑タル罰金ニハ、此制限ナシ、故ニ罰金ハ裁判官ノ意
 見ニ從ヒ、如何ナル場合ニ於テモ、之ヲ附加スルヲ得ルカ
 如シ、然レモ決シテ然ルニアラス、亦必ス各本條ニ罰金ヲ附
 加スルノ明文アルキノ外、之ヲ附加スルヲ許サ、ルナリ、
 今第三十八條ニ限リ、此但書ヲ爲シタルハ、是レ唯重罪ノ常
 ニ監視ヲ附加スルモノト、之ヲ別ツカ爲メノミ、罰金監視ヲ
 附加スルトセサルトテ以テ、裁判官ノ意見ニ任スルノ主意
 ニハアテサルナリ、故ニ若シ各本條ニ、之ヲ附加スル明文ナ
 キ場合ニ於テ、裁判官之ヲ附加シタルキハ、無論、其明文アル
 場合ニ於テ、之ヲ附加セサルキモ、亦檢察官ハ、上訴シテ其裁
 判ノ誤ヲ正スヘキナリ、

〔第三四九號〕 前ニモイヒシカ如ク、監視ハ、犯人ヲ其放免ノ
 後ニ於テ、檢束スル爲メノモノナルヲ以テ、無期主刑ノ期滿
 免除ヲ得ルキト雖モ、仍ホ五年間ノ監視ヲ付シ、而シテ又第六
 十條ニ於テ、監視ハ、期滿免除ヲ得ストセラレシナリ、如此ク
 法律ニ於テハ、嚴ニ監視ニ付スルト雖モ、總テ無期主刑ニハ、
 最初ヨリ監視ニ付スルヲナキカ故ニ、不都合ノ結果ヲ生ス
 ルコアルナリ、即チ有期重罪ノ刑ニハ、第三十七條ニ於テ、最
 初ヨリ其短期三分一ニ等シキ時間、監視ニ付スルカ故ニ、特
 赦アリト雖モ、復權ナキニ於テハ、監視ヲ免カル、ヲ得サ
 ルナリ、然レモ無期刑ニハ、最初ヨリ監視ヲ付セサルヲ以テ、
 特赦ノキ、復權ヲ得サルモ、監視ヲ受クルヲナキナリ、是レ恐
 シハ權衡ヲ得サルコナルヘシ、刑法草案第四十七條ニハ、無

期刑ノ者、常赦特典ヲ以テ、免罪ヲ得タルキハ、十五年間ノ監視ニ付ストアリキ、故ニ赦典アリト雖モ、復權ナキ限リハ、十五年間ノ監視ニ付スルナリ、今之ヲ删除セラレシハ、何ノ主意ニ出テシコナルヤ、解シ難キコナリ、

〔第三五〇號〕 刑法附則第二章第二十一條以下ニ據リ、茲ニ監視ヲ執行スル方法ヲ略述セン、凡ソ監視ニ付スヘキ者アルキハ、豫メ其住所ヲ定メシメ、主刑ノ終リタル時、典獄ヨリ犯人ヲ最近ノ警察所ニ護送シ、其警察所ヨリ、住居ノ地ノ警察所ニ送致シテ、監視ヲ執行セシム、主刑ノ期滿免除ヲ得タル者、又ハ主刑ヲ免シテ、止メ監視ニ付シタル者ハ、其裁判所ノ檢察官ヨリ、犯人住居ノ地ノ警察所ニ護送ス、十五年八月十二日四二號布告何レノ場合ニ於テモ、犯人ヲ護送スルキ

ハ、監視ノ起算滿期ヲ記シタル文書、及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス、此場合ニ於テ、最近ノ警察官ハ、里程ヲ計リ、日數ヲ限定シテ、旅券ヲ付與シ、犯人ヲシテ到着ノ日、直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム、(旅券書式ハ、十五年三月二十二日、内乙一九號達)住居ノ地ノ警察所ニ於テハ、監視ノ期間、犯人ニ其遵守スヘキ條件ヲ讀聞カセ、監視票ヲ下付ス、(監視票ノ書式ハ、同上内乙一九號達)而シテ、警察官ハ、其期間、時宜ニ囚リ、犯人ノ家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ、

〔第三五一號〕 監視ニ付セラレタル者ハ、其期限間、左ノ條件ヲ遵守スヘシ、

- 一 毎月二度、所轄ノ警察所ニ到リ、其謹慎ナルコトヲ表シ、監視票ヲ出シ、官吏ノ認印ヲ受ク可シ、但疾病其他已ムヲ

得サル事故アリテ、警察所ニ到ル能ハサル時ハ、其事由ヲ届出ス可シ、

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ、又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許ルサス、

三 事故アリテ、其住居ヲ轉移セントスル時ハ、警察所ニ申請シ、許可ヲ受ク可シ、

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許ルサス、若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ、警察所ニ具申シ、許可ヲ受ク可シ、

〔第三五二號〕 警察所ニ於テ、轉住ヲ許可シタルキハ、其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ、且ツ監視ノ起算滿期ヲ記シタル文書、刑名宣告書ノ謄本ヲ送致ス、又他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ、其里程ヲ計リ、先方ノ地ニ滯留スル

時日ヲ算シ、往復日數ヲ限定シテ、旅券ヲ付與ス、犯人先方ノ地ニ到リタルキハ、其地ノ警察所ニ出テ、旅券ヲ示シ、官吏ノ認印ヲ受ケ、限定ノ日數内ニ歸來リ、直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ、又何レノ場合ニ於テモ、若シ途中ニ於テ、天災疾病等ニ因リ、臨時淹滞シタル時ハ、事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ、官吏ノ證書ヲ受ケ、歸著ノ日、旅券ニ添へ、警察所ニ差出ス可シ、

〔第三五三號〕 監視ニ付スル者、住居ナク、及ヒ引取人ナキキ、又ハ住居遠クシテ、歸著ノ資力ナキキハ、其期限間、監獄中ノ別房ニ留置シ、工業ヲ爲サシメ、又ハ使役ニ供ス、此場合ニ於テ、限内引取人ヲ得、又ハ資力ヲ得タルキハ、其地ニ送致シテ、殘期ノ監視ヲ受ケシム、茲ニ一疑義アリ、即チ監獄ノ別房ニ

加シテ、罰金ヲ納完セス、爲メニ之ヲ禁錮ニ換ヘタルキモ、主刑ノ禁錮ノ終リタル日ヨリ起算シテ、監視ヲ行ヒ、罰金ニ換ヘタル禁錮ノ終リタル日ヨリ、監視ヲ始ムルニアラス、故ニ此場合ニ於テハ、禁錮中ニ於テ、監視ヲ受クルナリ、(附則第三十五條)

〔第三五六號〕 又既ニイヒシカ如ク、第二百二十六條、第二百九十二條ノ場合ニ於テハ、主刑ヲ免シテ、止メ監視ニ付スルコトアリ、然ルキハ、監視ハ、其裁判確定ノ日ヨリ、之ヲ起算スルナリ、然ルニ、此場合ニ於テ、刑期計算ノコトニ就キ、一疑義アリ、刑期計算ハ、第五十一條ニ在リ、第五十一條ニ於テハ、刑ノ執行ハ、裁判確定ノ時ヨリスト雖モ、其刑期ハ、刑名宣告ノ日ヨリ起算シ、而シテ若シ上訴ヲ爲スキハ、其犯人ニ係ルト、檢察官ニ係

ルトナリ區別シテ、刑期ヲ計算ス、是レ一般ノ通則ナリ、然ルニ第四十條ニ於テハ、主刑ヲ免シテ、監視ニ付シタル時ハ、其裁判確定ノ日ヨリ、起算ストアルノミナリ、故ニ實地ノ執行ト、刑期ノ計算トナリ區別セス一體ニ裁判確定ノ日ヨリ、實地執行シ、刑期モ常ニ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキコトナルヤ將々第五十條、第五十一條ノ通則ニ循ヒ、區別ヲ爲スヘキコトナルヤ、詳ナラサルナリ、今按スルニ、止メ監視ニ付シタルノミノキト雖モ、必シモ上訴セサルニアラサレハ、第五十條第五十一條ノ區別ニ循フテ妥當ナリトス、或曰ク、然レモ監視ハ、一種特別ノ規則ヲ設ケタルモノナレハ、他ノ刑ニ比シテ、論シ難キニ似タリ、故ニ上訴ノ有無等ニ拘ハラス、總テ裁判確定ノ日ヨリ監視ヲ執行スヘク、亦其刑期ヲ計算スヘシ、蓋シ

法章ニ據ルニ、如此クナラサルヘカラサルナリ、且ツ原稿第
 五十條ニモ、其裁判確定ノ日ヨリ起算ストアルノミニシテ、
 他ノ刑ノ如ク、執行ト計算トチ區別セサルナリト、余曰ク、原
 稿ノ刑期計算ハ、今ノ法文ノ刑期計算トハ、大ニ異ナルモノ
 ナリ、故ニ此事ニ就テハ、原稿ニ據テ説チ爲シ難シ、第四十條
 ニハ、三個ノ場合ヲ掲ケテ、皆起算ストアレト、其實、執行スル
 コチイフナリ、主刑ノ終リタルキ、主刑ノ期滿免除ヲ得タル
 キニハ、固トヨリ是レ裁判確定シテ、刑ヲ執行シタル後ノコ
 ナレハ、法文ニ起算スト、記セラレタルモ亦理ナキニアラス、
 是レ茲ニテハ、起算ト執行ト、固ト同一ノコナレハナリ、故ニ
 又第四十條第二項ニ於テモ、其第一項ノ文例ヲ追フテ、亦起
 算スト記セラレタルナリ、所謂ル確定ノ日ヨリ起算ストハ、

第五十條ニ、刑ハ、裁判確定シタル後ニ非サレハ、之ヲ執行ス
 ルコチ得ストイヘルト、一般ノ意ナリ、是レニ由リ、裁判確定
 ノ日ヨリ、監視ヲ實地執行スルチ常則トスレト、若シ上訴シ
 タルキハ、第五十一條ノ區別ニ從ヒ、其期限ヲ計算スヘキナ
 リ、獨リ監視ニ限リテ、其期限ヲ計算スルノ方法チ、異ニスヘ
 キノ理ナカルヘキナリ、尙ホ茲ニ一言スヘキコアリ、第三十
 四條第二項ニ、主刑ヲ免シテ、止タ監視ニ付シタルキモ、亦其
 期限間、公權ヲ停止ストノミアリテ、其計算ノ方法チ示サレ
 サルナリ、然レモ停止公權モ、亦茲ニ論セシ所ニ從ヒ、監視ノ
 期限間、之ヲ附加セラレヘキナリ、
 「第三五七號」又刑期限内、再ヒ罪ヲ犯シ、初犯再犯共ニ監視
 ニ付ス可キ時(九五條)又ハ監視ノ期限間、再ヒ罪ヲ犯シ、更ニ

監視ニ付ス可キ時ハ、並ニ主刑満限ノ後、前後ノ期限ヲ通算シテ、監視ヲ執行スルナリ、(附則第三十四條)

〔第三五八號〕 主刑ニ免幽閉、假出獄アリ、剝奪公權ニ、復權アルト一般ニシテ、監視ニモ亦免監視アリ、是レ皆犯人ヲ獎勵シテ、善ニ移リ、過ヲ改メシムル所以ナリ、故ニ主刑ノ重罪ニ係リ、輕罪ニ係ルヲ論スルヲナク、總テ監視ニ付セラレタル者、監視規則ヲ謹守シ、悔改ノ狀アル時ハ、行政ノ處分ヲ以テ、假ニ監視ヲ免スルヲ得、即チ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ、内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ、假ニ監視ヲ免スルヲアリ、(四一條附則三六條)

〔第三五九號〕 然レモ、已ニ監視ヲ免スト雖モ、其以後ニ至リ、不都合ノ所業アルキハ、免監視ヲ取消スコトアルヘシ、是レ第

四十一條ノ法文ニ、假ニノ語アル所以ナリ、且ツ草案第五十二條ニハ、免監視ヲ停止スルヲ得ルノ明文アリ、且ツ其注解ニ曰ク、未ダ罪ヲ犯サスト雖モ、犯人ノ行狀正シカラスシテ、罪ヲ犯スヘキノ情狀アルキハ、再ヒ監視ニ付スルヲ得ヘシト、然レモ假出獄ト異ナリテ、假令ヒ免監視ヲ取消スモ、免監視ノ日數ハ、之ヲ刑期ニ算入スヘキナリ、何トナレハ假出獄ニハ、第五十六條ニ於テ、出獄中ノ日數ハ、刑期ニ算入スルヲ得ストイフノ明文アリト雖モ、免監視ニハ、此明文ナキヲ以テ、犯人ノ爲メニ便利ナルノ解釋ヲ爲サ、ルヘカラサレハナリ、

〔第三六〇號〕 免監視ハ、固トヨリ假ニ監視ヲ免シタル迄テニシテ、眞ニ十分ノ自由ヲ與フルニアラサレハ、若シ犯人、住

居チ轉移セント欲スルハ、警察署ニ申請シテ、其許可ヲ受ケサルヘカラス、又警察署ハ、之ヲ許可シタルキハ、其事由ヲ轉住地ノ警察署ニ通知シ、且ツ監視ノ起算満期ヲ記載シタル文書、並ニ刑名宣告書ノ謄本ヲ遞送スヘキナリ、附則第三十七條

〔第三六一號〕 輕罪ノ附加刑タル罰金ハ、古來東洋ニ是レナキノミナラス、西洋ニモ、亦未ダ見サル所ナリ、罰金ヲ以テ輕罪ノ附加刑トシタルハ、恐クハ我刑法カ其權與ナルヘシ、罰金ト禁錮トヲ以テ、輕罪ノ刑ト爲シ、而シテ之ヲ併科スルハ、世間多シアル所ニシテ、佛蘭西、獨逸、埃及、伊太利等、皆然ラサルハナシ、又我刑法草案ニモ、輕罪ノ罰金ハ、其主刑ニシテ、假令ヒ禁錮ト併科スルキニテモ、尙ホ之ヲ主刑トセラレタリ、然

レモ二個ノ刑ヲ以テ、皆主刑ト爲スハ、理ニ於テ穩ナラサルニ似タリ、今ハ則チ然ラス、罰金ト金錮トヲ併科スルキハ、罰金ハ常ニ禁錮ノ附加刑ナリ、其主刑タルハ、單ニ罰金ノミテ科スルニ限ルナリ、(四二條)

〔第三六二號〕 附加ノ罰金ハ、法律ニ、其多數ヲ定メサルノミナラス、其寡數モ、亦之ヲ定メス、然レモ已ニ論セシカ如ク、主刑ノ罰金ト同ク、其寡數ハ、二圓タルヘキナリ、之ヲ納完セシムルノ方法モ、亦主刑ノ罰金ニ同シ、故ニ若シ一月内ニ納完セサルキハ、第二十七條ノ例ニ照シ、輕禁錮ニ換フ、但シ此輕禁錮ハ、主刑満限ノ後ニ於テ、之ヲ執行ス、第二五八號以下參看)

〔第三六三號〕 又附加ノ罰金ハ、剝奪公權、停止公權、監視等ト

ハ異ナリテ、宣告ヲ用ヒスシテ、當然附加スルモノニハアラ
ス、必ス裁判ヲ以テ、罰金ヲ附加スルヲテ、宣告セサルヘカ
ス、然ラサレハ、各本條ニ於テ、罰金ヲ附加スヘキト雖モ、犯
人ハ、之ヲ附加セラレタルニアラサルナリ、

〔第三六四號〕 裁判宣告ヲ以テ、罰金ヲ附加セラレタルキハ、
主刑ノ罰金ノ如ク、犯人ハ第二十七條ノ例ニ循ヒ、裁判確定
ノ日ヨリ、一月内ニ納完セサルヘカラス、若シ一月内ニ納完
セサルキハ、檢察官ノ求ニ因リ、一圓ヲ一日ニ折算シテ、輕禁
錮ニ換ヘ、主刑滿限ノ後、之ヲ執行ス、而シテ又若シ主刑ノ刑期
内、又ハ罰金ニ換ヘタル禁錮ノ限内ニ、本人又ハ親屬等、代テ
罰金ヲ納メタルキハ、直チニ禁錮ノ命令ヲ取消シ、又ハ其輕
過シタル日數ヲ控除シテ、禁錮ヲ免ス、

〔第三六五號〕 已ニ論セシカ如ク、罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處
分ハ、犯人一月内ニ納完セサルキハ、其情狀ノ如何ニ拘ハラ
ス、必ス禁錮ニ換ヘシムルノ主意ニハアラサルナリ、然ルニ
實際上ノ處分ヲ察スルニ、一月内ニ納完セサレハ、輒チ常ニ
禁錮ニ換フルカ故ニ、有名無實ニシテ、法律ニ於テ、罰金ヲ附
加スルノ主意、立ダサルナリ、主刑ト附加刑トニ論ナシ、法律
ニ於テ、罰金ヲ科スルキハ、成ルヘシ罰金ヲ納メシメサルヘ
カラス、禁錮ニ換フルハ、實ニ萬已ムヲ得サル時ニ限リテノ
處分ナリ、已ムヲ得サルノ處分ハ、容易ニ行フヘキニアラス、
第二十七條ノ例ニ照シテ、禁錮ニ換ヘンヲ求ムルハ、固ト
ヨリ、法律ニ於テ、檢察官ノ意見ニ一任シタルモノニシテ、決
シテ檢察官ハ、之ヲ求メサルヘカラス、

ス、故ニ第二十七條ニハ、檢察官ノ求ニ因リト、アルノミニニシテ、何レノ時迄テニ、此求ヲ爲スヘシト、其期限ヲ定メサルナリ、檢察官ハ、刑ノ期滿免除ニ至ル迄テハ、之ヲ求ムルヲ得ヘク、而シテ其間ハ、成ルヘク罰金ヲ納メシムヘキ手段ヲ盡シ、犯人ノ情狀、實ニ之ヲ納ムルノ資力ナキモノト認定シタルモ、始メテ請求シテ、之ヲ禁錮ニ換ヘシムヘキナリ、然ラサレハ、資力アル者ト雖モ、終ニ罰金ヲ納ムルコトナク、而シテ己ニ主刑ノ重禁錮ヲ受クルカ故ニ、犯人ハ輕禁錮ヲ受クルモ、別段其身ニ困苦ヲ覺フルコトナク、且ツ一日一圓ノ割合ナレハ、却テ好シテ輕禁錮ニ換ヘラレシムコトヲ望ムニ至ルヘシ、然レハ到底懲戒ノ主意、立サルノミナラス、又或ハ處刑ニ因テ、利慾ノ心ヲ長セシムルニ至ルヘキナリ、是レ執法官ノ、最モ意ヲ用

ヒサルヘカラル所ナリ、第二六二號以下參看

〔第三六六號〕沒收ノ刑ハ、既ニ唐律ニ見エ、其以後、明清律ヨリ、我新律綱領ニ至ル迄テ、之ヲ掲ケサルハ、ナシ、西洋ニテモ、羅馬ノ時ヨリ始リ、今ニ之ヲ用ヒタリ、今此刑法ニ用ヒタル沒收ハ、佛國刑法第十一條、第四十七條ニ所謂ル、ふんひそかまよん、そへまあるナルモノニ據リ、折中斟酌シタルモノナリ、我刑法原稿ハ、直チニ佛文ヲ以テ記シタルカ故ニ、ふんひそかまよん、そへまあるトアリ、ふんひそかまよんハ、沒收ナリ、そへまあるハ、特別ナルノ意、即チ之カ直譯ヲ爲セハ、是レ特別ノ沒收ナリ、如此ク特別ノ沒收トイヘルハ、ふんひそかまよん、せねらるナルモノニ對シテノコトナリ、佛國ノ昔時ニハ、ふんひそかまよん、せねらる(一般ノ沒收)ナルモノアリテ、

犯人ノ家産ヲ總括シテ、悉ク之ヲ沒收セリ、然レモ其甚ク酷ナルヲ以テ、千八百十四年之ヲ廢シ、而シテ後世再ヒ之ヲ設クルヲ禁シタリ、故ニ此一般ノ沒收ト區別センカ爲メ、殊更ニ特別ノ沒收トイヒシナリ、然レモ我國ニ於テハ、如此キ區別ヲ要セサルヲ以テ、律文ニハ、特別ノ語ヲ刪リテ、單ニ沒收トノミ記載セラレシナリ、

〔第三六七號〕昔時ハ、何レノ國ニ於テモ、詳ニ沒收ノ例ヲ定メサリシカ故ニ、多クハ無辜ノ人ヲ害スルヲ免カレズ、大ニ刑法ノ原則ト相反セリ、今刑法ニテハ、其第四十三條ニ於テ、詳ニ沒收ノ例ヲ定メラレタリ、是レ無辜ヲ保護スルハ、固トヨリ論ナク、犯人ト雖モ、妄ニ害ヲ受ケサラシメシカ爲メナリ、之ヲ昔時ノ法律ニ比スルニ、大ニ備ハレリトイフヘキ

ナリ、然リト雖モ、尙ホ細ニ律文ニ就テ論スルキハ、未ダ疑義アルヲ免カレズ、實ニ之レカ適用ニ苦シムモノアリ、故ニ先ツ茲ニ其法文ヲ掲ケ、而シテ後之ヲ説明セン、第四十三條ニ曰ク、

- 左ニ記載シタル物件ハ、宣告シテ官ニ沒收ス、但法律規則ニ於テ、別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ、各其法律規則ニ從フ、
- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件、
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件、
- 三 犯罪ニ因テ得タル物件、

〔第三六八號〕又先ツ茲ニ法文ニ就キ、疑義ノ在ル所ヲ掲ケ而シテ後逐次ニ之ヲ説明セン、○第二、第四十三條ノ一項、二項

三項ノ物件ハ、宣告シテ官ニ没収スヘシト雖モ、法律規則ニ於テ、別ニ没収ノ例ヲ定メタル者ハ、裁判宣告ヲ待タズシテ、没収スルヲ得タキヤ、○第二、法律規則ニ於テ、別ニ没収ノ例ヲ定メタル者トハ、此刑法外ノ法律規則ニ於テ、別ニ其特例ヲ定メタル者チイフヤ、又他ノ法律規則ニ特例アリ、若クハ刑法中ニテモ、賭博等ノ場合ノ如ク、特例アルキハ、各其特例ノミニ據リテ、第四十三條ノ常例ハ、之ヲ適用スヘカラサルヤ、○第三、法律ニ於テ、禁制シタル物件トハ、如何、○第四、犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ、如何、○第五、犯罪ニ因テ得タル物件トハ、如何、

〔第三六九號〕此疑義ヲ辨解スルニ就テハ、先ツ佛文原稿ノ直譯ヲ参考セサルヘカラサルナリ、是レ大ニ辨解ヲ便ナラ

シメ、而シテ律意ヲ明ナラシムルニ足レハナリ、

佛文原稿第五十五條 特別ノ没収ハ、決シテ當然アルコトナシ、必ス裁判所ニテ之ヲ宣告スヘシ、没収スヘキ物件、左ノ如シ、

第一 其何人ニ屬スルヲ問ハズ、法律ニ反シテ、製造シ、産出シ、又ハ占有シタル物件、

第二 罪ヲ犯スニ用ヒタル物件、

第三 罪ニ因テ、直接ニ掌握シ、又ハ獲得シタル物件、此二項三項ノ場合ニ於テハ、其所有權カ犯人ニ屬シ、又ハ其所

有者ノ知レサル時ニ限ル、
總テ皆法律ノ別條規ニテ命シタル、他ノ特別ノ没収ノ妨

トナルコトナカルヘシ、

〔第三七〇號〕是レヨリ前ニ掲ケタル問題ニ就キ、説明セシ、第一問、第四十三條ノ一項二項三項ノ物件ハ、宣告シテ官ニ沒収スヘシト雖モ、法律規則ニ於テ、別ニ沒収ノ例ヲ定メタル者ハ、宣告セシテ、沒収スルコトヲ得ヘキヤ、按ズルニ、律文上ヨリ論スルキハ、特例ノ沒収ハ、各其法律規則ニ從テ、宣告スヘキハ宣告シ、然ラサルモノハ、宣告セス、偏ニ特別ノ例ニ據ルヘキニ似タリト雖モ、決シテ然ルニハアラサルナリ、頒布ノ律文ニテハ、其意明ナラスト雖モ、原稿ノ文ヲ考フルキハ明ナリ、原稿第五十五條ニ、沒収ハ、決シテ當然アシコナシ、必ス裁判所ニテ之ヲ宣告スヘシトアリ、此決シテノ語、極メテ重シ、佛語ニ之ヲ収、さめトイフ、さめトイフハ、常ニ無シトイハソカ如キ意ニテ、即チ普通法ニテモ、特別法ニテモ、常ニ

沒収ハ、當然之ヲ爲スコトナキチイフナリ、而シテ之ニ加フルニ、必ス裁判所ニテ之ヲ宣告スヘキノ語ヲ以テセリ、故ニ其意甚ダ廣シ、唯普通法ノ沒収ノミニ限ラサルコト明ナリ、然レモ、我文章ヲ以テ此意ヲ述ヘントスルキハ、煩雜ニ涉リ、語路宣シカラサルヲ以テ、唯左ニ記載シタル物件ハ、宣告シテ官ニ沒収ストノミ、記載セラレシナリ、但書ハ、原稿第五十五條ノ末項ニ、總テ皆法律ノ別條規ニテ命シタル云々トアルヲ、一項ニ掲ケラレシノミナリ、是レ亦其文ハ、先後其地ヲ異ニスト雖モ、其意ヲ變シタルニアラサルコトハ、前ニ論述セシ所ト、參考セハ、自ラ明ナルヘシ、又事理ニ於テモ、普通法ト特別法トヲ問ハス、總テ沒収ハ、他ノ刑ト異ナリテ、必ス宣告ヲ爲サ、ルヲ得サルモノナリ、律文ハ明瞭ナラサルツミナラズ、却

テ特例ノ没収ニハ、宣告ヲ要セストイフニ似タリト雖モ、之ニ拘泥シテ其意ヲ害スヘカラス、且ツ是等ノ事ハ、言渡ノ手續ニ關スルモノニシテ、直チニ罪ト刑トニ關スルモノニアラサレハ、事理ヲ推究シ、彼是ヲ參照シテ、律ノ缺文ヲ補フヲ得ヘキハ勿論、亦必ス如此クスヘキモノナリ、故ニ余ハ何レノ場合ヲ論ゼス、没収ハ必ス皆宣告スヘキモノナリトス、

〔第三七一號〕 第二問ハ、又之ヲ別テ、二項ノ問題ト爲ス、第一項、法律規則ニ於テ、別ニ没収ノ例ヲ定メタル者トハ、此刑法外ノ法律規則ニ於テ、特例ヲ定メタルモノナイフヤ、按スルニ、此一項モ、亦原稿第五十五條ノ末項ニ、總テ皆法律ノ別條規ニテ命シタル、他ノ特別ノ没収ノ妨トナルコトナカルヘシトイフヨリ、來リタルモノナリ、而シテ原稿ニ、法律ノ別條規ト

アルハ、刑法外ノ別規則ト、刑法内ノ特例、即チ賭博罪ノ没収ノ如キモノトニ論ナク、廣ク之ヲ包括シテイフナリ、立案者ハ、刑法原稿第五十五條第四項ノ註解ニ曰ク、第二編第三編ニハ、如此キ特別没収ノ場合ヲ明記スル條多シ、本條ニ於テハ、唯其大要ヲ示スノミ云々ト、此ニ由リ之ヲ視レハ、刑法第二編以下ニ在ル没収ヲモ指スコト明ナリ、又刑法外ノ特例ハ、各其特例ニ據ルヘキハ、理ノ當然ニシテ、且ツ刑法第五條ニ據テモ、亦其意ヲ推スルコトヲ得ヘキナリ、故ニ法律ニ於テ別ニ没収ノ例ヲ定メタル者トハ、刑法外ノ特例ノ没収ト、刑法内ノ特例ノ没収トヲ總稱スルナリ、

〔第三七二號〕 第二項、刑法ノ内外ニ拘ハラズ、他ニ特例アルモノハ、各其特例ノミニ據リ、第四十三條ノ常例ハ、之ヲ適用

械ノ沒収是レナリ、然レモ第五十五條第三項(即チ願行ノ

第四十三條第三項)ニ循ヒ、直チニ犯罪ヨリ生シタル利益

ヲ沒収スルヲ得ルハ、疑ヲ容レサルナリト、

又賭博罪ニ就キ、原稿第二百九十四條第二項ヲ抄譯セシ、

あん^のぞ^り(賭ケ金)ハ沒収スト、又其注釋ニ曰ク、賭博者、其目

前ニ賭ケタル金圓、及ヒ失敗ノ場合ニ備フル函中ノ金圓

ハ、本條ニテ之ヲ沒収ス、是レ此金圓ハ、犯罪ノ手段タルヲ

以テナリ、其賭博ノ器具モ、亦之ヲ沒収スヘキハ、疑ヲ容レ

サルナリト、

〔第三七三號〕 又刑法外ノ沒収ニ就テモ、同様ナルヘシ、例ヘ

ハ坑法ヲ犯シ、擅ニ産鑛ヲ賣却スル者ハ、其全價ヲ沒収シ、又

煙草印紙規則ニ背キ、印紙ヲ賣捌キ、若シハ買受ケタル者ハ、

其物品ヲ沒收シ、又賣藥規則ニ背ク者ハ、製藥賣得金ヲ沒收シ、又牛馬賣買規則ニ背ク者ハ、牛馬ヲ沒收シ、又酒釀規則ニ背ク者ハ、酒類器械ヲ沒收シ、又商船規則ニ背ク者ハ、船及ヒ荷物ヲ沒收スル等ノ類ニ就テモ、此特別法ノ沒收ヲ爲シ、尙ホ刑法ニ循テ、沒收スヘキモノアルキハ、之ヲ沒收ス、加之特別法ニ、沒收ノ例ナキト雖モ、刑法ニ於テ沒收スヘキモノアルキハ、刑法ノ例ヲ適用シテ沒收スヘキナリ、

〔第三七四號〕 又原稿ニ就テ考フルキハ、銃砲彈藥製造ノ罪、賭博ノ罪等ニ於テ、殊更ニ沒收ノ特例ヲ設ケタル所以モ、亦容易ニ之ヲ會得スルヲ得ヘシ、即チ銃砲彈藥製造ノ罪ニ就テハ、製造シタル銃砲ノ類ハ、禁制物ナルヲ以テ、殊更ニ之ヲ記載スルニ及ハスト雖モ、原稿第百九十五條ニ所謂ル、上文



ニ記載シタル一切ノ物件トハ、第百八十九條以下、第百九十四條迄ノ物件ヲ指スカ故ニ、甚ク廣クシテ、總則三種ノ物件ニ限ラズ、又犯罪ノ用ニ供シ、又ハ犯罪ニ因テ得タル物件モ、總則ニ於テハ、其犯人ノ所有ニ係ルキノ外、沒收スルコトヲ得スト雖モ、今其何人ノ掌中ニ在ルヲ問ハス、沒收スルカ故ニ、殊更ニ之ヲ明言シタルナリ、此意ハ、頒行ノ律文第百六十一條ニモ、何人ノ所有ヲ問ハストアルニ據リ、之ヲ知ルヘキナリ、

〔第三七五號〕 賭博ノ罪ニ就テハ、原稿第百九十四條第二項ニハ、賭金ヲ沒收ストアリ、金錢ハ固トヨリ禁制物ニアラサルカ故ニ、總則ニ於テハ、沒收スルヲ得ス、又犯罪ノ用ニ供シタルモノニモアラス、是レ所謂ル罪體ニシテ、賭博罪構成

ノ元素タルモノナリ、故ニ又總則ニ於テハ、沒收スルヲ得ス、
 又必シモ犯罪ニ因テ得タル物件トモイフヲ得サルナリ、何
 トナレハ、賭博ニ勝テ得タル金圓ハ、犯罪ニ因テ得タル物
 件タルヘケレト、其現場ニ在ル金圓、並ニ賭ケタルノミニシ
 テ、勝敗未ダ決セサル間ノ金圓ハ、犯罪ニ因テ得タルモノニ
 アラサレハナリ、故ニ此金圓モ、亦總則ニ於テハ、沒收スルヲ
 得サルモノナリ、如此ク沒收スルヲ得サル物件ヲ沒收セン
 トスルカ故ニ、第二百九十四條ニ特例ヲ示シタルナリ、頒行
 律第二百六十一條ノ意モ、亦決シテ是ニ外ナラサルヘキナ
 リ、

〔第三七六號〕 第三問、法律ニ於テ、禁制シタル物件トハ、如何、
 按スルニ、此禁制物ニハ、先ツ二種ノ別アルヘキナリ、第一、禁

制ノ明文ノアル者、例ヘハ銃砲、彈藥、毒藥等ノ類、第二、禁制ノ
 明文ナシト雖モ、製造所有販賣スルモノハ、之ヲ刑スルカ故ニ、
 自ラ禁制物タル者アリ、例ヘハ猥褻ノ圖畫、偽印、偽書ノ類、是
 レナリ、而シテ明暗ヲ問ハス、此禁制物ニハ、亦自ラ他ノ區別ア
 リ、即チ製造、所有、販賣、共ニ禁制ノ物アリ、銃砲毒藥等ノ如キ
 是レナリ、此物件ハ、何人ノ所有ヲ問ハス、悉ク沒收スト雖モ、
 然レモ、之ニ亦自ラ限界アリ、毒藥ハ、常人ニハ、禁制物ナリト
 雖モ、醫師藥商ニハ、禁制物タルニアラス、故ニ其所有者カ、醫
 師藥商タルモノハ、沒收スルヲ得サルナリ、例ヘハ藥商ノ雇人、
 其主人ノ毒藥ヲ竊取セシモノ如キ是レナリ、其毒藥ハ、藥商
 タル所有者ニ、之ヲ還付セサルヘカラス、

〔第三七七號〕 又公然陳列販賣スルヲ禁制シテ、製造所有ハ、

禁制セサル物件アリ、猥褻ノ圖書ノ如キ是レナリ、故ニ猥褻ノ冊子圖書ヲ公然陳列販賣シタルモ、其陳列者販賣者ノ冊子圖書ハ、禁制物トシテ、之ヲ沒収スト雖モ、他ノ之ヲ所有スル者ノ冊子圖書ハ、沒収スルヲ得ス、何トナレハ、其所有者ニ就テハ、禁制物ニアラサレハナリ、是レ其製造者ニ就テモ、亦同様ナリ、例ヘハ、一畫家アリ、其家ニ在テ、猥褻ノ圖書ヲ作ラシニ、其圖書ハ、之ヲ公然陳列シ、又ハ公然販賣セサル限リハ、之ヲ罪トシ刑スルヲ得ス、故ニ亦之ヲ沒収スルヲ得サルナリ、以上ノ區別モ亦原稿ニハ詳ナリ、

〔第三七八號〕 第四問、犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ如何、接スルニ、原稿ニハ、罪ヲ犯スニ用ヒタル物件トアリ、而シテ立案者ノ註釋ニ曰ク、第二項ハ、罪ヲ遂クルノ具ト爲リタル物件

ニ係ル、即チ殺傷シタル兵器、鎖鑰ヲ破リタル器具、貨幣ヲ偽造シタル器械等、是レナリト、故ニ罪ヲ犯スニ用ヒタル物件ノミチ、沒收スルノ意ナリ、佛國刑律ニハ、罪ヲ犯スニ用ヒ、若クハ之ヲ犯スノ用ニ供シタル物件トアリテ、罪ヲ犯スニ用ヒタル物件ト、之ヲ犯スノ用ニ供ルタル物トヲ沒收セリ、此用ニ供シタル物件ハ、所謂豫備ノ所爲中ノモノニシテ、未ダ罪ヲ犯サス、故ニ又之ヲ用ヒタルニアラス、唯用ヒントスルノ目的ヲ以テ、備ヘ置キタル迄テノモノナリ、豫備ノ所爲ハ、概シテ罪ト爲ラサルモノナレハ、其物件モ亦沒収スヘキモノニアラス、特例アリテ、豫備ノ所爲ヲ罰スル場合ニ於テハ、其豫備ノ所爲ハ、此ニテハ即チ罪ナレハ、又此ニテハ其物件モ、亦自ラ罪ヲ犯スニ用ヒタル物件ト爲ルヘキナリ、故ニ

用ニ供シタルノ物件ヲ沒收スルヲ記載スルハ、唯益ナキ
 ノミナラス、却テ通常ノ場合ニ於テ、豫備ノ物件ヲ沒收セシ
 ムルカ如クニ聞エテ、甚タ語弊アルナリ、是ニ因テ立案者ハ、
 罪ヲ犯スニ用ヒタル物件トノミ記載シテ、佛國刑律ノ罪ヲ
 犯スノ用ニ供シタルノ語ハ、之ヲ刪ラレシナルヘシ、然ルテ
 頒行ノ律文ニハ、却テ犯罪ノ用ニ供シタルノ語ヲ掲ケテ、罪
 ヲ犯スニ用ヒタルノ語ヲ棄テタルハ、何ノ理由ニ基キタル
 コナルヤ、解スヘカラサルコナリ、既ニ犯罪ノ用ニ供シタル
 物件スラ、尙^ホ之ヲ沒收スレハ、直チニ犯罪ニ用ヒタル物件ヲ
 沒收スルコトヲ得ルハ、言ヲ待タサルコナリ、今余カ解スヘカ
 ラストスル所ハ、未ダ用ヒスシテ、唯其用ニ供シタルノミノ
 豫備ノ物件ヲ沒收スルニ在リ、然レモ既ニ前ニモイヘルカ

如ク、豫備ノ所爲ハ、通常法律ノ罰セサル所ナレハ、其物件モ
 亦之ヲ沒收スヘカラサルナリ、故ニ律文ニ拘ハラヌ、實際沒
 收スヘキモノハ、唯犯罪ニ用ヒタル物件ノミナルヘキナリ、
 〔第三七九號〕 又罪體ナルモノアリ、佛國刑法ニテハ、之ヲ沒
 收スト雖モ、我刑法ニ於テハ、之ヲ沒收スルコトナシ、然レモ犯
 罪ニ用ヒタル物件ト罪體トハ、殆ント相類似スル所アルヲ
 以テ、或ハ之ヲ混スルコトナキニアラス、故ニ罪體ノ何タルコ
 ト、詳ニセサルヘカラサルナリ、罪體ハ、佛語ニ之ヲ^ぢみる、^ぢで
 リトイフ、^ぢみるハ形體ナリ、^ぢハ^ぢ接續ノ語ニテ、之ノ義ナリ、
 でありハ罪ナリ、即チ罪之體ナリ、今畧シテ罪體ト翻ス、如此
 シ佛語ニ^ぢみる、^ぢであり、即チ罪體トイヒシハ、是レ猶ホ分析
 學ニ於テ、數個ノ元素、相集テ一物體ヲ爲ストイフカ如ク、罪

モ亦數個ノ條件、相集テ成ルモノナレハナリ、故ニ罪辟構成ノ要件ヲ稱シテ亦元素トイフ、是レ皆分析學ノ語ヲ假リ、以テ之ヲ形容スルナリ、

〔第三八〇號〕 有爲犯罪ト無爲犯罪トニ論ナク、既ニ發シテ外ニ顯ハレタル罪ニハ、必ス有形ノ元素アルヘシ、故ニ又必ス其有形ノ體アルヘキナリ、故ニ罪體トハ、罪ヲ構成スル諸元素ノ集合セルモノナイフ、罪ノ由テ成ル所ノモノナリ、罪アレハ、必ス其體アリ、體ナケレハ、罪モ亦自ラアルコトナシ、例ヘハ故殺ノ罪ハ、二個ノ元素ヨリ成ル、第一殺スノ意、第二人ヲ死ニ致ス事是レナリ、此意ト此事ト、相集リテ、故殺罪ヲ成ス、是レ其罪體ナリ、又竊盜ノ罪ハ、三個ノ元素ヨリ成ル、第一竊取スルノ意、第二他人ノ所有物、第三此所有物ヲ竊取スル

事、若シ此中、一ヲ缺クニ於テハ、盜罪成ルコトナシ、他皆之ニ準シテ、其罪體ノ何タルヲ會得スヘキナリ、

〔第三八一號〕 佛國刑律ニハ、罪體ヲ沒収ストアレド、眞ノ罪體ハ、沒収スヘキニアラス、佛律ニテ罪體トシテ、沒収スルモノハ、罪體中ノ一部タル物件、即チ罪辟構成ノ元素ニ過キサルナリ、例ヘハ官許ヲ得スシテ、製造シタル煙草、火藥、骨牌等ノ如キ、犯罪ニ由テ生シタル物件、又ハ人民ノ占有スルコトヲ禁シタル彈藥、兵器、腐敗シタル飲食物等ノ如ク、犯罪ニ由リ差押ヘタル物件ノ類、是レナリ、是等皆犯罪ニ由テ生シタル物件、又ハ犯罪ニ由テ差押ヘタル物件ニシテ、其罪體中ニ入ルモノ、ミナリ、我刑法ハ、佛律ニ因源スト雖モ、亦大ニ折中斟酌スル所アリ、故ニ眞ノ罪體ヲ沒収セサルハ勿論、罪體中

ニ在テ、罪ヲ構成スルノ元素タル物件モ、亦沒収セサルナリ、然レモ此物件ト雖モ、全ク沒収セサルニハアラス、或ハ之ヲ沒収スルコアリ、但其名義ヲ異ニスルノミ、要スルニ我刑法ハ、罪體中ノ物件ハ、概シテ之ヲ沒収スルコナシ、

〔第三八二號〕 已ニ前ニモ論セシカ如ク、此罪體ヲ識別セシニハ、各本條ニ就キ、律文ヲ熟考シ、如何ナル事件ヲ以テ、罪ノ成立スルヤ、之ヲ認知スルニ在リ、尙ホ茲ニ一二ノ例ヲ掲ケテ、罪體ノ何タルト、其沒収スヘカラサル所以トチ、明ナラシメン、而シテ此例ハ、違警罪ニ就キ、之ヲ擧ケン、是レ殊ニ世人ノ疑義ヲ抱ク所ナレハナリ、第四百二十五條第一ニ曰ク、規則ヲ遵守セスシテ、火藥其他破裂ス可キ物品ヲ、市街ニ運搬シタル者ト、茲ニテ違警罪構成ノ元素ハ、第一規則ヲ遵守セカ

ルコ、第二火藥、破裂質ノ物件ニ係ルコ、第三其場所市街ナルコ、第四運搬シタルコ、是レナリ、此四個ノ條件、具備セサレハ、違警罪ト爲ルコナシ、運搬スルキハ、多少ハ、舟車等ヲ用フルナルヘシ、此場合ニ於テ、此舟車並ニ破裂質ノ物品ハ、之ヲ沒収スヘキヤ、曰ク、舟車物品共ニ沒収スヘカラサルナリ、何トナレハ物品ハ、罪ノ元素ニシテ、所謂ル罪體中ノモノナレハナリ、又舟車ハ、罪ヲ犯スニ用ヒタル物件ニアラサレハナリ、舟車ハ、罪ノ元素タル運搬ノ一事ノミニ用ヒタルモノニシテ、四元素具備スルノ違警罪ニ用ヒタルモノニアラサルナリ、

〔第三八三號〕 某論者曰ク、然ラス、破裂質ノ物品ハ、之ヲ運搬スルニ、舟車ノミヲ以テセス、或ハ之ヲ負ヒ、或ハ之ヲ携フル

モ、亦善ク運搬スルヲ得ヘキナリ、故ニ之ヲ以テ罪體トスルコトヲ得ス、又舟車ハ、四元素具備スルノ違警罪ニ、用ヒタルモノニアラサルカ故ニ、之ヲ沒收スルヲ得ストセハ、人ヲ殺スニ用ヒタル刀ノ如キモ、亦之ヲ沒收スルヲ得サルヘシ、何トナレハ故殺ノ罪ハ、人ヲ殺スノ意ト、人ヲ殺ストノ二元素ヲ以テ、成ルモノニシテ、而シテ其刀ハ、此二元素具備セシ故殺ニ、用ヒタルモノニアラスシテ、罪ノ一元素タル人ヲ殺ストノミニ、用ヒタルモノナレハナリ、故ニ運搬ノ用ニ供シタル舟車ハ、之ヲ沒收スヘキナリト、

〔第三八四號〕 余曰ク、運搬スルノ舟車ト、人ヲ殺スノ刀トハ、自ラ別アリ、已ニ人ヲ殺サンカ爲メニ、刀ヲ用ヒタルコトナレハ、故殺ノ第一元素タル意思ノ用ヲ爲シ、且ツ其第二元素タル

人ヲ殺スノ用ヲ爲シタルモノナリ、故ニ刀ハ則チ故殺罪ヲ犯スニ、用ヒタルモノナレハ、之ヲ沒收スヘキナリ、然レモ舟車ハ、規則ヲ遵守セサルノ用ヲ爲サス、又破裂質ノ物品ノ用ヲ爲サス、又市街ノ用ヲ爲サ、ルナリ、唯運搬ノ用ヲ爲シタルノミナリ、然レモ運搬ノ用ヲ爲スルハ、運搬スルノ意思ノ用ヲ爲シタルコトハ、蓋シ言ヲ待タサルコトナリ、故殺罪ノ刀ハ、人ヲ殺スノ意思アリテ、之ヲ用ヒシコトナレハ、其意思ノ用ヲ爲シタルハ、亦言ヲ待タスシテ明ナルコトナリ、又某論者ノ如ク、舟車ヲ沒收スルコトセハ、第四百二十五條第二ノ場合ニ於テ、破裂質ノ物品、貯藏ノ爲メニ用ヒタル倉庫ノ類モ、亦之ヲ沒收セサルヘカラス、是レ所謂ル不正ニ渉ル勿レ、無益ニ陷ル勿レナル、刑法ノ原則ニ悖ルモノニシテ、酷モ亦

甚シトイフヘキナリ、

〔第三八五號〕第四百二十七條第一項ニ曰ク、濫リニ車馬ヲ疾駆ンテ、行人ヲ妨害シタル者ト、此車馬モ、罪體即チ構成ノ元素ナルヲ以テ、沒収スヘキニアラス、總テ此他ノ場合ニ於テモ、眞個ノ罪體、罪辟構成ノ元素、並ニ罪ヲ犯ス事件中ノ一部ノミニ、用ヒタルモノハ、皆沒収スヘカラサルナリ、

〔第三八六號〕或曰ク、罪體中ノ物件ヲ沒収スルコトヲ得ストセハ、毒殺ノ場合ニ於テハ、其毒物ハ、之ヲ沒収スルコトヲ得サルヘシ、通常多クハ毒物ハ、禁制物ナルヲ以テ沒収スヘシト雖モ、毒物中ニモ禁制物ダラサルモノアリ、夫ノ錫ノ急須中ニ貯ヘタル茶、櫛ノ實ヲ如キ是レナリ、此等ノ毒物ハ、禁制物中ニハ入ラサルモノナリ、而シテ毒ヲ用ヒサレハ、毒殺ヲ爲ス

コト能ハサルカ故ニ、此毒物ハ即チ毒殺構成ノ元素ナルヘシ如何、余曰ク、禁制物ト否トニ論ナク、毒殺ニ用ヒタル毒物ハ、皆之ヲ沒収スヘシ、毒物ハ即チ罪ヲ犯スニ用ヒタル物件ニシテ、罪辟構成ノ元素ニハアラサルナリ、其構成ノ元素ニアラサルコトヲ明ニセシニハ、罪ノ本位ヲ明ニセサルヘカラス、毒殺罪ノ本位ハ、故殺ナリ、夫ノ謀殺ノ謀、毒殺ノ毒ノ如キハ、故殺罪ノ加重ノ情狀ニ過キサルモノナリ、但シ罪ノ加重ノ情狀ト、刑ノ加重ノ情狀トハ、大ニ異ナリ、混スヘカラス、故ニ毒殺ノ毒ハ、即チ其本位タル故殺ヲ犯スニ、用ヒタル物件ナレハ、之ヲ沒収スヘキナリ、

〔第三八七號〕又無意犯罪、即チ過失罪ニハ、犯罪ニ用ヒタル物件アルヘキ理ナシ、其他禁制ノ物件、犯罪ニ因テ得タル物

ルヲ得ルモノナリ、故ニ其所有者ノ圖書ヲ竊取シテ、之ヲ公然陳列販賣スル者アラソニ、此販賣者ハ、刑法ニ於テ之ヲ罰ス。ト雖モ、其尙ホ占有セル圖書ハ、所有者ニ還付セサルヘカラス、又其買取者ノ占有スル圖書モ、之ヲ沒収スルヲ得サルナリ、是レ其所有ハ、法律ノ禁制スル所ニアラサレハナリ、故ニ又遺失物ヲ拾得テ、申告セサル場合ノ如キニ於テモ、例ヘハ其拾得タル懷中物ノ中ニ、猥褻ノ寫眞畫等アラソニ、亦之ヲ其遺失者ニ還付セサルヘカラサルナリ、

〔第三九一號〕 又一體ニ禁制物ナリト雖モ、人ニ關係シテ禁制物ヲラサルモノアリ、銃砲彈藥毒藥ノ如キハ、世間一般ニ禁制物ナレド、陸海軍ハ固トヨリ論ナク、免許製造販賣人、其他醫師藥商等ニハ、禁制物タルニアラス、故ニ是等ノ者ノ銃

砲毒藥ヲ竊取シタル犯人アラソニ、此物件ハ、之ヲ沒収スルヲ得ス、其所有者ニ還付セサルヘカラス、又之ヲ製造販賣スル犯人アリテ、此犯人ヨリ陸海軍、其他免許商等ノ買取シタル件ハ、其買取者ノ所有ニ歸シタル物件ハ、沒収スルヲ得サルナリ、上一人ヨリ、下萬人ニ至ルマテ、決シテ製造シ、販賣シ、所有スヘカラサルモノハ、唯阿片煙ノミナリ、其他ハ人ニヨリテハ、之ヲ製造シ、販賣シ、又所有スルヲ得ヘキナリ、

〔第三九二號〕 故ニ禁制シタル物件ハ、何人ノ所有ヲ問ハス、之ヲ沒収ストアレド、其所有スヘカラサル人ノ所有セルモノ外ハ、沒収スルヲ得サルナリ、又此所有ノ語モ、注意シテ、其場合ニ從テ、之レカ解釋ヲ爲サ、ルヘカラス、第四十四條ノ所有ノ語ハ、原稿ニハあはるちやんぬ、又おるぶりえて等ト

アルヲ、譯シタルモノニシテ、而シテ、おぼるちやんぬ、ぶるぶり
 えてノ二語ハ、共ニ眞ノ所有權アルモノヲ、チイフナリ、所有權
 ノ一ハ、民法ニ於テ論スヘキナレド、茲ニ其大要ヲ一言セ
 シ、所有權ハ、佛語ニぶるぶりえてトイヒテ、其本義ハ固有ス
 ルノ謂ナリ、即チ固トヨリ己レノ有ニ屬スルノ意ニテ、法律
 語ニテハ、使用(セ)ノ權、収益(ズ)ノ權、及ヒ處置(ス)セ
 ば(セ)ノ權ヲ合シテ、之ヲ所有權トイヒ、此三權ヲ有スル人ヲ、所
 有者トイフ、此三權ナクシテ、物品ヲ有スルキハ、之ヲ占有(ハ)ッ
 せ(ズ)よん)又ハ握持(で)たん(ズ)よん)等トイヒ、眞ノ所有ト區別
 ス、而シテ其人ヲハ、或ハ占有者(は)つ(ス)トイヒ、或ハ握持者
 (で)た(ス)ん(ツ)トイフ、等トイフ、我刑法原稿ニハ、皆此文字ヲ區別シ
 テ記載アリ、例ヘハ第百六十條ニモ、所有トアレド、原稿ニハ

はつ(ス)せ(ス)トイフ、即チ占有者ノ語ヲ記載シ、又第百六十一條ニモ、
 原稿ニハ、何人ノ掌中ニ在ルキニテモノ意ニ、記載セラレタ
 リ、故ニ原稿ノ此區別ニ注意シ、而シテ立法官ノ本意ヲ會得ス
 へキナリ、△

〔第三九三號〕又犯罪ノ用ニ供シ、犯罪ニ因テ得タル物件ハ、
 犯人己ニ之ヲ他人ニ讓渡シタルキハ、沒收スルヲ得ス、何
 トナレハ、犯人ノ所有ニ係ラスシテ、他人ノ所有ニ係レハナ
 リ、又沒收ノ言渡前ニ、犯人ノ死去シタルキモ同様ナリ、故ニ
 犯人刀ヲ以テ人ヲ殺シ、而シテ己レモ亦自殺シタルキハ、其刀
 ハ之ヲ沒收スルヲ得ス、是レ其遺族ノ所有物ナレハナリ、
 若シ其遺族ナキキハ、之ヲ官收ス、然レモ官ニ沒收スルハ、刑
 法ノ處分ニ由ルコトニハアラヌ、是レ政府ハ、即チ其犯人ノ相

續人タルニ由ルヲナリ、總テ此等ノ場合ニハ、刑ハ其身ニ止
 マルノ原則ニ循フヘシ、但シ沒没ノ言渡後ニ、死去シタルハ
 ハ、之ヲ追徵沒収ス、是レ罰金ト異ナリ、
 〔第三九四號〕 知覺精神ノ喪失ニ因リ、若クハ十二歳未滿ノ
 幼者ナルニ因リ、其罪ヲ論セサルハ、七八條七九條又ハ自首
 スルヲ以テ、本刑ヲ免スルハ、一二六條一九二條二二六條三
 六條又ハ公訴ノ期滿免除ニ因リ、其消滅スルハ、(治九條)ハ、犯
 罪ノ用ニ供シ、又ハ犯罪ニ因テ得タル物件ハ如何、曰ク此諸
 場合ハ、一概ニ之ヲ論シ難シ、先ツ第一ノ場合、即チ精神ヲ喪
 失シタル者、若クハ十二歳未滿ノ幼者ニ係ル場合ヨリ論セ
 ン、而シテ此場合ニ於テハ、罪アリト雖モ、寛宥シテ其罪ヲ論セ
 サルモノナルヤ、將ク固トヨリ論スヘキノ罪ナキヲ以テ、之

ヲ論セサルモノナルヤ、之ヲ明ナラシメサルヘカラス、蓋シ
 此場合ニハ、其罪ナク、論スヘキノナキナリ、故ニ公判ニ於
 テモ、無罪ノ言渡ヲ爲スヘキノニシテ、免訴ノ言渡ヲ爲ス
 ヘキノニアラス、是レ治罪法第二百二十四條ニ所謂ル、被
 告事件罪ト爲ラサルモノナリ、(治罪法佛文原稿第二百四十
 三條ニハ、其所爲罪ヲ構成セサルキトアリ)自由ナク、思慮ナ
 キ等ノキニハ、罪ヲ構成スルヲナシ、故ニ刑法佛文原稿第八
 十九條、即チ頒行律七八條第九十條(頒行律七九條)ニハ、罪ヲ
 シトアリ、亦以テ立法者ノ意思ノ在ル所ヲ知ルヘキノナリ、已
 ニ無罪トスルハ、其所爲ニ用ヒタル物件、其所爲ニ因テ得
 タル物件ニシテ、犯罪ニ用ヒタル物件、犯罪ニ因テ得タル物
 件ニハアラス、故ニ其沒収スヘカラサルヲハ、是レ論ヲ待タ

サルコナリ、

〔第三九五號〕 又第二ノ場合、即チ自首スルヲ以テ本刑ヲ免
スルキハ、犯罪ニ用ヒタル物件、犯罪ニ因テ得タル物件ハ、之
ヲ沒收ス、是レ律文ニ本刑ヲ免ストアルニ據リ、其罪アルコ
ヲ知ルヘキナリ、且ツ本刑ハ、即チ主刑ニシテ、附加刑ニ對ス
ルノ名ナリ、然レハ本刑ハ之ヲ免スルモ、附加刑ハ之ヲ免セ
サルコ、亦知ルヘキナリ、且ツ第百二十六條、第百九十二條等
ニハ、仍ホ監視ニ付ストアリ、監視ニ付スルホドナレバ、沒收
ヲ爲スモ、亦決シテ妨ナキナリ、然レモ第三ノ場合、即チ公訴
ノ期滿免除ニ至リタルキハ、之ニ異ナリテ、沒收ヲ爲ス能ハ
サルヘシ、何トナレハ其根本タル罪ヲ問フコトヲ得ス、已ニ主
刑モ之ヲ科スルコト能ハス、況ンヤ附加刑ニ於テチヤ、主タリ、

本タルモノ、消滅スルキハ、其從タリ、未タルモノハ、自ラ消
滅スヘキナリ、

〔第三九六號〕 第二ノ場合ニ於テハ、禁制物ヲ沒收スルハ、無
論ナルヘケレモ、第一第三ノ場合ニ於テハ、禁制物ハ如何、已
ニ其罪ノ論スヘキモノナク、又ハ已ニ其本刑ヲ免セラレ、
ニ於テハ、附加刑モ、亦附加スヘキ所以ナカルヘシ、曰ク然リ、
此場合ニ於テハ、沒收ヲ附加スルコトナシ、但シ所有チ禁制シ
タル物件ハ、官沒セサルヘカラス、然レモ之ヲ官沒スルハ、附
加刑ノ沒收ニハアラスシテ、是レ行政上ノ處分ニ係ルモノ
ナリ、故ニ裁判言渡ヲ以テ沒收ヲ爲スニアラス、檢察官又ハ
警察官ニ於テ、其處分ヲ爲スヘキナリ、
〔第三九七號〕 或曰ク、犯罪ノ用ニ供シ、又ハ犯罪ニ因テ得タ

ル物件ヲ、他人ニ質入、書入ト爲シ、又ハ之ヲ他ニ借與シタル
 件、又ハ已ニ他人ニ質入、書入ト爲シ、又ハ他ニ借與シタル物
 件ヲ竊取シ、之ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルキハ如何、其物件
 犯人ノ所有ニ係ルヲ以テ、尙ホ之ヲ沒收スヘキヤ、曰ク、是レ
 所謂ル刑ハ一身ニ止ルノ原則ニ依リ、斷定スルヲ得ヘキ
 ナリ、而シテ大要ハ、皆之ヲ沒收スヘキナリ、故ニ裁判ヲ以テ、之
 ヲ沒收スルヲ言渡スヘシ、然レモ此裁判ヲ以テ、無辜ノ人
 ヲ害スルヲ得ス、故ニ未必ノ條件ヲ以テ、之ヲ沒收スルナ
 リ、是ニ由リ政府ハ、又未必ノ條件ヲ以テ、犯人ノ部理代權人、
 即チ此財産ノミノ相續人ト爲ルナリ、若シ常人ノ間ニ於テ、
 賣買交換等ノトニ係ルキハ、第二ノ所有者タル者ハ、最初ノ
 所有者ニ代リテ、其權利ヲ行フヲ得ルカ故ニ、又其義務ヲ

モ擔當セサルヲ得サルナリ、然レモ未必ノ條件ヲ以テ、沒
 收スルカ故ニ、政府ハ犯人ニ代テ其義務ヲ履行シ、負債ヲ辦
 濟スルニハ及ハサルナリ、犯人義務ヲ履行シ、負債ヲ辦濟シ
 タルキハ、其物件ハ政府ニ屬スト雖モ、犯人若シ負債ヲ辦濟
 セサルキハ、民法ニ從ヒ其物件ハ債主ノ所有ニ歸スヘシ、但
 シ之ヲ公賣シテ餘分アルキハ、其餘分ハ政府ニ屬スヘシ、是
 レ物件ヲ借與ヘタルキモ、亦同様ナリ、貸借ノ期限間ハ、借主
 ニ其物件ヲ收益使用スルヲ許サ、ルヘカラス、或曰ク、然
 テハ、若シ其貸貸ニ係ルキハ、其貸銀モ亦政府ニ屬スヘキヤ、
 曰ク然リ、其貸銀ハ政府ニ屬スヘシ、何トナレハ、沒收ノ裁判
 確定セシキヨリ、其物件ノ所有權ハ、政府ニ屬スレハナリ、
 〔第三九八號〕 又茲ニ一ノ注目スヘキコトアリ、違警罪ニハ、教

唆者、從犯ヲ罰スルコトナシ、故ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件、教唆者從犯ノ所有ニ係ルキハ、之ヲ沒收スルコトヲ得サルナリ、何トナレハ、違警罪ニハ、其實、教唆者從犯タルヘキ者ト雖モ、法律上之ヲ教唆者、從犯トセサルカ故ニ、犯人タルニアラス、犯人タルニアラサルカ故ニ、其所有ノ物件ハ、之ニ之ヲ還付セサルヘカラサルナリ、例ヘハ、一商賈アリ、其賣子ヲ教唆シ、第四百二十八條第四項ノ罪、即チ路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲サシメ、而シテ之ニ其商業ヲ爲スノ資財、並ニ用具ヲ借與センニ、其資財ハ無論、其用具モ亦之ヲ沒收スルコトヲ得サルナリ、是レ恐クハ法律ノ缺典ナルヘシト雖モ、明文ナキ限リハ、之ヲ所有者タル教唆者、從犯ニ還付セサルヘカラサルナリ、

〔第四九九號〕 犯罪ノ用ニ供シ、犯罪ニ因テ得タル物件ハ、所有主アルキハ、請求ナシト雖モ、之ニ其物件ヲ還付スルノ言渡ヲ爲シ、治三〇八條又所有主ナキキハ、之ヲ沒收スト雖モ、若シ所有主ナキニアラスシテ、其未ダ知レサルキハ、如何スヘキヤ、曰ク此場合ニ於テハ、十五年五月十一日司法省丙第二十號達ニ依リ、之レカ處分ヲ爲スヘシ、該達ニ曰ク、犯罪ノ用ニ供シタル物件、及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ、本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ、所有主ヲ發見セサル時ハ、刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ、其本案ノ裁判ト俱ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ、右ノ物件ハ、之ヲ其裁判所々在ノ地、及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ、一年間(公告シタル日ヨリ起算ス)ニ、所有主ヲ發見シタル時ハ、檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付ス可シ、此旨爲心得

相達候事、但檢察官ニ於テ、保存ス可カラサル物件、又ハ保存
ナルニ付、費用ヲ要ス可キ者ト思料スル時ハ、公賣ノ處分ヲ
爲シタル上、其代金ヲ保存シ置ク可シト、

〔第四〇〇號〕 又若シ所有主ノ知レタルモ、犯罪ノ用ニ供
シ、又ハ犯罪ニ因テ得タル物件ハ、輾轉シテ他人ノ手ニ在ル
モノ、及ヒ沒收スヘキモノ、若クハ證據ノ爲メ官ニ保存シ置
クコト必要トスルモノハ、之ヲ官ニ領置スヘシト雖モ、其他
ノモノハ、裁判官、檢察官、司法警察官ニ於テ、實際ノ便宜ニ依
リ、裁判言渡アルマテ、其所有主ヘ假ニ之ヲ下付シテ、之ヲ散
逸セサラシムヘキナリ、(十五年六月二十六日司丙二、四號達)

徵償處分

〔第四〇一號〕 徵償處分トハ、刑事ノ裁判費用、並ニ刑事附帶

ノ私訴、即チ贓物ノ還給損害ノ賠償ニ關スル規則チイフ、故
ニ徵償處分ハ、之ヲ別テ二ト爲ス、一ハ裁判ノ費用ニシテ、一
ハ民事ノ賠償ナリ、而シテ又裁判費用ヲ別テ二ト爲ス、一ハ刑
事ノ裁判費用、一ハ民事ノ裁判費用ナリ、嘗テ論セシカ如ク、
(第一二號)此規則ハ、公法ノ一部タル刑法中ニ在レモ、刑法ニ
アラス、私法ノ一部タル民法中ノモノナリ、公法ハ、公益ニ關
スルノ法律ナルカ故ニ、私ノ契約ヲ以テ犯スヘカラサルモ
ノナレモ、公法ニアラサルモノ、即チ私法ハ、一個人ノ私益ノ
ミニ關スルモノナレハ、私ノ契約ヲ以テ、之ヲ犯スモ妨ナシ、
今此徵償處分ハ、其性質、私法ニ屬スルモノナルカ故ニ、刑法
中ニ在リト雖モ、概シテ私ノ契約ヲ以テ、之ヲ犯スコト得ヘ
キナリ、故ニ被害者ハ、賠償ノ義務ヲ釋放スルコト得ヘク、又

連帶ヲ解シコトヲ得ヘシ、而シテ已ニ釋放シ、又連帶ヲ解キタル
 後ニ至リ、之ヲ取消シ、法律ニ從ハシコトヲ要ムルコトヲ得
 ス、又公商ニ由リ買取シタルキハ、被害者ヨリ、買取者ニ、原價
 ナ償ハサレハ、其物件ヲ還付セシムルコトヲ得サレトモ、買取者
 ハ、原價ヲ受ケスシテ、之ヲ還付スルノ契約ヲ結フコトヲ得ヘ
 シ、而シテ之ヲ結ヒタルキハ、後ニ至リ、法律ヲ犯スモノナリト
 シテ、其契約ヲ取消スコトヲ得サルナリ、

〔第四〇二號〕、又徵償處分ハ、專ラ便宜ニ基キテ、設定セラレ
 タルモノニシテ、眞個ノ道理ニハ反スルモノ多シ、而シテ是レ
 偏ニ刑事附帶ノ私事ノミニ適用スヘキモノニシテ、純粹ノ
 民事ノ訴ニハ適用スヘキモノニアラサルナリ、故ニ刑法附
 則第五十五條ニ所謂ル、公商ニ由リ買取シタル物品ハ、被害

者ヨリ、買取者ニ、原價ヲ償ハサレハ、還給セシムルコトヲ得サ
 ルノ規則、又其第五十九條ニ所謂ル、失火ノ爲メニ生シタル
 損害ニハ、賠償ヲ請求スルコトヲ許サ、ルノ規則ノ如キハ、民
 事裁判所ニ於テスル訴ニハ、之ヲ適用スヘカラサルナリ、又
 治罪法ニ掲クル私訴ニ係ルノ規則モ、同様ニシテ、民事裁判
 所ノ訴ニハ、適用スヘカラサルモノアリ、例ヘハ治罪法第十
 六條ニ於テ、惡意重過失ノキニ限リテ、賠償ヲ要ムルコトヲ許
 スノ規則ノ如キ、是レナリ、刑事裁判所ニ於テ、公訴ニ附帶シ
 テ、私訴ヲ爲サントスルキハ、公商ニ由リ買取シタル者アル
 キハ、公商若シハ被害者、其原價ヲ償ハサレハ、其物件ヲ取戻
 スコトヲ得ス、又失火ニ係ルキハ、其賠償ヲ要ムルコトヲ得スト
 雖モ、民事裁判所ニ訴ヲ爲サントスルキハ、原價ヲ償ハスシ

テ、直ナニ取戻スヲ得ヘシ、又失火ノキモ、其賠償ヲ要ムル
ヲ得ヘキナリ、又刑事裁判所ニ於テハ、惡意重過失ノキニ
アラサレハ、要償ノ訴ヲ爲スヲ許サスト雖モ、民事裁判所
ニ於テハ、善意輕過失ノキニテモ、要償ノ訴ヲ爲スヲ許ス
ヘキナリ、

〔第四〇三號〕 何チカ、眞個ノ道理ニ反シ、何チカ、便宜ニ基キ
タルトイフヤ、曰ク、治罪法第四條ニ於テ、公訴ニ附帶シテ、刑
事裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ許シタルハ、是レ已ニ其大本ニ
於テ、道理ニ反シテ、便宜ヲ主トシタルナリ、刑事裁判所ハ、刑
事ノ裁判ヲ爲ス所ニシテ、民事ノ裁判ヲ爲ス所ニハアラサ
ルナリ、民事ノ裁判ハ、民事裁判所ニ之ヲ爲スヘシ、是レ當然
ノ道理ナリ、然ルニ刑事裁判所ニ於テ、民事ノ裁判ヲ爲スハ、

裁判官、檢察官、民事原告人ノ爲メニ、便利ナルノミナラス、又
被告人ノ爲メニモ、便利ナルヲ以テナリ、即チ一事件ヲ、二個
ノ裁判所ニ於テ裁判セハ、其一裁判所ハ、畢竟無益ノ事務ヲ
處分スルナリ、無益ノ事務ノ爲メニ、必要ノ時日ヲ費シ、事務
煩劇ニシテ、而シテ其淹滞ヲ來スヘキナリ、又檢察官ハ、民事原
告人ノ舉證ニ依リ、刑事ノ證據ヲ得ヘシ、民事原告人モ、亦檢
察官ノ舉證ニ依リ、民事ノ證據ヲ得ヘキナリ、且ツ民事原告
人ハ、二個ノ裁判所ニ出頭スルノ勞ヲ省クヘシ、又被告人モ、
二個ノ裁判所ニ出頭スルノ勞ヲ省キ、費用モ亦從テ減シ、又
一個ノ答辨、一人ノ代言人ヲ以テ、二個ノ訴ニ應スル等ノ便
利アルヘキナリ、如此キノ便利アルヲ以テ、刑事裁判所ハ、固
ト民事ノ裁判ヲ爲スヘキ所ニハアラサレ、之ニ私訴ヲ爲

スナリテ許シタルナリ、故ニ刑事裁判所ニ於テスル詞訟ハ、簡明ノモノナラサルベカラズ、然ルニ純平タル民法ノ理論ヲ提出シテ、其裁判ヲ求ムルコトヲ許サハ、刑事裁判所ハ、實ニ其煩雜困難ニ堪エサルヘキナリ、若シ此煩雜困難ナルコトヲ顧ミスシテ、刑事裁判所ニ、民事ノ裁判ヲ爲サシメナハ、刑事裁判所ハ、唯名ノミニシテ、其實、民事ノ裁判ヲ以テ主ト爲シ、而シテ旁ラ刑事ノ裁判ヲ爲スカ如キニ至リヌヘシ、是レ徵償處分、其他治罪法ノ變則ヲ設ケタル所以ナリ、其道理ニ反スル所以ハ、各事件ニ就キ尙ホ後ニ之ヲ論スヘリ、

〔第四〇四號〕 刑事ノ裁判費用ヲ、犯人ニ科スルコトハ、往古ハ唯東洋ニナカリシノミナラズ、西洋諸國ニ於テモ、曾テ見サル所ナリ、西洋ニテ之ヲ犯人ニ科シタルハ、蓋シ西曆十八世紀

ノ末ナルヘシ、今我刑法ニ於テ、之ヲ犯人ニ科スルノ規則ヲ設ケラレタルハ、是レ佛國ノ法律(佛刑、五二條、五五條、四〇六條、佛治、一六二條、一七六條、一九四條、三六八條)ニ、因源セシコトニシテ、而シテ如此ク、犯人ニ刑事ノ裁判費用ヲ拂ハシムルハ、是レ即チ人ヲ害スルナキノ原則ニ基クモノナリ、犯人ノ過失ニ由リ、刑事ノ訴ヲ生シ、爲メニ其費用ヲ要スルニ至リシコトナレハ、犯人ヲシテ、之ヲ拂ハシムルハ、蓋シ當然ノコトナルヘシ、(四五條)

〔第四〇五號〕 犯人ヲシテ、刑事ノ裁判費用ヲ拂ハシムルコトハ、當然ナリト雖モ、其費用ハ、公訴事件ニ直接ニシテ、且ツ必要ナルモノ、ミニ限ルヘシ、故ニ例ヘハ裁判所ノ職權ヲ以テ、無益ノ證人、無用ノ鑑定人等ヲ召喚シタルキ、又ハ裁判ノ

不當ナルヲ以テ上訴シ、其裁判ノ破毀セラレタルモ、又ハ檢察官誤テ上訴シ、其不當ナルモ、如キ場合ニ於テハ、其費用ハ官ニテ之ヲ擔當セサルヘカラス、何トナレハ是レ皆官ノ誤ニ出ルノ費用ニシテ、犯人ノ過失ニ由リ、直接ニシテ且ツ必要ナルノ費用ニハアラサレハナリ、故ニ法文ニ曰ク、刑事裁判ノ費用ハ、其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スト、

〔第四〇六號〕 法文ニ、其全部又ハ幾分ヲ、犯人ニ科ストアルカ故ニ、全ク費用ヲ免スルコトナシ、然レモ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スルハ、其刑ノ言渡ヲ受ケタルモ、限ルコトニシテ、無罪ノ言渡ヲ受ケタルモ、固トヨリ論ナク、假令ヒ犯人タリト雖モ、免訴ノ言渡ヲ受ケタルモ、全ク其費用ヲ免スヘキナリ、何トナレハ、免訴ノ言渡ヲ受クヘキ者ニ對シテ、公訴

ヲ起シタルハ、是レ檢察官ノ誤ナレハナリ、免訴ノ言渡ヲ受クルモ、罪ナキニアラス、又固トヨリ犯人ニ過失アリト雖モ、其公訴ハ已ニ法律上消滅シテ起スヘカラサルモノナリ、然ルニ之ヲ起シタルハ、是レ法律ニ違ヒタルコトナリ、故ニ其費用ハ官ニテ之ヲ擔當セサルコトヲ得サルナリ、而シテ此費用ハ裁判所ヨリ支出ス、治三〇七條十五年七月七日司丙二六號達

〔第四〇七號〕 刑事ノ裁判費用ノ額ハ、刑法附則第四章第四十八條以下ニ據リ、之ヲ定ム、故ニ今其法文ヲ略述セン、刑事裁判費用トハ、豫審公判ニ就キ、呼出シタル證人、醫師、鑑定人、通辨人、翻譯人ニ給與スヘキ日當、旅費、止宿料、並ニ證人、日稼ヲ以テ、生業トスル者ニシテ、治罪法第九十條ニ從ヒ、償金

ヲ要求スルキハ、其償金、及ヒ解剖、舍密等ノ爲メ費用ヲ要シ
又ハ翻譯ノ爲メ、數多ノ時間ヲ要スルキハ、其費用翻譯料ヲ
イフ、而シテ其日當、旅費、止宿料ノ金額ハ、左ノ如シ、

日當、五拾錢、
旅費、一里拾錢、

止宿料、一宿貳拾五錢、

居住、三里以外ノ地ニ在ル者ハ、往復旅費ヲ給シ、及ヒ呼出ノ
地ニ滞在中ハ、日當並ニ止宿料ヲ給ス、其三里未滿ノ地ニ在
ル者ハ、旅費止宿料ヲ給セス、(附則四八條四九條)

〔第四〇八號〕 又法文ニ刑事ノ裁判費用トイヘルハ、是レ公
訴ニ係ル裁判費用、并ニ公訴附帶ノ私訴事件ニ係ル裁判費
用ヲ總稱スルナリ、而シテ私訴ノ裁判費用ハ、民事ノ規則ニ從
テ、敗訴者ニ、之ヲ擔當セシム、(治三〇七條)而シテ所謂ル民事ノ

規則ニ從フトハ、是レ即チ己レノ過ヲ以テ、他ニ損害ヲ受ケ
シメタルキハ、之ヲ償ハサルヘカラス、(原則ニ從フ)ナ
イフモノニシテ、而シテ此原則ハ、十一年十二月二十日丁第四
十四號、十二年十一月二十一日丁第二十八號、司法省達ニ於
テモ、認定セシ所ナリ、但シ犯罪ニ原由スルト雖モ、民事裁判
所ニ私訴ヲ爲シタルキハ、總テ九年四月二十二日司法省甲
第五號布達訴訟入費償却規則ニ據ルヘキナリ、今其民事ニ
係ルヲ以テ、茲ニハ略シテ之ヲ掲ケス、(第四四二號以下參看
〔第四〇九號〕 是ヨリ、民事ノ賠償ヲ論ゼン、凡ソ己レカ過ヲ
以テ、他人ニ損害ヲ加フルキハ、之ヲ償ハサルヘカラス、是レ
實ニ事理ノ當然ニシテ、何レノ國何レノ時ヲ論ゼス、皆然ラ
サルハナシ、故ニ支那ニ在テハ、唐律ヨリ清律ニ至ルマテ、皆

給没贓物ノ例アリ、又我國ニ於テモ、新律綱領ハ勿論、徳川氏ノ時ニモ、贓物ハ之ヲ其主ニ還付セシメタリキ、科條類典下、五十六號、享保六年同七年極、盜人御任置之事トイヘル條ニ曰ク、一、都て盜物之品ハ、被盜候もの如、相返可申候、金子遣捨候ハ、可爲損失、勿論盜物取戻候共、無差別、左之通御仕置可申付事云々、故ニ被告人ハ、免訴無罪ノ言渡ヲ受クルルト雖モ、被害者ハ、民法ニ從ヒ、賠償返還ヲ要ムルコトヲ得ヘキナリ、(刑四六條治八條)故ニ先ツ民法ニ從ヒ、被害者カ賠償返還ヲ要ムルノ權利ヲ有シ、又被告人カ此義務ヲ負フ所以ノ理ヲ説明セン、蓋シ權利義務ハ、其語ニ自他ノ別アルノミニシテ、其本トニアアルニアラサルナリ、左ニ之ヲ論セン、

〔第四一〇號〕 權利ハ、佛語どろあノ譯語ナリ、此どろあハ、た

ぶりがまよんトイヘル語ニ、對スルモノニシテ、而シテ他ヲシテ物ヲ與ヘシメ、又ハ事ヲ爲サシメ、又ハ事ヲ爲サ、ラシムル所以ノモノナリ、どろあハ、本ト正直曲ラサルノ義ニシテ、轉シテ法律ト爲リ、又轉シテ權利ト爲リシナリ、是レ蓋シ權利ハ、直道正理、即チ法律ニ依ラサレハ、立ツ能ハサルモノナレハナリ、故ニ今ノ權利ナルモノハ、古ノ所謂ル權利トハ、大ニ異ナル所アリ、史記灌夫傳曰、宗族賓客、爲權利橫于潁川、漢書桑弘羊傳贊曰、桑大夫、據當世合時變、上權利之略、雖非正法、鉅儒宿學不能自解、唐書崔從傳曰、從、爲人嚴偉、立朝稜々有風望、不喜交權利、韓愈順宗實錄曰、王叔文、以武元衡在風憲、欲使附已、使其黨誘以權利、元衡不爲之動、是レ皆威權勢力ヲ主トスル、不正ノコトニシテ、其事ヲ爲サシメ、物ヲ與ヘシムルノ結

果ニ至テハ、同一ナルヘケレト、夫ノどろあナルモノトハ、實ニ天地懸隔ス、即チ一ハ威力ヲ主トシ、一ハ正法ヲ以テ、本ト爲スモノナリ、然レトモ是レ權利ナル語ノ由リ來ル所ナリ、學者之ヲ知ラサルヘカラス、

〔第四一號〕
「ねぶりがまよんハ、本ト束縛ノ謂ナリ、今或ハ義務ト譯シ、或ハ責務ト翻ス、即チ義ニ於テ、必ス物ヲ與ヘ、又ハ必ス事ヲ爲シ、又ハ決シテ事ヲ爲サ、ルヘキコトイフ、近頃漢譯ノ法國律例ヲ閱スルニ、皆之ヲ譯シテ、責務トセリ、是レ其務ムヘキヲ務メサルニ於テハ、其責ニ任シ、其束縛ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テナルヘシ、義務ノ語ハ、漢籍ニハ曾テ見サル所ナリ、或曰ク、義務ハ論語ヨリ出テタルモノナリ、雍也篇ニ曰ク、務民之義ト、是レ其出處ナリト、果シテ然ルヤ

否ヤ、今世間ノ通譯ニ從ヒ、又漢譯ノ例ニ依リ、此書中、或ハ義務トイヒ、或ハ責務トイフ、皆同シ、

〔第四一二號〕
「權利義務ハ、一條ノ索ニ喩フヘシ、其本ト二物アルニハアラサルナリ、即チ甲乙兩造ノ間ニ張リタル、一條ノ索ニシテ、甲ハ之ヲ以テ、乙ヲ束縛スルコトヲ得ヘク、又乙ハ之レカ爲メニ、束縛セラルヘキモノナリ、束縛スル人ヲ、人權者トイヒ、束縛セラル、人ヲ義務者トイフ、然レトモ世間多クハ權利者ト譯シ、人權者ト譯スルモノ少シ、此書中亦或ハ人權者トイヒ、或ハ權利者トイフ、人權者ノ地位ヨリイヘハ、此索ハ即チ權利ニシテ、而シテ義務者ノ地位ヨリイヘハ、是レ即チ義務ナリ、故ニ義務ヲ生スル原由ハ、即チ又是レ權利ヲ生スルノ原由ナリ、然レトモ權利ニ二種ノ別アリ、一ヲ物權トイ

ヒ、一チ人権トイフ、此別ニ從テ、之ヲ生スルノ原由モ亦異ナリ、玆ニ論セシ所ハ、是レ人権ナリ、人権ハ義務ト相對スルモノナレド、物権ニハ其對ナシ、而シテ人権物権ノ別ヲ明ナラシメンコトハ、其本タル財産ノ何タルコトヲ、説カサルヘカラス、故ニ先ツ財産ノ何タルコトヲ説明シ、次キニ物権人権ヲ生スル所以ヲ説明シ、而シテ後ニ之ヨリ生スル訴權ノコトヲ説明スヘシ、

〔第四一三號〕 凡ソ財産(佛語ビゐん)ニ二種ノ別アリ、一チ物権(佛語どろあ、きえる、又之ヲ解シテ、物上權、佛語どろあ、きえる、ら、ま、い、ぞ)トイヒ、一チ人権(佛語どろあ、べるそねる、又之ヲ解シテ、對人權、佛語どろあ、みんとる、ら、べるそんぬ)トイフ、是レ文明諸國ノ律法論說、共ニ認ムル所ニシテ、而シテ亦我民法草

案(第二編第一條)ニモ、明記セル所ナリ、且ツ假令ヒ律ニ明文ナク、學士亦是レカ別ヲ爲スコトナキモ、當然ノ理ニ於テ、必ス是レナカルヘカラサルモノナリ、我國ニ於テハ、未ク制法ニ此別ヲ設ケスト雖モ、人アレバ此ニ財アリ、己ニ財産アル以上、此別ナキヲ得ス、唯人ノ之ヲイフモノナキノミ、然リ而シテ近時ハ、學士已ニ之ヲ論シ、章案タリト雖モ、民法ニモ、亦已ニ之ヲ示セリ、然レバ財産ニ就キ、是レカ別ヲ爲シ、而シテ其別ニ從テ、各其結果ヲ異ナラシメ、以テ賠償處分ノ説ヲ爲スハ、決シテ不可ナカルヘキヲ信スルナリ、故ニ先ツ此ニ財産、並ニ物権人権ノ何タルヲ解カシ、而シテ此解ハ、故ラニ余カ辦チ費スヲ須ヒス、民法草案、簡明ニ之ヲ盡セリ、左ニ之ヲ抄譯セシ、

民法草案第一條 財産トハ、各人、合會、國、州、邑、若シハ公立
所ノ家産ヲ成ス權利チイフ、

此權ニ二種アリ、物權人權是レナリ、

同第二條 物權ハ、直チニ物上ニ行ハレ、又諸人ニモ對抗
スルヲ得ルモノニシテ、此權ニ主アリ從アリ、
主タル物權云々、

同第三條 人權ハ、法律ノ認ムル原由ニ依リ、特定ノ人カ
負擔シタル爲事、不爲事ノ義務ヲ盡サシメシカ爲メ、其人
ニ對シテ、行フモノニシテ、亦主アリ從アリ、
主タル人權云々、

故ニ財産ハ、即チ權利ニシテ、而シテ此權利ニ二種アリ、一チ物
權トイヒ、一チ人權トイフ、物權ハ直チニ物品ニ就テ有スル

モノナレハ、其物品輾轉シテ、何人ノ手ニ涉ルモ、之ヲ占有握
持スル者ニ係リテ、取戻スコトヲ得ヘシト雖モ、人權ハ之ニ異
ナリ、即チ人權ハ、定リタル義務者ニ係リテ、其義務ヲ盡サシ
メカ爲メ、之ヲ行フコトヲ得ルノミノモノナリ、

〔第四一四號〕 凡ソ物權ヲ得ルノ方法ニシテ、而シテ各國ノ法
律ニ於テ認定セルモノ、八個アリ、左ノ如シ、

第一 占領(れきりばえ)、未ダ曾テ人ノ所有ニ係ラサル
物ヲ、初メテ得ルコトヲイフ、今日ニ在テハ、河海ノ魚介、山野
ノ鳥獸ニアラサレハ、占領シテ得ルコトナカルヘシ、
第二 附加(おくせえ)、他人ニ屬スルト否トヲ問ハス、
總テ他人ノ物件ノ、我物件ニ附加スルヲ以テ、我有トスルコ
トヲイフ、舊譯、主ニ依リ從ヲ合ハスノ權、佛國民法第五百四

十七條以下參看)

第三 財産相續(まぐせまよん、之ヲ別テ、正統ノ相續、遺囑ノ相續トス)

第四 契約(みんどら、之ヲ別テ、有報ノ契約、無報ノ契約トス)

第五 引渡(どらぢまよん、得代物、量定物ニ係ルキハ、引渡ヲ得サレハ、所有權ヲ得ル能ハス)

第六 時効(おそくりおまよん、又期滿免除、期滿所得ノ譯アリ、此時効ナルモノハ、法律ノ推測ニシテ、之ニ二種アリ、一ヲ免除ノ時効トイヒ、一ヲ獲得ノ時効トイフ)

第七 埋藏物發見(えんわんまよん、ど、おそる、地中水中ニ埋没シテ、其所有主ヲ知ラサル物件ヲ發見シテ、之ヲ

我有トスルコトイフ)

第八 法律(ろあ)

我國ニ於テハ、法制未タ備ハラスト雖モ、凡ソ物權ヲ得ルノ方法ハ、此八個ニ過キサレヘキナリ、

〔第四一五號〕 人權ヲ得ルノ方法、即チ義務ヲ生スルノ原由

四個アリ、是レ亦各國ノ法律ニ於テ、認定セル所ニシテ、而シテ我民法草案第三百十六條ニモ、之ヲ以テ義務ノ原由トセラレタリ、其原由左ノ如シ、

第一 契約、

第二 不正ノ利得(あんりまよまん、えんぢ、佛國民法ニ所謂ル、かま、みんどらナリ、かま、みんどらハ、准契約ト譯ス)

第三 故意、又ハ不注意ヲ以テ、生セシメタル不正ノ損害、

(どまぎ、ぎろんてる、どまぎ、えんをろんてる、佛國民法ニ所謂ル、でり、かぎ、でりナリ、でりハ犯罪ト譯シ、かぎでりハ准犯罪ト譯ス)

第四 法律

〔第四一六號〕 凡ソ罪ヲ犯ス者アルキハ、茲ニ二個ノ訴權ヲ生ス、一ハ公訴ニシテ、面メ此公訴ハ、社會公衆ノ共有スル所ニシテ、檢察官ノ行フモノナリ、一ハ私訴ニシテ、而シテ此私訴ハ、則チ被害者ノ家産中ノモノニシテ、之ヲ行フ者モ、亦被害者ナリ、(治一條二條)蓋シ私訴ノ體ハ、物權人權ニシテ、而シテ物權人權ノ用ハ、是レ私訴ナリ、物權人權ハ、私訴ニ依テ、其效ヲ顯ハシ、私訴ハ、物權人權ニ由ラサレハ、行フヲ得サルモノナリ、但シ物權人權ノ用ハ、私訴ノミナラス、私訴ハ却テ其用

ノ末ナルモノナリ、物權ニ就テハ、物件ヲ使用シ、収益シ、處置スルハ、是レ其用ノ本ナルモノナリ、此使用、収益、處置ノ權ハ、第四百十四號ニ掲ケタル方法ニ由テ得ル所ニシテ、而シテ此權ニ妨害ヲ受ケルキハ、茲ニ始メテ私訴其用ヲ爲スナリ、又人權ニ就テハ、義務者ヲシテ、其義務ヲ盡サシムルハ、是レ其用ノ本ナルモノニシテ、而シテ、義務者カ其義務ヲ盡サ、ルニ至テ、又茲ニ始メテ私訴其用ヲ爲スナリ、故ニ物權人權ノ用ニモ、其常ニ係ルモノト、其變ニ係ルモノトノ別アルナリ、〔第四一七號〕 私訴ハ、物權人權ト體用ヲ爲スモノニシテ、而シテ所謂ル不正ノ利得、不正ノ損害ヨリ、生スルノ權利ナリ、凡ソ罪ニハ、公益ヲ害スルノミノモノト、公私兩益ヲ害スルモノトノ二種アリ、公益ヲ害スルノミノ罪ニハ、唯公訴アリテ、

私訴アルコナシ、公私兩益ヲ害スルノ罪ニハ、公私ノ二訴アルナリ、而シテ私訴ハ、私害ヲ償ハシメシテ目的トシ、而シテ之ヲ有スル者ハ、即チ一人民ナルヲ以テ、私訴（あくまよん、ぶりう）ノ名アリ、故ニ私訴ハ、犯罪ニ原由スルノ私害ヲ償ハシムルノ訴トイフノ意ナリ、

〔第四一八號〕 贓物ノ返還、損害ノ賠償ハ、即チ私害ヲ償ハシムル所以ニシテ、而シテ贓物ノ返還ハ、多クハ物權ニ屬シ、損害ノ賠償ハ、悉ク人權ニ屬ス、物權ニ屬スルノ訴ハ、何人タルヲ問ハス、物品ノ占有者ニ對シテ、直チニ之ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ、人權ニ屬スル訴ハ、刑事ノ被告人、若クハ其代理人（民事擔當人、相續人）ニ對スルニアラサレハ、之ヲ行フコトヲ得ス是レ物權人權ノ別ヨリ生シ來ル、自然ノ結果ナリ、通常ハ何

レノ場合ニ於テモ、皆此別ニ從テ訴ヲ爲スヘキナリ、我法律ニ於テハ、贓物ノ返還、損害ノ賠償ヲ以テ、其名ヲ別タレタリト雖モ、要スルニ是レ皆同一事ナリ、贓物ノ返還ハ即チ是レ損害ノ賠償中ノ一ニシテ、而シテ損害ノ賠償ニハ、亦自ラ贓物ニ返還アリ、故ニ概言スルニハ、賠償ノ一語ニシテ、二意ヲ盡シテ得ヘシ、而シテ此賠償ニ就キ、其物權ニ係ルモノト、人權ニ係ルモノトヲ別ツヘキナリ、

〔第四一九號〕 其物權ニ係リ、人權ニ係ルノ別ヲ爲サシニハ、此權利ノ根據タル物品ニ就キ、一ノ區別ヲ爲サ、ルヘカラズ、此區別モ、亦民法草案ニ之ヲ詳悉セリ、故ニ其第十七條ヲ抄譯セン、

第十七條 物ハ、視ル所ニ從テ、左ノ區別ヲ生ス、